

令和4年度

市原市内遺跡発掘調査報告

きたろくはら

北六原遺跡

なかで

中台遺跡（第5次）

こおりもと

郡本遺跡群（第29次）

いちはらじょう

市原城跡

いなりだい

稲荷台遺跡（R地点）

いちはらこどう

市原古道遺跡

しまばら

島原遺跡（第2次）

のうまん

能満遺跡群（上人塚地点）

じょうにんづか

せんだいばら

仙台原遺跡

2023

市原市教育委員会

例言・凡例

- 1 本報告書は、国庫及び県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会教育振興部文化財課埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 本書所収の調査は以下の通りである。所在地等の諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。
 - (1) 北六原遺跡(調査コード セ595)
確認調査 26.2 m²/262.15 m²
調査期間：令和4年2月17日～令和4年3月1日 担当 鈴木宏和
 - (2) 北六原遺跡(調査コード セ596)
本調査 65 m²
調査期間：令和4年4月14日～令和4年4月28日 担当 鈴木宏和・川上知哉
 - (3) 中台遺跡(第5次)(調査コード セ597)
本調査 70 m²
調査期間：令和4年5月9日～令和4年5月31日 担当 鈴木宏和・川上知哉
 - (4) 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡(調査コード セ598)
確認調査 66.1 m²/661 m²
調査期間：令和4年6月8日～令和4年6月28日 担当 鈴木宏和・川上知哉
 - (5) 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡(調査コード セ599)
確認調査 140.683 m²/1,406.83 m²
調査期間：令和4年8月1日～令和4年8月12日 担当 鈴木宏和・川上知哉
 - (6) 島原遺跡(第2次)(調査コード セ600)
確認調査 84.2975 m²/842.975 m²
調査期間：令和4年9月1日～令和4年9月16日 担当 鈴木宏和・川上知哉
 - (7) 能満遺跡群(上人塚地点)(調査コード セ602)
確認調査 179.7 m²/1,797 m²
調査期間：令和4年10月11日～令和4年10月28日 担当 鈴木宏和
 - (8) 仙台原遺跡(調査コード セ604)
確認調査 500.7891 m²/5,007.891 m²
調査期間：令和4年11月10日～令和4年12月9日 担当 川上知哉
- 4 整理作業・本文執筆は(8)を川上が行い、それ以外及び編集は鈴木が担当した。
- 5 各遺跡の調査に際し、基準点測量を実施したのは郡本遺跡群(第29次)・市原城跡である。
 - (1)～(3)及び(5)～(7)は、遺跡近隣の市原市管理の既知点から座標値及び水準を求めて使用している。(8)の調査に際しては基準点測量を実施していない。そのため、図中に示す北方位は、地形図等から求めたものであり、厳密なものではない。

- 6 出土遺物と記録類は、市原市教育委員会教育振興部文化財課埋蔵文化財調査センター（千葉県市原市能満1489番地）で収蔵・保管している。
- 7 (1)の北六原遺跡(確認調査)は前年度の調査であるが、年度後半であったため今年度の整理・報告とした。
- 8 遺物写真図版の縮尺は、基本的に実測図に準じる。
- 9 中台遺跡(第5次)の出土瓦観察表に記載している4隅の残存部位の分類については、「上総国分僧寺跡Ⅱ」(市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第36集・上総国分寺台遺跡調査報告XXVII)の分類方法に準拠している。
- 10 平面図及び土層断面の「K」は攪乱を示している。
- 11 本書で示す北は座標北である。また、水準は海拔からの高さを示す。
- 12 座標値は世界測地系に基づきm単位で表示している。
- 13 本書内において、()を付した数値は残存値、?を付した数値は推定値を表す。
- 14 土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社による。
- 15 挿図におけるスクリーン・トーン・遺物表示の用例は下記による。
- 16 第32図-79(図版16-79)の遺物に関しては、大西遼氏にご教示を賜った。

凡 例

遺構(平面図及び断面図)	遺物
炉火床面 焼土 柱当たり 硬化面	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 25%;"> 赤彩 <li style="width: 25%;"> 内黒 <li style="width: 25%;"> 須恵器断面 <li style="width: 25%;"> 灰釉 <li style="width: 25%;"> 緑釉 <li style="width: 25%;"> 灰釉・緑釉断面 <li style="width: 25%;"> 中・近世陶器断面 <li style="width: 25%;"> スス・油染み <li style="width: 25%;"> 鉄製品断面 <li style="width: 25%;"> 割れ口

本文目次

1	調査遺跡の位置と概要	1
2	北六原遺跡(確認調査)	3
3	北六原遺跡(本調査)	7
4	中台遺跡(第5次)	16
5	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡	30
6	稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡	43
7	島原遺跡(第2次)	48
8	能満遺跡群(上人塚地点)	53
9	仙台原遺跡	57

挿図目次

第 1 図	調査遺跡位置図	1
第 2 図	北六原遺跡 周辺地形図	3
第 3 図	北六原遺跡(確認調査) 平面図・断面図	4
第 4 図	北六原遺跡(確認調査) 遺物実測図	5
第 5 図	北六原遺跡(本調査) 全体図	8
第 6 図	北六原遺跡(本調査) 平面図・断面図(1)	9
第 7 図	北六原遺跡(本調査) 平面図・断面図(2)	10
第 8 図	北六原遺跡(本調査) 平面図・断面図(3)	11
第 9 図	北六原遺跡(本調査) 平面図・断面図(4)	12
第 10 図	北六原遺跡(本調査) 遺物実測図(1)	13
第 11 図	北六原遺跡(本調査) 遺物実測図(2)	14
第 12 図	中台遺跡(第5次) 周辺地形図	16
第 13 図	中台遺跡(第5次) 全体図	17
第 14 図	中台遺跡(第5次) 平面図・断面図(1)	19
第 15 図	中台遺跡(第5次) 平面図(2)	20
第 16 図	中台遺跡(第5次) 断面図(2)	21
第 17 図	中台遺跡(第5次) 断面図(3)	22
第 18 図	中台遺跡(第5次) 平面図(3)・断面図(4)	23
第 19 図	中台遺跡(第5次) 平面図(4)・断面図(5)	24
第 20 図	中台遺跡(第5次) 遺物実測図(1)	26
第 21 図	中台遺跡(第5次) 遺物実測図(2)	27
第 22 図	中台遺跡(第5次) 遺物実測図(3)	28
第 23 図	中台遺跡(第5次) 遺物実測図(4)	29
第 24 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 周辺地形図	31
第 25 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 全体図	32
第 26 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 断面図	36
第 27 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(1)	37
第 28 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(2)	38
第 29 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(3)	39
第 30 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(4)	40
第 31 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(5)	41
第 32 図	郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(6)	42
第 33 図	稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡 周辺地形図	44
第 34 図	稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡 全体図	45

第 35 図	稻荷台遺跡(R 地点)・市原古道遺跡 断面図	46
第 36 図	稻荷台遺跡(R 地点)・市原古道遺跡 遺物実測図	47
第 37 図	島原遺跡(第 2 次) 周辺地形図	48
第 38 図	島原遺跡(第 2 次) 全体図	49
第 39 図	島原遺跡(第 2 次) 断面図	50
第 40 図	島原遺跡(第 2 次) 遺物実測図	52
第 41 図	能満遺跡群(上人塚地点) 周辺地形図	53
第 42 図	能満遺跡群(上人塚地点) 全体図	54
第 43 図	能満遺跡群(上人塚地点) 断面図	55
第 44 図	能満遺跡群(上人塚地点) 遺物実測図	56
第 45 図	仙台原遺跡 周辺地形図	57
第 46 図	仙台原遺跡 全体図	58
第 47 図	仙台原遺跡 平面図(1)	59
第 48 図	仙台原遺跡 断面図(1)	60
第 49 図	仙台原遺跡 平面図(2)	61
第 50 図	仙台原遺跡 断面図(2)	62
第 51 図	仙台原遺跡 平面図(3)	63
第 52 図	仙台原遺跡 断面図(3)	64
第 53 図	仙台原遺跡 遺物実測図	65

表 目 次

第 1 表	出土遺物観察表	67 ~ 80
-------	---------	---------

図 版 目 次

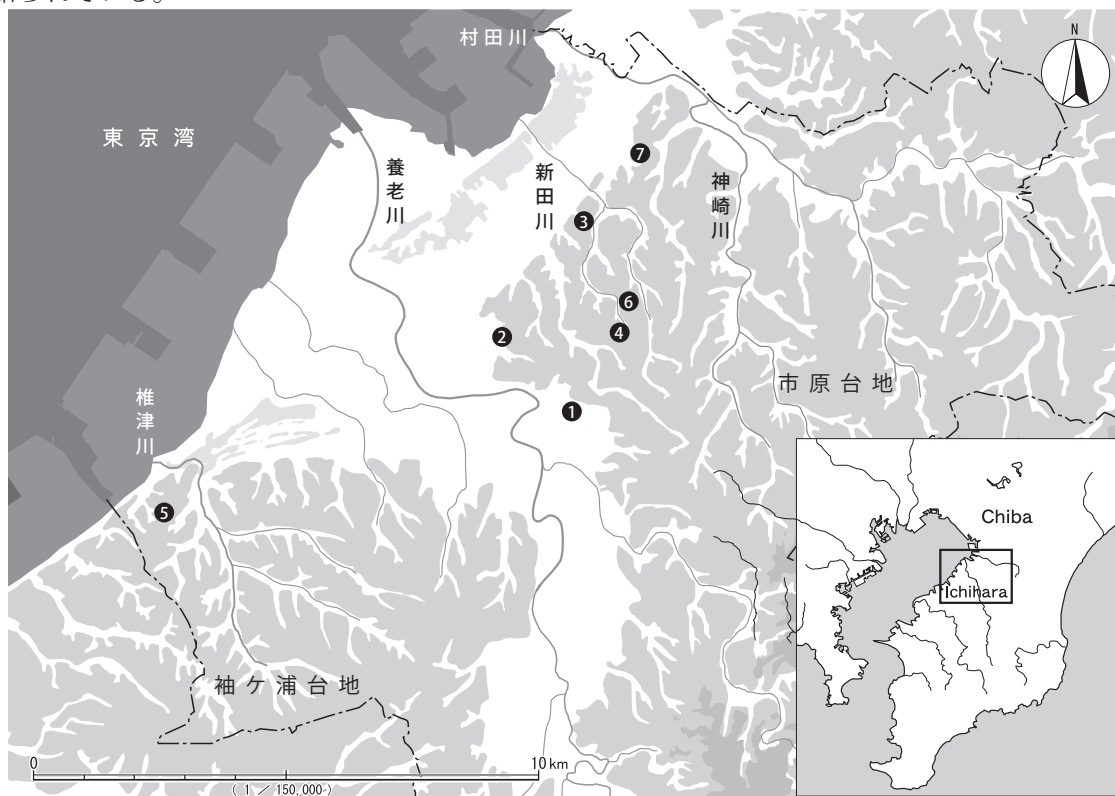
図版 1	遺構	北六原遺跡
図版 2	遺構	北六原遺跡
図版 3	遺構	中台遺跡(第 5 次)
図版 4	遺構	郡本遺跡群(第 29 次)・市原城跡
図版 5	遺構	稻荷台遺跡(R 地点)・市原古道遺跡/島原遺跡(第 2 次)
図版 6	遺構	島原遺跡(第 2 次)/能満遺跡群(上人塚地点)
図版 7	遺構	能満遺跡群(上人塚地点)/仙台原遺跡
図版 8	遺構	仙台原遺跡
図版 9	遺構	仙台原遺跡
図版 10	遺物	北六原遺跡/郡本遺跡群(第 29 次)・市原城跡
図版 11	遺物	郡本遺跡群(第 29 次)・市原城跡
図版 12	遺物	北六原遺跡
図版 13	遺物	中台遺跡(第 5 次)
図版 14	遺物	中台遺跡(第 5 次)/郡本遺跡群(第 29 次)・市原城跡
図版 15	遺物	郡本遺跡群(第 29 次)・市原城跡
図版 16	遺物	郡本遺跡群(第 29 次)・市原城跡
図版 17	遺物	稻荷台遺跡(R 地点)・市原古道跡/島原遺跡(第 2 次)
図版 18	遺物	能満遺跡群(上人塚地点)/仙台原遺跡

1 調査遺跡の位置と概要

令和4年度は、北六原遺跡、中台遺跡(第5次)、郡本遺跡群(第29次)・市原城跡、稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡、島原遺跡(第2次)、能満遺跡群(上人塚地点)、仙台原遺跡の7地点の発掘調査を行った。調査原因は、個人住宅の建設が2地点、宅地造成が2地点、駐車場造成が2地点、事務所建設が1地点である。

本書では、今年度を実施した分に加えて、令和3年度後半に調査した北六原遺跡(確認調査)の成果についても掲載した。今回報告する7地点は市域北半部に集中している。位置的には、養老川右岸の市原台地上に5地点、袖ヶ浦台地上の椎津に1地点、その二つの台地を分断する養老川の段丘面に1地点となる。

いずれも埋蔵文化財の密度が高い地域である。北六原遺跡の所在する大字「海土」の周辺は、『和名類聚抄』に記載の「市原郡海土郷」の候補地の一つに比定されている。郡本は上総国府推定地の有力な選択肢の一つとして指摘されており、中台遺跡の所在する惣社は、上総国分僧寺跡や神門古墳群を有する政治的拠点である。稲荷台遺跡の所在する藤井は、古代道など古代官衙関連遺跡を多数有している。島原遺跡の所在する椎津は、椎津城跡をはじめとした中世遺跡が多数分布している。能満は中世国衙推定地としても注目されるエリアである。仙台原遺跡の所在する菊間は、縄文時代の集落・集団墓地が見つかった菊間手永貝塚や菊間天神山古墳をはじめとする「菊間古墳群」などが知られている。



- | | | | |
|-------------|---------------------|----------------|---------|
| ① 北六原遺跡 | ③ 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 | ⑤ 島原遺跡(第2次) | ⑦ 仙台原遺跡 |
| ② 中台遺跡(第5次) | ④ 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡 | ⑥ 能満遺跡群(上人塚地点) | |

第1図 調査遺跡位置図

引用参考文献

- 浅利幸一他 2003『市原市稲荷台遺跡』財団法人市原市文化財センター
- 櫻井敦史他 2009『上総国分僧寺跡I』上総国分寺台遺跡調査報告 XIX 市原市教育委員会
- 笹生 1993『房総考古学ライブラリー 7 歴史時代(1)』財団法人千葉県文化財センター
- 須田 勉 1998『千葉県の歴史』資料編 考古3 財団法人千葉県史料研究財団
- 高橋康男 1994『市原市 上総国府推定地確認調査報告書』財団法人市原市文化財センター
- 田中清美 2011「市原城跡辻地区」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第19集
市原市教育委員会
- 鶴岡英一他 2013『市原市中台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告 XXII 市原市教育委員会
- 鶴岡英一他 2016『上総国分僧寺跡II』上総国分寺台遺跡調査報告 XXVII 市原市教育委員会
- 牧野光隆 2003「稲荷台遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』上総国分寺台遺跡調査報告書 IX 市原市教育委員会

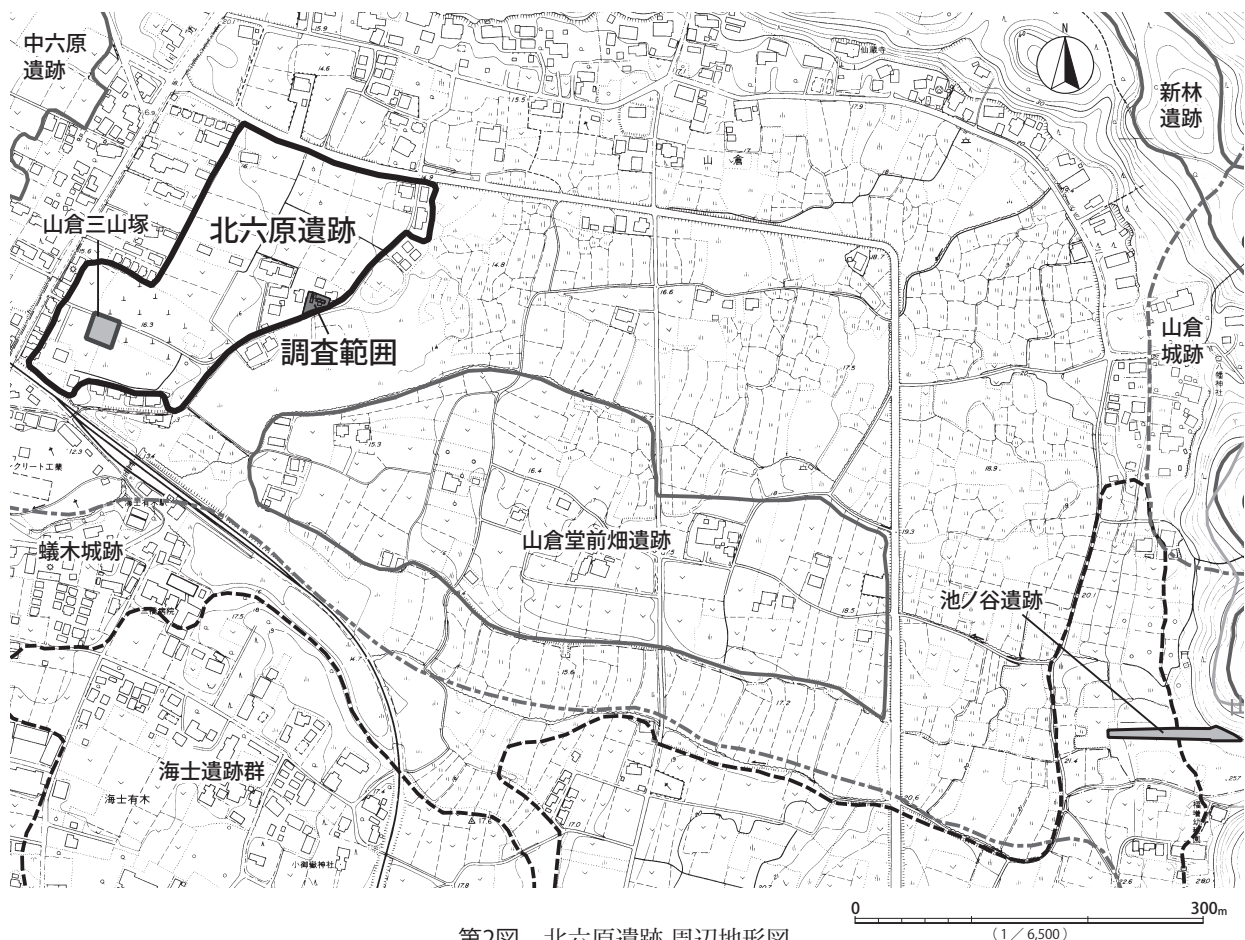
2 北六原遺跡（確認調査）

遺跡の位置 遺跡は、市内を南から北へ貫流する養老川の下流域右岸、標高15m程度の河岸段丘上に立地しており、遺跡周辺には水田・畑地が展開している。北西には中六原遺跡（古墳～平安時代）、南東には山倉前畑遺跡（弥生時代後期～平安）、海士遺跡群が隣接する。

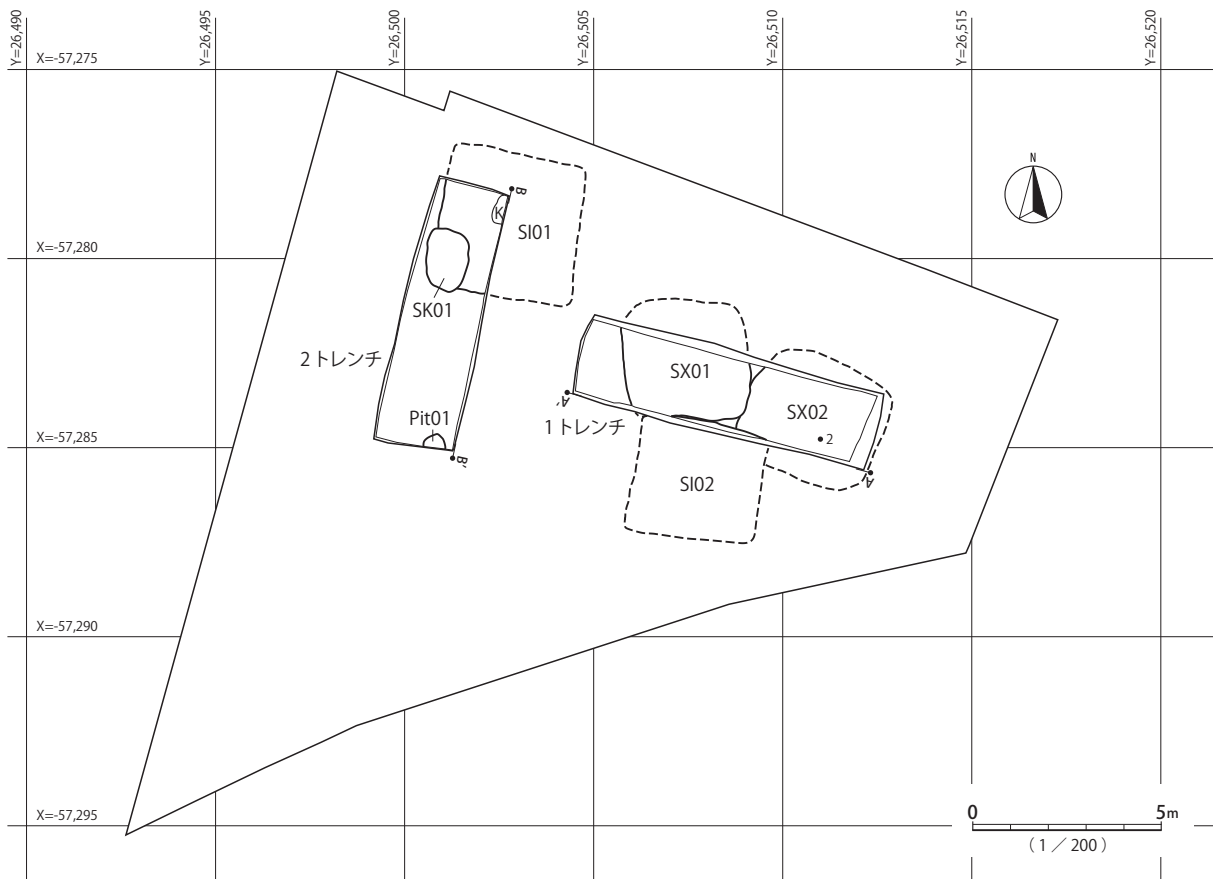
大字「海士」の周辺は、『和名類聚抄』に記載の「市原郡海士郷」の候補地の一つに比定されており、昭和58年に発掘調査を実施した池ノ谷遺跡では、井戸遺構や小鍛冶遺構が検出されたほか、陰刻花紋を有する緑釉陶器、井戸祭祀に用いられた合わせ口の土師器杯などが発見されている。また、池ノ谷遺跡近くの字「揚崎」付近からは、小金銅佛が1点表採されており、池ノ谷遺跡南西側に平安時代を中心に、郷に関連する施設が置かれていた可能性が窺われている。北六原遺跡周辺は、集落への普及が一般的には考えにくい嗜好品の搬入が認められる地域として注目される。

調査概要 個人住宅の建設に先立ち確認調査を行った。事業範囲面積262.15㎡に対し、2本のトレンチ計26.2㎡を設定した。1トレンチの遺構確認面までの深さは0.8m、2トレンチは0.68mであった（第3図）。調査の結果、平安時代（9世紀前半）の竪穴建物跡、奈良・平安時代の井戸状遺構が検出された。

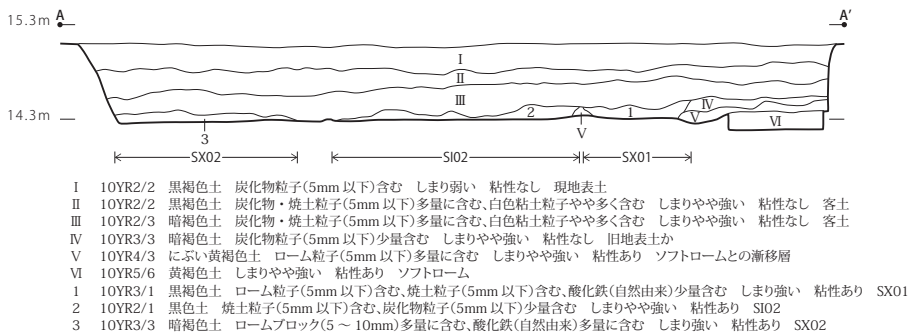
また良筆な墨書土器（出土遺物6）が出土しており、平安時代を中心に北六原遺跡一帯が政治的に重要な用地であった可能性を窺わせる。



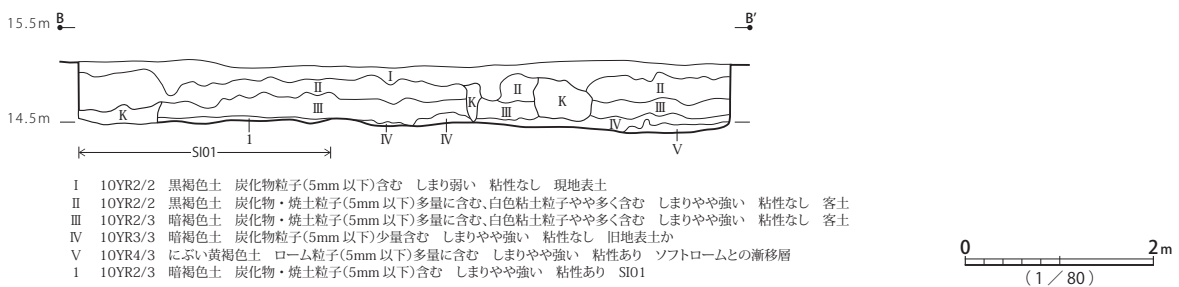
第2図 北六原遺跡 周辺地形図



1 トレンチ

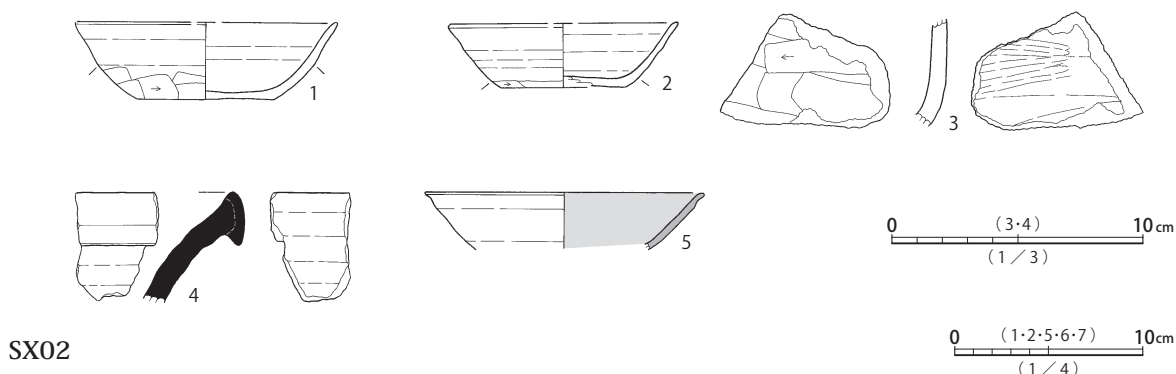


2 トレンチ

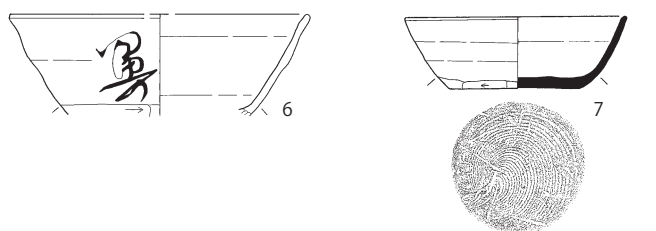


第3図 北六原遺跡(確認調査) 平面図・断面図

1トレンチ



SX02



第4図 北六原遺跡(確認調査) 遺物実測図

遺構と遺物 1トレンチでは、平安時代(9世紀前半)の井戸状遺構SX01、奈良～平安時代(8世紀後半～9世紀)の井戸状遺構SX02、平安時代(9世紀前半)の竪穴建物跡SI02を確認した。出土遺物1・2はロクロ土師器杯、3は土師器甕、4は須恵器甕、5は東海産灰釉陶器碗(K90～O53型式)である。1トレンチ一括の非掲載遺物として、ロクロ土師器杯63点(518.3g)、土師器甕4点(68.5g)、須恵器瓶壺類2点(34.3g)、猿投窯産須恵器甕1点(125.4g)、須恵器甕1点(26.7g)、東海産灰釉陶器碗(K90～O53型式)1点(9g)が出土している。

SX02はSX01とSI02に切られている(第3図)。SX01・02はともに覆土に酸化鉄(自然由来)を含んでいる。2トレンチと比較してローム検出面の標高が低いこと、出土した土師器・須恵器の多くに酸化鉄が付着していたことから、調査区の北西から南東側へ旧地表土が傾斜し、地下水位が低くなっていることが窺える。出土遺物6はロクロ土師器杯で、外面に墨書「富所」が確認できる。出土遺物7は永田・不入Ⅲ～Ⅳの須恵器杯である。これらはSX02から出土している。その他非掲載遺物として、ロクロ土師器杯56点(385.8g)、土師器甕8点(125.4g)、須恵器杯3点(30.6g)、千葉産須恵器甕2点(37.1g)、須恵器甕1点(16.4g)が出土している。出土遺物の多くは8世紀後半～9世紀に比定されることからSX02の構築も同様の時期だと思われる。

2トレンチからは、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI01、奈良・平安時代のピットPit01、中世の土坑SK01を確認した。2トレンチは本調査範囲と重複するため、出土遺構・遺物の記述については本調査分として記述する。2トレンチ一括の非掲載遺物として、ロクロ土師器杯6点(38.3g)、土師器甕4点(55.6g)、土師器(器種不明)15点(33.9g)、永田・不入Ⅲ～Ⅳ須恵器杯1点(4.8g)、須恵器杯1点(5.6g)、千葉産須恵器甕1点(10.4g)が出土している。

北六原遺跡は、今回が初めての発掘調査であったが、良筆な墨書土器(第4図6、図版12)の出土が確認され、平安時代を中心に北六原遺跡一帯が政治的に重要な用地であった可能性を窺わせる。

引用参考文献

小川浩一2008『市原市海土遺跡群(三入道地区)』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第6集 市原市教育委員会

田所 真1985『池ノ谷遺跡・福増遺跡』財団法人市原市文化財センター

田所 真2012「海土遺跡 海土地区」『平成23年度 市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財センター調査報告書第22集 市原市教育委員会

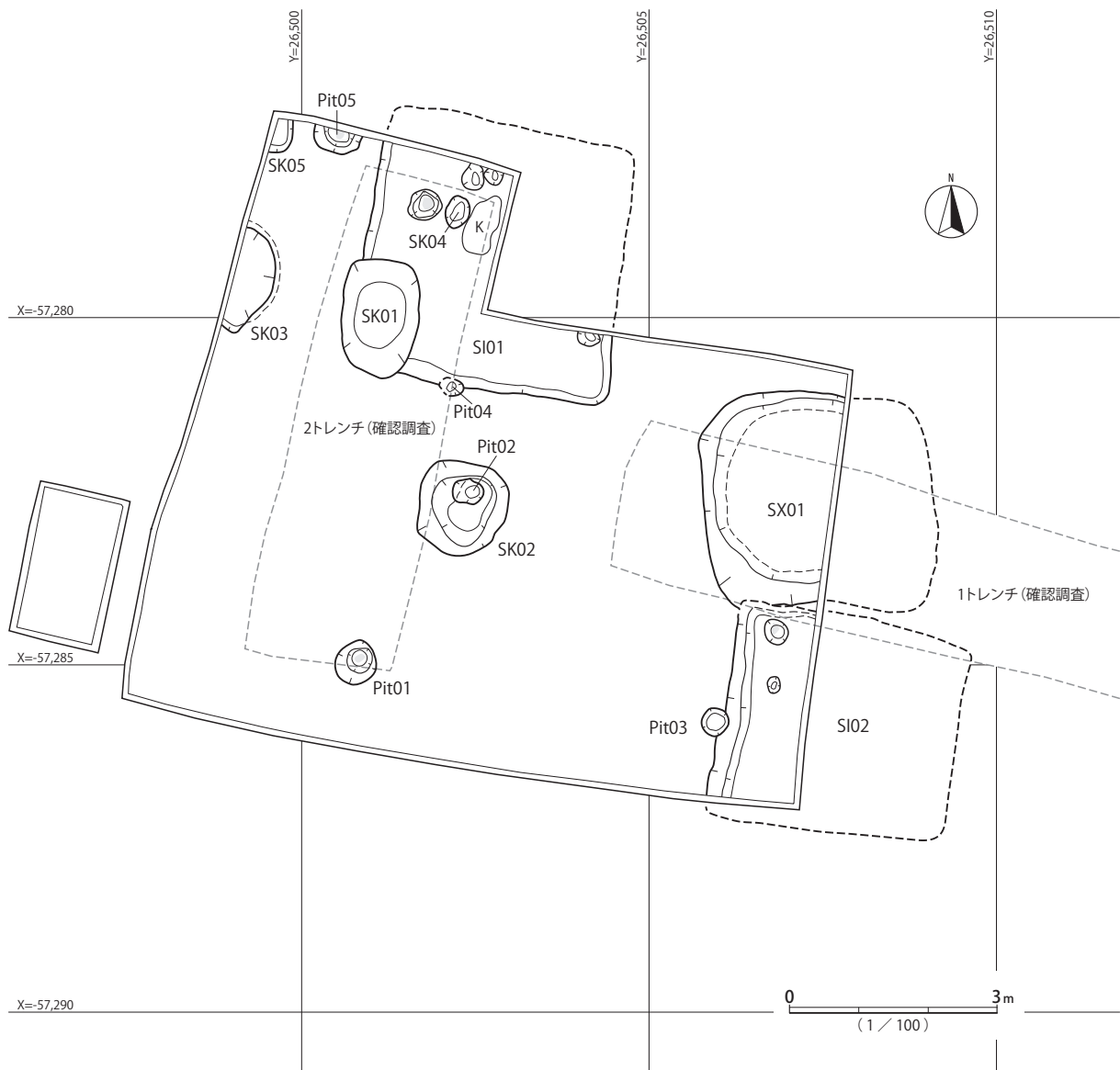
3 北六原遺跡(本調査)

調査概要 個人住宅の建設に先立って65㎡の本調査が行われた。調査の結果、奈良・平安時代の土坑2基、平安時代の竪穴建物跡2棟・井戸状遺構1基・土坑6基、中世の土坑2基を検出した。

遺構と遺物 SI01は隅がやや丸まった方形を呈し、長軸3.80m×短軸3.70?m、主軸方位N-11°-E、床面までの深さ0.32mの竪穴建物跡である。柱穴はP1～P4が確認できる(第6図・図版1)が、どれも深さが0.2～0.3m弱と浅く、壁の立ち上がりも不明瞭である。貼床(d層)を有する(第6図)が、床面の整地は不良である。SK01・04、Pit04に切られる。出土遺物3は千葉産須恵器杯である。その他非掲載遺物として、ロクロ土師器杯35点(187.8g)、土師器甕8点(90.6g)、土師器(器種不明)40点(122.9g)、須恵器(千葉産)杯1点(11.3g)、須恵器(永田・不入)杯10点(97.6g)、須恵器甕1点(4.0g)、須恵器(千葉産)甕1点(5.6g)、須恵器(千葉産)(器種不明)2点(15.6g)、灰釉陶器(器種不明)1点(3.2g)が出土している。出土遺物からSI01は平安時代(9世紀前半)の所産と思われる。

SI02は方形を呈し、長軸3.30?m×短軸3.30?m、主軸方位N-80°-W、床面までの深さ0.33mの竪穴建物跡である。柱穴はP1・P2が確認できる(第7・8図・図版2)。P1は深さ0.36m、P2は0.52mである。貼床層は確認できず、壁の立ち上がりも不明瞭である。覆土や床面に酸化鉄(自然由来)を含んでいる。地下水位が低いいためか、出土した土師器・須恵器の多くに酸化鉄が付着する。出土遺物12はロクロナデの土師器杯である。底部外面に墨書で「大鳥」と書かれている。出土遺物14は猿投窯産の灰釉陶器椀、15は千葉産須恵器円面硯?、16は灰釉陶器の瓶壺類である。その他非掲載遺物として、ロクロ土師器杯324点(1625.9g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)5点(27.9g)、土師器壺1点(44.3g)、土師器甕29点(261.8g)、土師器(器種不明)27点(39.3g)、須恵器杯3点(11.3g)、須恵器(千葉産)甕3点(80.0g)、須恵器甕3点(63.1g)、須恵器(器種不明)4点(6.9g)、灰釉陶器(猿投窯)椀1点(2.7g)が出土している。出土遺物からSI02は平安時代(9世紀前半)の所産と思われる。

SX01は隅がやや丸まった方形を呈する、長軸3.20?m×短軸3.20?mの井戸状遺構である(第7図・図版2)。旧地表土から0.6m下げても未だ地山が出ず、調査区壁面が崩落する恐れから掘削を中止した。掘削最下面から水が湧き始め、そこから更に1m以上下がることから、井戸状遺構と判断した。SI02に切られる。覆土・壁面に酸化鉄(自然由来)を含んでいる。地下水位が低いため、出土した土師器・須恵器の多くに酸化鉄が付着する。出土遺物24は上総型暗文杯である。出土遺物27は猿投窯産須恵器瓶壺類、28・29は千葉産須恵器甕、30は猿投窯産須恵器甕、31は猿投窯産灰釉陶器椀である。32は中世の在地土器だと思われるが、混入であろう。その他非掲載遺物として、土師器(古墳時代)(器種不明)2点(9.0g)、ロクロ土師器杯210点(1005.0g)、ロクロ土師器杯(内面黒色処理)3点(24.6g)、土師器甕9点(89.3g)、土師器(器種不明)125点(302.7g)、須恵器(千葉産)杯1点(13.2g)、須恵器(永田・不入)杯7点(29.6g)、須恵器甕3点(34.6g)、須恵器(千葉産)甕5点(45.0g)、須恵器(千葉産)壺?1点(12.7g)、須恵器壺1点(10.9g)、須恵器(永田・不入)(器種不明)1点(3.1g)、須恵器(千葉産)(器種不明)14点(72.7g)、灰釉陶器(猿投窯産)椀1点(0.8g)が出土している。出土遺物からSX01は平安時代(9世紀前半)の所産と思われる。



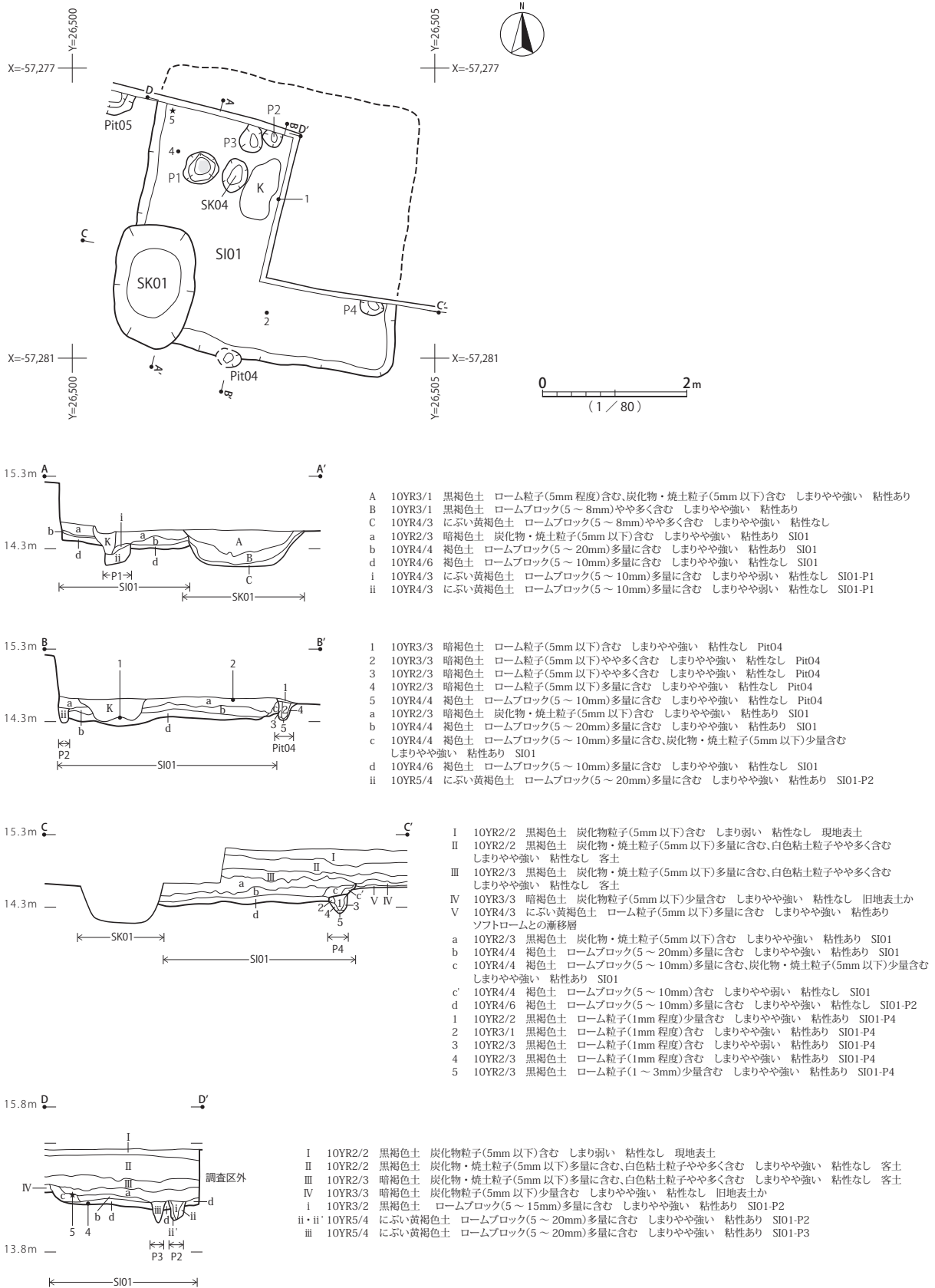
第5図 北六原遺跡(本調査)全体図

SK01は楕円形を呈し、長軸1.70m×短軸1.10m、主軸方位N-9°-E、地山までの深さ0.53mである(第6図・図版2)。SI01を切る。黒褐色土でロームブロックを多く含む粗い覆土である。出土遺物18は永田・不入の須恵器蓋だが、混入と思われる。SK01は形状・覆土の状況から中世の所産だと思われる。

SK02は不定円形を呈し、長軸1.34m×短軸1.30m、地山までの深さ0.37mである(第8図・図版2)。Pit02に切られる。非掲載遺物として、土師器(器種不明)4点(10.9g)、須恵器(器種不明)1点(1.7g)が出土している。SK02は出土遺物から奈良～平安時代の所産と思われる。

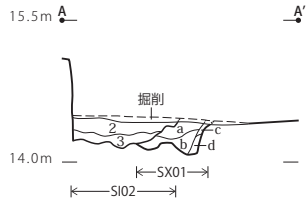
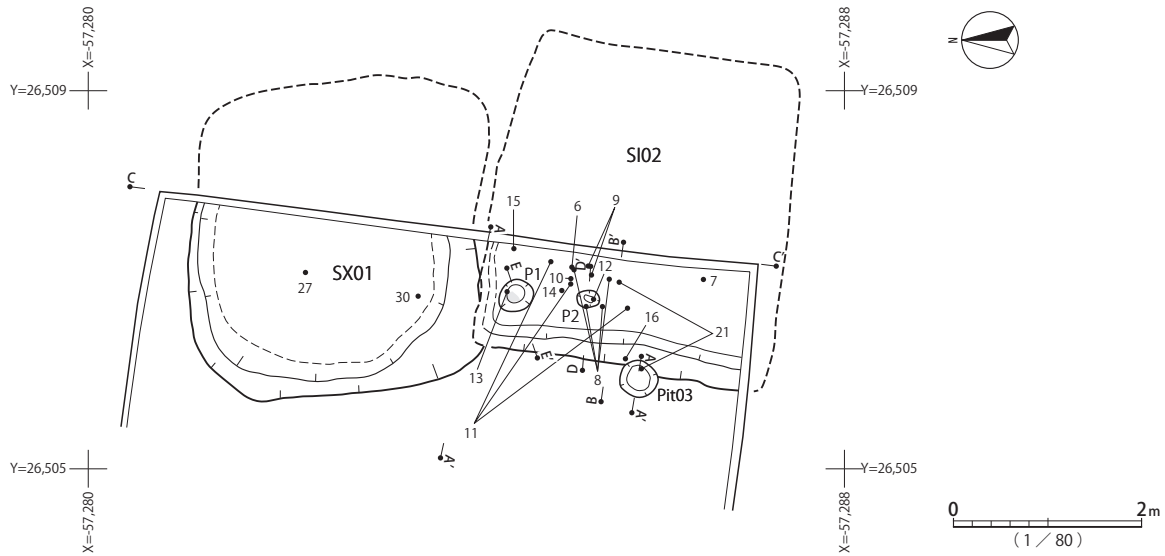
SK03は楕円形状で、長軸1.46m×短軸(0.74)m、主軸方位N-10°-E、地山までの深さ0.66mである。底部がはり出し、フラスコ状を呈する(第8図・図版2)。覆土は黒褐色～暗褐色で大粒のロームブロックを多量に含む。非掲載遺物として、ロクロ土師器杯4点(14.7g)、土師器(器種不明)2点(5.3g)が出土しているが混入と思われる。SK03は形状・覆土の状態から中世の所産であると考えられる。

SI01・SK01・SK04

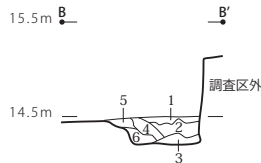


第6図 北六原遺跡(本調査) 平面図・断面図(1)

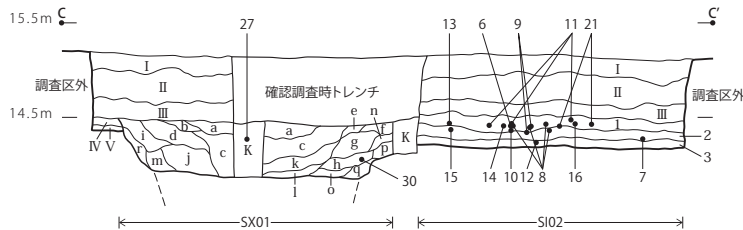
SI02・SX01・Pit03



- 2 10YR2/1 黒色土 焼土粒子(5mm以下)含む,炭化物粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性あり SI02
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色土 焼土粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性あり SI02
- a 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む,焼土粒子(5mm以下)含む,酸化鉄(自然由来)含む しまりやや強い 粘性あり SX01
- b 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)多量に含む,焼土粒子(5mm以下)含む,酸化鉄(自然由来)含む しまりやや強い 粘性あり SX01
- c 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~10mm)含む しまり弱い 粘性なし SX01
- d 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~10mm)多量に含む しまりやや強い 粘性あり SX01



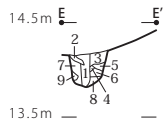
- 1 10YR2/2 黒褐色土 焼土・炭化物粒子(5mm程度)含む しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR2/1 黒色土 焼土粒子(3mm程度)含む,炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまり弱い 粘性あり
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり
- 4 10YR6/4 にぶい黄褐色土 焼土粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性あり 壁面崩れ土
- 5 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり 壁面崩れ土
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり 壁面崩れ土



- I 10YR2/2 黒褐色土 炭化物粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性なし 現地表土
- II 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・焼土粒子(5mm以下)多量に含む,白色粘土粒子(5mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性なし 客土
- III 10YR2/3 暗褐色土 炭化物・焼土粒子(5mm以下)多量に含む,白色粘土粒子(5mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性なし 客土
- IV 10YR3/3 暗褐色土 炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性なし 旧地表土か
- V 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまりやや強い 粘性あり ソフトロームとの漸移層
- a 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む,炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまり強い 粘性あり
- b 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む,炭化物・焼土粒子(5mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- c 10YR3/1 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む,炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまり強い 粘性あり
- d 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む,炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまり強い 粘性あり
- e 10YR2/1 黒色土 炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- f 10YR3/2 黒褐色土 炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- g 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む,炭化物・焼土粒子(5mm)多量に含む,白色粘土粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- h 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む,炭化物・焼土粒子(5mm)やや多く含む しまり強い 粘性あり
- i 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む,炭化物・焼土粒子(5mm)多量に含む しまり強い 粘性あり
- j 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む,炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- k 10YR2/1 黒色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む,炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまり非常に強い 粘性あり
- l 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む,炭化物・焼土粒子(5mm)多量に含む しまり強い 粘性あり
- m 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む,炭化物・焼土粒子(5mm)多量に含む,白色粘土粒子(5mm)多量に含む しまり強い 粘性あり
- n 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む,炭化物・焼土粒子(5mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性あり
- o 10YR2/1 黒色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む,炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- p 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む,炭化物・焼土粒子(5mm)含む,黒褐色土粒子含む しまり強い 粘性あり
- q 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む,白色粘土粒子(5mm以下)多量に含む しまり強い 粘性あり
- r 10YR5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~10mm)多量に含む,炭化物・焼土粒子(5mm)含む しまり強い 粘性あり
- 1 10YR2/2 黒褐色土 焼土・炭化物粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり SI02
- 2 10YR2/1 黒色土 焼土粒子(5mm以下)含む,炭化物粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性あり SI02
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色土 焼土粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性あり SI02

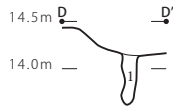
第7図 北六原遺跡(本調査)平面図・断面図(2)

SI02-P1



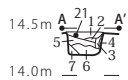
- 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む、炭化物粒子(5mm以下)含む しまり弱い、粘性あり
- 2 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い、粘性あり
- 3 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い、粘性なし
- 4 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む しまり強い、粘性なし
- 5 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり強い、粘性なし
- 6 10YR4/6 褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い、粘性あり
- 7 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり強い、粘性なし
- 8 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む、焼土粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い、粘性あり
- 9 10YR4/6 褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い、粘性なし

SI02-P2

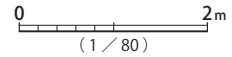


- 1 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒子(1mm程度)含む しまりやや強い、粘性あり

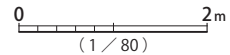
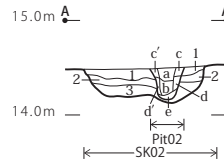
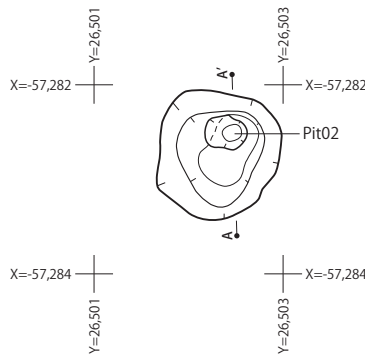
Pit03



- 1 10YR2/2 黒褐色土 炭化物粒子(5mm以下)少量含む、焼土粒子(3mm程度)含む しまり弱い、粘性なし
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い、粘性あり
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い、粘性なし
- 4 10YR6/4 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い、粘性あり
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い、粘性あり
- 6 10YR5/3 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い、粘性あり
- 7 10YR6/4 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い、粘性あり

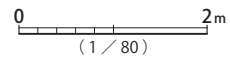
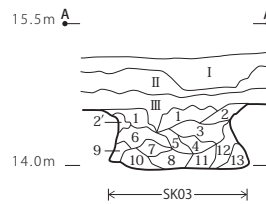
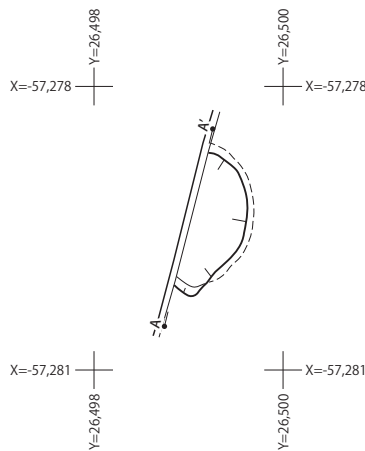


SK02・Pit02



- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い、粘性なし SK02
- 2 10YR3/4 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)やや多く含む しまりやや強い、粘性なし SK02
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまりやや強い、粘性なし SK02
- a 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む、焼土粒子(5mm以下)含む しまりやや強い、粘性あり Pit02
- b 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)やや多く含む、焼土粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い、粘性あり Pit02
- c 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い、粘性あり Pit02
- c' 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い、粘性あり Pit02
- d 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い、粘性あり Pit02
- d' 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い、粘性あり Pit02
- e 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまりやや強い、粘性あり Pit02

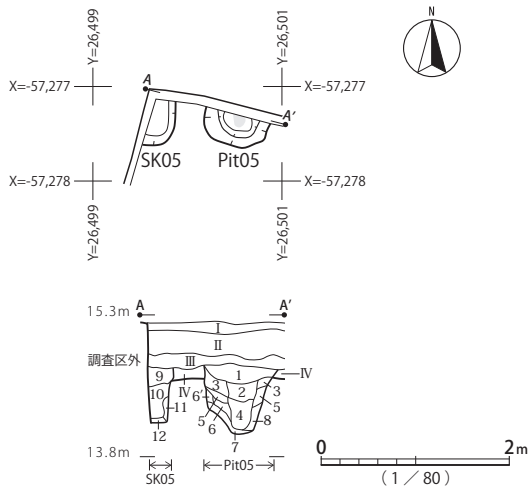
SK03



- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む、ロームブロック(5~10mm)少量含む しまりやや強い、粘性あり
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~8mm)含む しまりやや強い、粘性あり
- 2' 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~20mm)含む しまりやや強い、粘性あり
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(5~10mm)含む しまりやや強い、粘性あり
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~8mm)やや多く含む しまりやや強い、粘性あり
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~8mm)含む しまりやや強い、粘性あり
- 6 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(5~10mm)やや多く含む しまりやや強い、粘性あり
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~20mm)多量に含む しまりやや強い、粘性あり
- 8 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~10mm)やや多く含む しまりやや強い、粘性あり
- 9 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)やや多く含む しまりやや強い、粘性なし
- 10 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い、粘性あり
- 11 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~10mm)含む しまりやや強い、粘性あり
- 12 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~10mm)やや多く含む しまり弱い、粘性なし
- 13 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)少量含む しまりやや強い、粘性なし

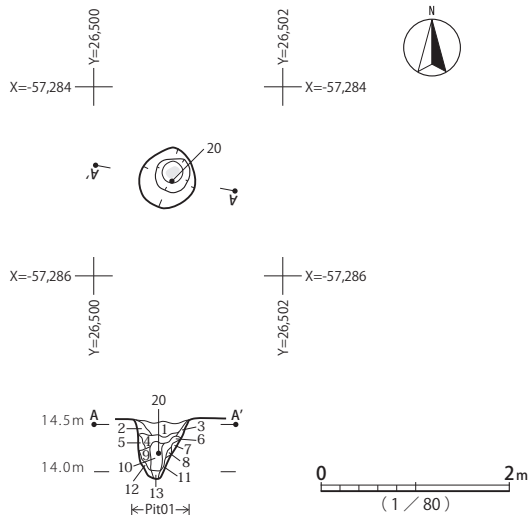
第8図 北六原遺跡(本調査) 平面図・断面図(3)

SK05・Pit05



- I 10YR2/2 黒褐色土 炭化物粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性なし 現地表土
- II 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・焼土粒子(5mm以下)多量に含む、白色粘土粒子やや多く含む しまりやや強い 粘性なし 客土
- III 10YR2/3 暗褐色土 炭化物・焼土粒子(5mm以下)多量に含む、白色粘土粒子やや多く含む しまりやや強い 粘性なし 客土
- IV 10YR3/3 暗褐色土 炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性なし 旧地表土か
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり Pit05
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)やや多く含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり Pit05
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)やや多く含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまり強い 粘性あり Pit05
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)やや多く含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり Pit05
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量に含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり Pit05
- 6 10YR4/2 灰褐色土 ロームブロック(5～8mm)やや多く含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり Pit05
- 6' 10YR4/2 灰褐色土 ロームブロック(5～8mm)やや多く含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり Pit05
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～15mm)やや多く含む しまり強い 粘性あり Pit05
- 8 10YR4/2 灰褐色土 ロームブロック(5～8mm)多量に含む しまりやや強い 粘性あり Pit05
- 9 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)含む しまりやや強い 粘性あり SK05
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～30mm)多量に含む しまりやや弱い 粘性なし SK05
- 11 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～30mm)多量に含む しまり弱い 粘性なし SK05
- 12 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～30mm)多量に含む しまりやや強い 粘性あり SK05

Pit01



- 1 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)やや多く含む、焼土粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～40mm)多量に含む、炭化物・焼土粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまりやや強い 粘性あり
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5～8mm)多量に含む、炭化物・焼土粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む、ロームブロック(5～8mm)多量に含む しまりやや強い 粘性あり
- 6 10YR2/1 黒色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 7 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまりやや強い 粘性あり
- 8 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまりやや強い 粘性あり
- 9 10YR2/1 黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- 10 10YR2/1 黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)含む しまり弱い 粘性なし 柱抜き取り痕跡か
- 11 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量に含む しまり強い 粘性あり 柱のうらごめ?
- 12 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量に含む しまりやや強い 粘性あり 柱のうらごめ?
- 13 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまりやや強い 粘性あり

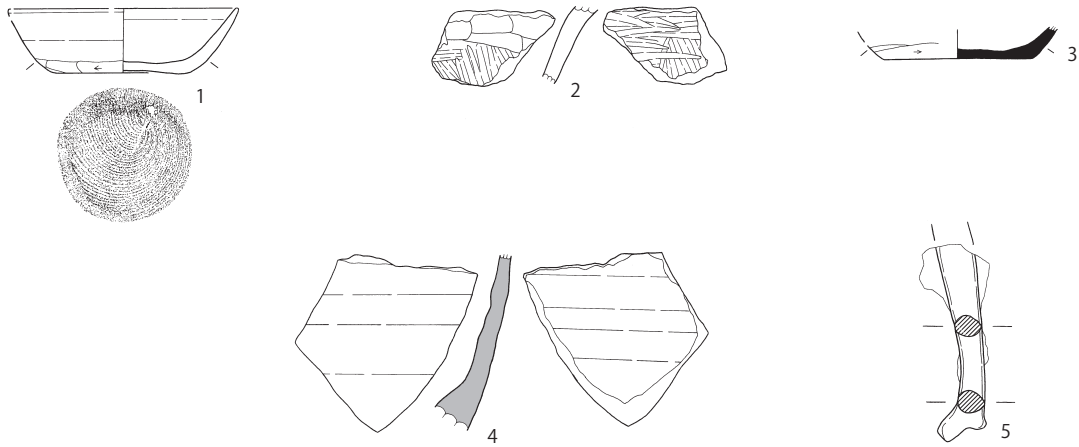
第9図 北六原遺跡(本調査)平面図・断面図(4)

SK04は長軸0.47m×短軸0.33m、地山までの深さ0.33mである。SI01を切ることから、竪穴建物跡が埋没した後にSK04が掘削されたと思われる。出土遺物19は千葉産須恵器の甕である。その他非掲載遺物として、ロクロ土師器杯3点(7.3g)、土師器(器種不明)1点(3.1g)、須恵器杯1点(1.4g)、須恵器(千葉産)甕1点(12.6g)、須恵器(器種不明)1点(3.0g)が出土している。SK04は出土遺物から平安時代(9世紀)の所産と思われる。

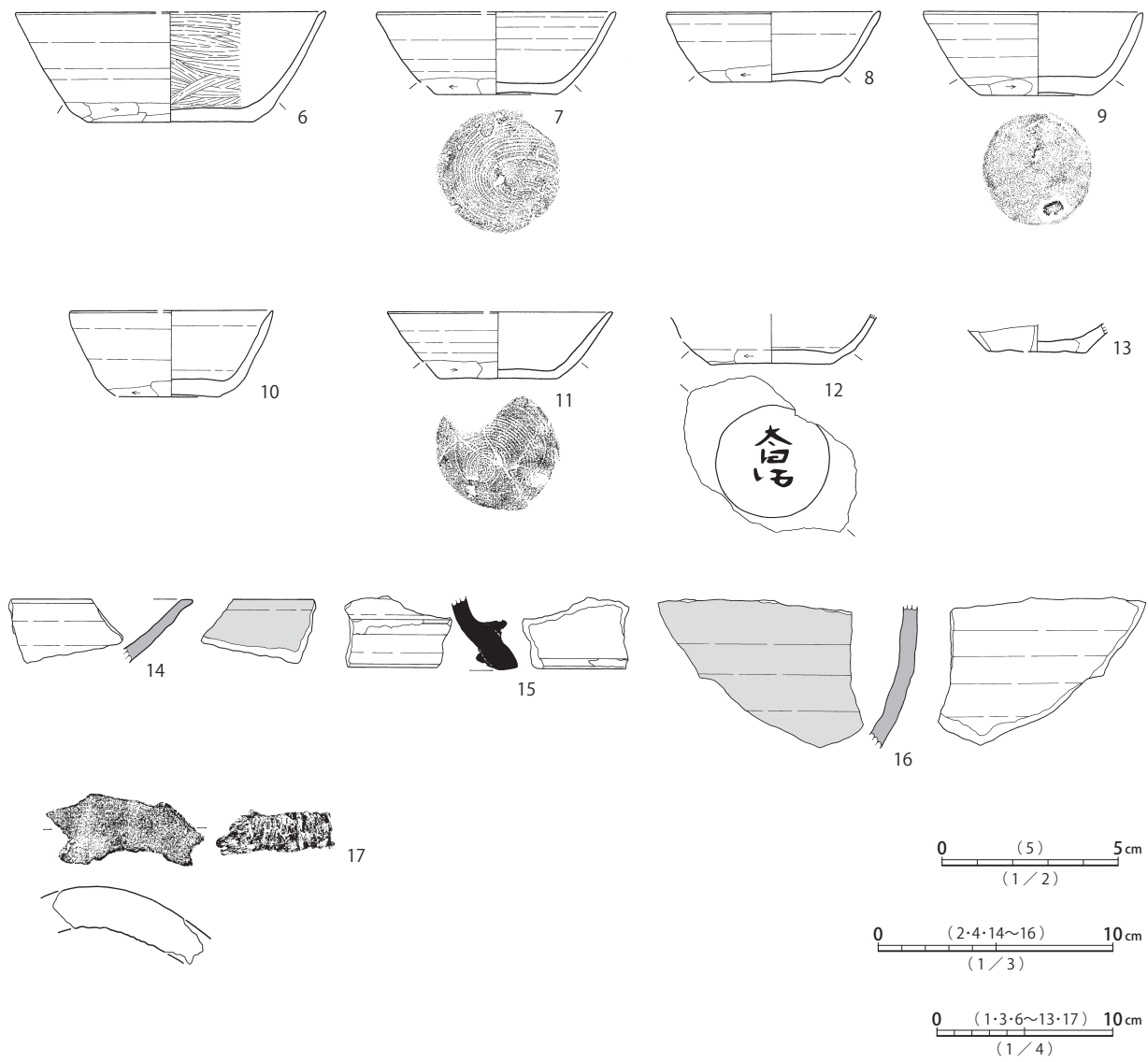
SK05は長軸(0.45)m×短軸(0.25)m、主軸方位N-1°-W、地山までの深さ0.59mである。非掲載遺物として、ロクロ土師器杯6点(25.5g)、土師器甕1点(19.7g)、土師器(器種不明)4点(12.2g)、須恵器(永田・不入)杯4点(13.8g)、須恵器(永田・不入)(器種不明)1点(15.9g)が出土している。SK05は出土遺物から平安時代の所産と思われる。

Pit01は長軸0.64m×短軸0.59m、地山までの深さ0.60mである(第9図・図版2)。底部に直径0.15m弱の柱当たりが確認できる。柱抜き取り痕跡とうらごめが確認できたが、周囲に同様の柱穴

SI01



SI02

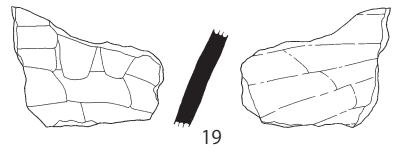


第10図 北六原遺跡(本調査) 遺物実測図(1)

SK01



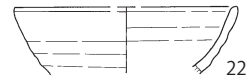
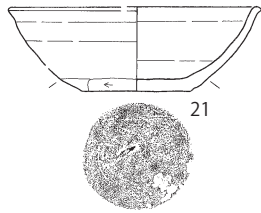
SK04



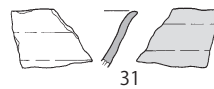
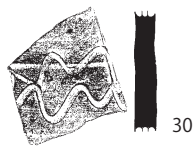
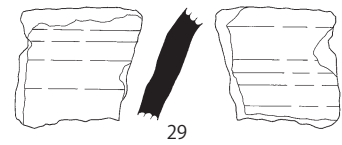
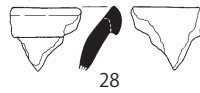
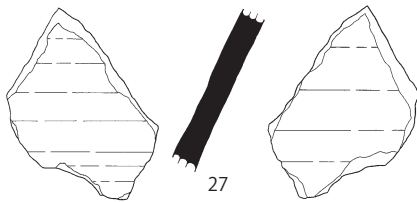
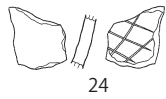
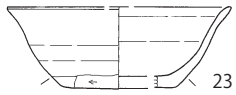
Pit01



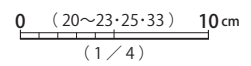
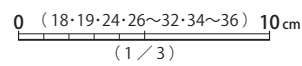
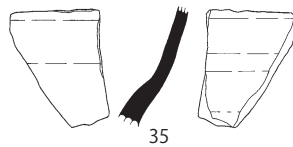
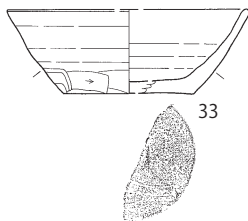
Pit03



SX01



遺構外



第11図 北六原遺跡(本調査) 遺物実測図(2)

は確認できず、遺構の性格は不明である。出土遺物 20 はロクロ土師器椀である。その他非掲載遺物として、ロクロ土師器杯 34 点 (111.4g)、土師器甕 7 点 (46.3g)、須恵器 (永田・不入) 甕 1 点 (7.2g) が出土している。Pit01 は出土遺物から平安時代の所産と思われる。

Pit02 は長軸 0.45m × 短軸 0.33m、地山までの深さ 0.36m である (第 8 図)。SK02 を切る。非掲載遺物として、ロクロ土師器杯 3 点 (24.1g)、土師器甕 4 点 (21.4g)、灰釉陶器 (猿投窯産) 瓶壺類 1 点 (7.9g) が出土している。Pit02 は出土遺物から平安時代の所産と思われる。

Pit03 は長軸 0.42m × 短軸 0.38m、地山までの深さ 0.24m である (第 7・8 図)。SI02 を切る。出土遺物 21・22 はロクロ土師器杯である。出土遺物 21 は Pit03 と SI02 で遺構間接合している。その他非掲載遺物として、ロクロ土師器杯 2 点 (5.5g) が出土している。Pit03 は出土遺物から平安時代 (9 世紀) の所産と思われる。

Pit04 は長軸 0.36m × 短軸 0.26m、地山までの深さ 0.33m である (第 6 図)。SI01 を切る。非掲載遺物として、須恵器 (千葉産) 甕 1 点 (14.6g) が出土している。Pit04 は出土遺物から平安時代 (9 世紀) の所産と思われる。

Pit05 は長軸 0.68m × 短軸 (0.32) m、地山までの深さ 0.72m である (第 9 図)。底部に直径 0.2m 程度の柱当たりが確認できる。柱抜き取り痕跡とうらごめが確認できたが、周囲に同様の柱穴は確認できず、遺構の性格は不明である。非掲載遺物として、ロクロ土師器杯 1 点 (1.9g) が出土している。Pit05 は出土遺物から平安時代の所産と思われる。

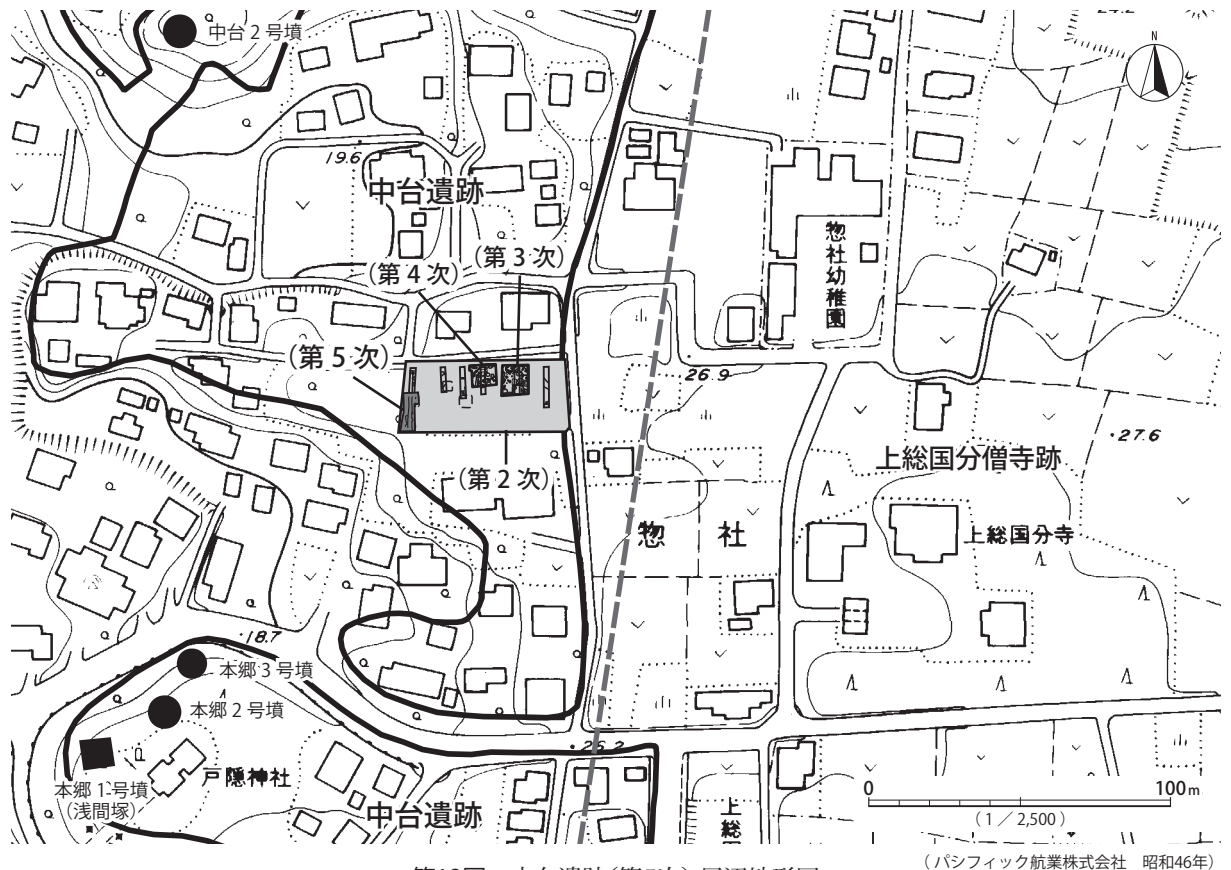
4 中台遺跡(第5次)

遺跡の位置 遺跡の位置は、東京湾に面する旧海岸線を西方約4kmの位置に望む標高26m前後の台地上に位置する。遺跡が存在する台地は、通称「国分寺台」と呼ばれる台地の西端部中央に位置し、南方300mには、弥生時代終末から古墳時代初頭への過渡期の古墳として、全国的に注目されている神門古墳群が存在する。また、東方100mには、国指定史跡である上総国分僧寺跡が存在し、上総国における奈良・平安時代の仏教文化の中心となっていた寺院遺跡が隣接している。

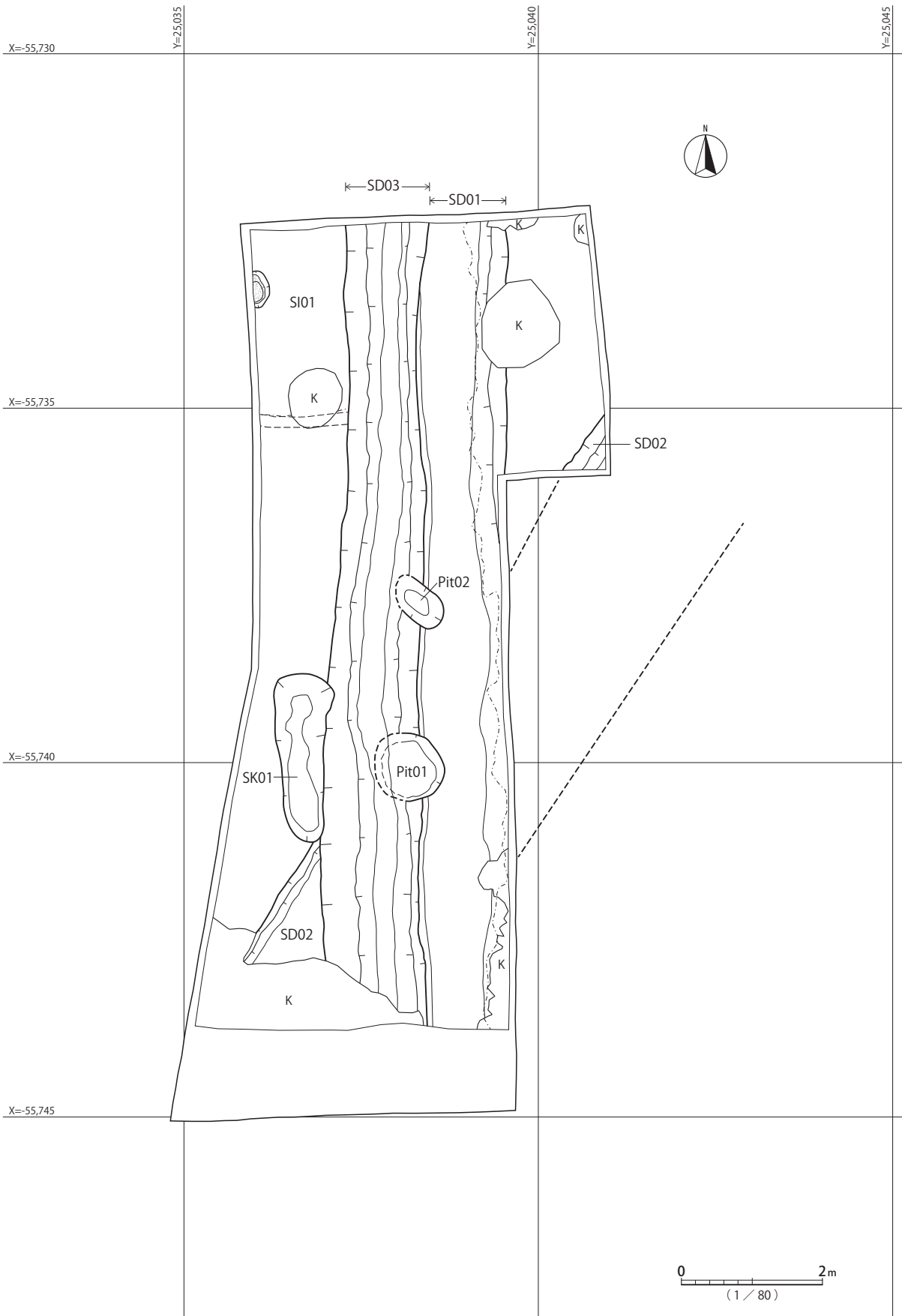
これまで昭和40年～50年代を中心に、国分寺台地区区画整理事業に伴う発掘調査が行われており、弥生時代後期～古墳時代前期にわたる数多くの竪穴建物跡が検出されている。また令和2年度に行われた中台遺跡(第2次)の確認調査では、古墳時代前期の竪穴建物跡が検出されている。

調査概要 令和2年に、中台遺跡(第2次)として、宅地造成に先立ち確認調査を行った。その結果、縄文時代土坑や古墳時代前期の竪穴建物跡、奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物などを確認し、昭和50年代に調査が行われた中台遺跡(第1次)および上総国分僧寺跡関連の遺構が、全域にわたって展開していることが確認された。この結果を受けて、西端の個人宅地建設部分を第5次調査として、本調査を行った。70㎡の調査の結果、弥生時代竪穴建物跡1棟、古墳時代溝1条、中世道路状遺構1条・溝1条、中世～近世土坑3基が検出された。遺構検出面の深さは0.8mである。

遺構と遺物 SI01は大部分が調査区外にあるため正確な形状は不明であるが、四隅がやや丸まった方形を呈すると思われる(第14図)。東側をSD03に切られる。後世の攪乱によって壁・覆土が削られ、検出時には貼床面が露出した状態であった。不明土器小片が出土しているが時期は不明である。



第12図 中台遺跡(第5次)周辺地形図



第13図 中台遺跡(第5次)全体図

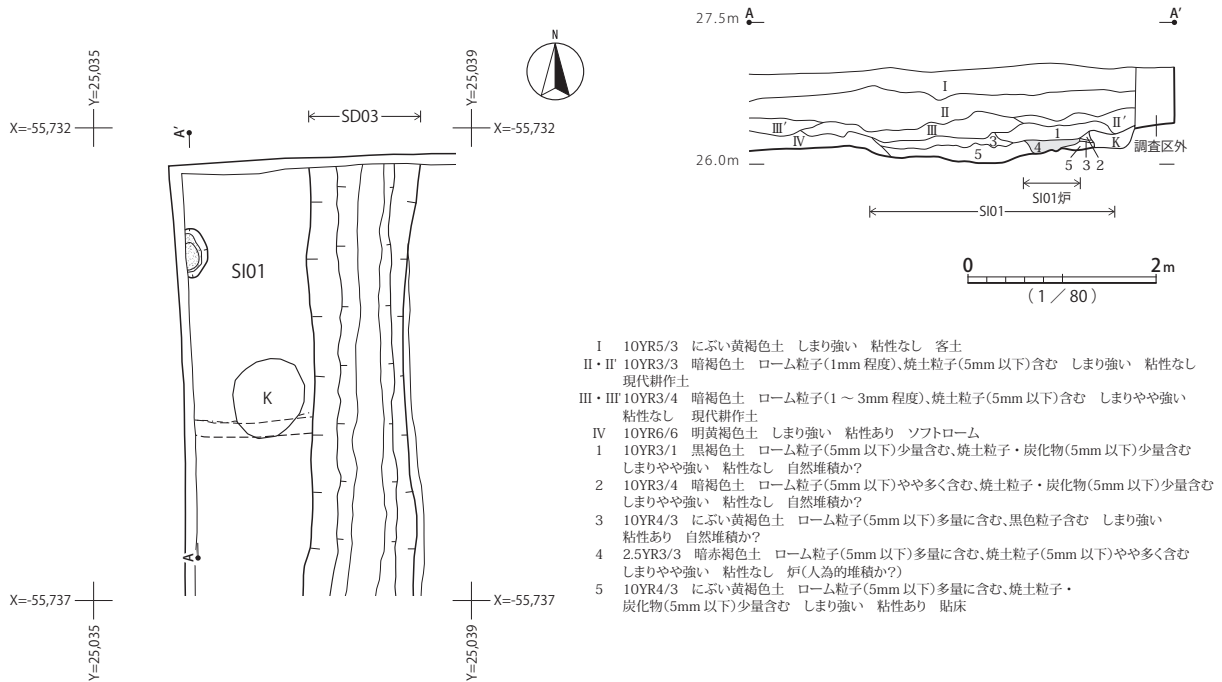
竪穴建物跡の中央部に地床炉をもつ形態から、SI01は弥生時代後期～古墳前期の所産と思われる。

SD01は幅(1.36)m、真北軸方向に走り、硬化面を有する道路状遺構である(第15・16・17・19図・図版3)。硬化面までの深さは0.45mである。SD03、Pit01・02に切られ、SD02を切る。硬化面はd・e・f層の3つの変遷が辿れ、複数時期に渡って道路状遺構が使用されていたことが分かる(第16・17・19図)。また、SD02に重複する部分は遺構の一部を壊して、その覆土を用いて硬化面が形成されている(第17・19図)。出土遺物3は中世の在出土器の播鉢(生実城I-4類)、4は常滑産の片口鉢(II類9型式)である。5は軒平瓦I型式(均整唐草文(傷2a段階以降)、顎形態曲線顎c類2種)であり、技法は粘土板一枚づくりである。9は鉄滓(椀型滓)である。その他非掲載遺物として、条痕文土器(縄文時代早期後葉)深鉢96点(1168.4g)、古式土師器(中台～草刈式)鉢1点(7.2g)、古式土師器(中台～草刈式)高杯1点(55.5g)、古式土師器(中台～草刈式)小型丸底系鉢1点(11.5g)、古式土師器(中台式)壺2点(102.6g)、古式土師器(中台～草刈式)壺27点(176.5g)、古式土師器(中台～草刈式)甕44点(228.4g)、古式土師器(草刈式)甕3点(86.3g)、古墳時代壺5点(35.8g)、土師器杯44点(135.1g)、ロクロ土師器杯31点(185.9g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)6点(22.4g)、土師器小型杯(内面黒色処理)1点(14.6g)、土師器(器種不明)24点(33.0g)、須恵器杯5点(20.9g)、須恵器(永田・不入)杯2点(6.9g)、須恵器(南比企)杯1点(30.4g)、須恵器(須恵村産?)瓶壺類1点(19.7g)、須恵器瓶壺類12点(255.8g)、須恵器甕25点(692.8g)、須恵器(東海産)甕6点(251.5g)、須恵器(新治産)甕1点(21.0g)、須恵器(猿投窯産)甕1点(26.5g)、灰釉陶器椀1点(1.5g)、灰釉陶器壺2点(11.1g)、原始灰釉陶器瓶壺類1点(5.4g)、灰釉陶器瓶壺類3点(18.6g)、常滑産片口鉢II類2点(256.7g)、瀬戸・美濃系の播鉢(後IV(新)～大窯)1点(7.9g)、常滑産の壺1点(28.2g)、近世在出土器内耳鍋1点(33.6g)、丸瓦(玉縁式)4点(428.4g)、丸瓦(行基式)1点(31.5g)、丸瓦14点(779.2g)、平瓦(縄叩き)48点(3779.7g)、不明瓦8点(80.2g)、釘1点(2.7g)、鉄滓(椀形滓)1点(58.9g)、鉄滓(粒状滓)1点(12.1g)、不明鉄製品2点(7.1g)が出土している。出土遺物からSD01は中世の所産と考えられる。

SD02は幅2.44m、主軸方位N-33°-E、深さ0.72mの溝である(第18・19図・図版3)。SD01・03に切られる。中台遺跡(第2次)で検出されたSM1(小川2022)と同遺構である。出土遺物11は中台式の壺、12は中台式の甕、13は中台～草刈式の古式土師器(小型丸底系鉢)である。14は中台式の古式土師器甕である。斜行叩き後、粗いヘラナデを施しており、畿内の影響を受けたものか。SDの底面付近から出土しており、本遺構の時期決定の根拠となる。出土遺物11・12・14は地山面直上から出土している。その他非掲載遺物として、条痕文土器(縄文早期後葉)深鉢63点(756.3g)、弥生時代後期甕1点(1.8g)、古式土師器(中台～草刈式)壺2点(29.5g)、古式土師器(中台～草刈式)甕2点(14.3g)、土師器杯7点(18.4g)、土師器甕1点(6.0g)、土師器(器種不明)3点(3.1g)、須恵器甕2点(21.9g)、灰釉陶器瓶壺類1点(9.4g)が出土している。土師器・須恵器・灰釉陶器は上層から出土しており、SD01からの混入と考えられる。SD02は出土遺物から弥生時代末(中台式)の所産と思われる。

SD03は幅1.40m、主軸方位N-1°-E、深さ0.73mの溝である(第15・16・17・19図・図版3)。SD01・02を切り、SK01、Pit01・02に切られる。中台遺跡(第2次)で検出されたSD4(小川2022)と同遺構である。底部に硬化面は認められず、土地区画の性格をもった溝と思われる。また、SD01

SI01

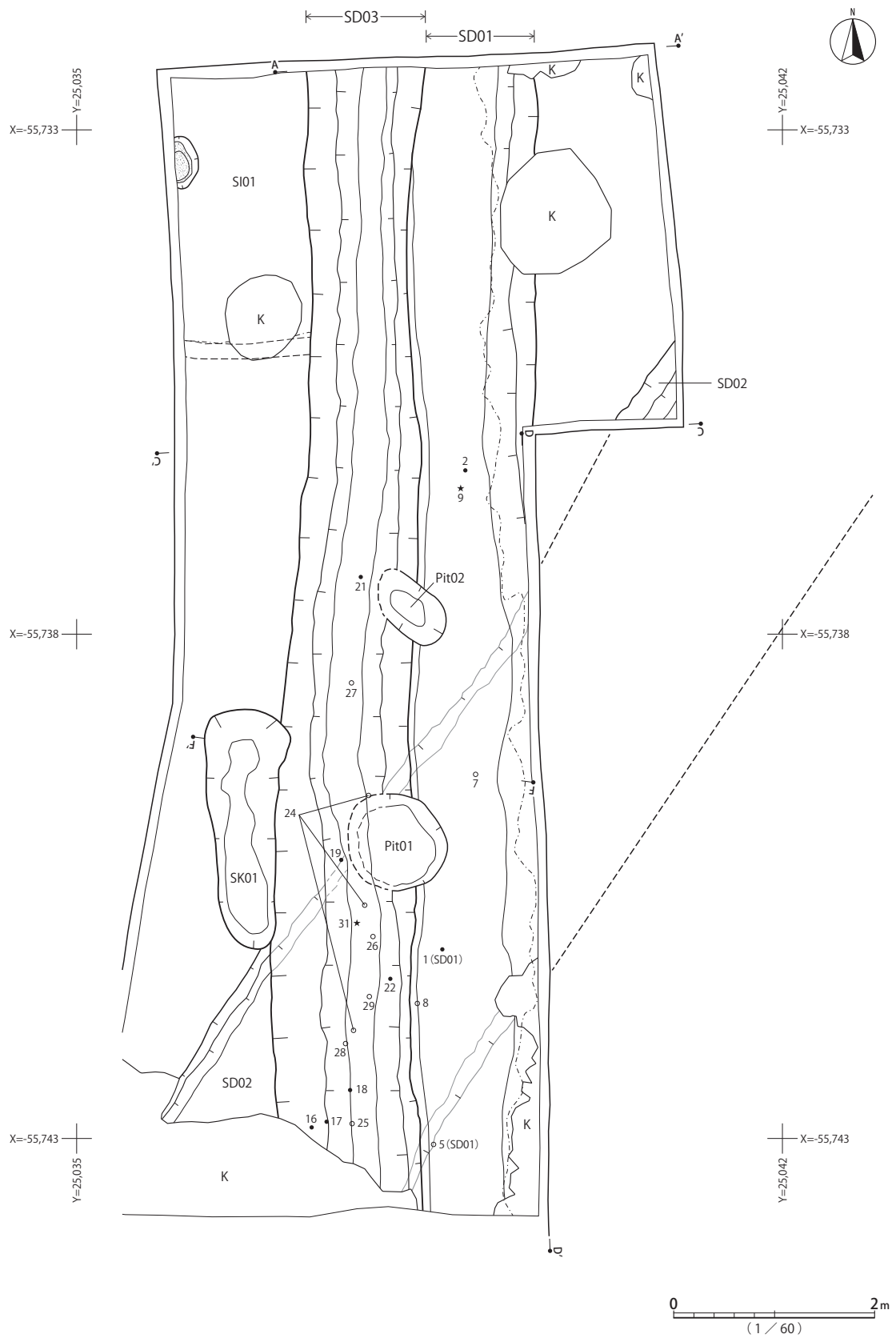


第14図 中台遺跡(第5次)平面図・断面図(1)

を切ることから、同時期に機能していたとは考えられず、道路状遺構が廃絶されて暫くしてSD03が作られたと考えられる。出土遺物15は縄文早期の深鉢土器(野島式)である。16は中台式壺、17は中台式甕、18は草刈式高杯の脚部である。出土遺物16~18はSD02からの混入であろう。出土遺物22は常滑産の甕(9型式)、23は置きカマドの縁部である。31は釘で、釘頭と側面に一部未調整の部分を残す。その他非掲載遺物として、条痕文土器(縄文時代早期後葉)深鉢63点(796.1g)、弥生土器(山田橋式~中台式)高杯1点(26.8g)、弥生土器壺1点(26.3g)、古式土師器(草刈式)高杯3点(29.5g)、古式土師器(中台~草刈式)小型丸底系鉢2点(7.6g)、古式土師器(中台~草刈式)炉器台1点(24.2g)、古式土師器(中台~草刈式)壺21点(187g)、古式土師器(中台~草刈式)広口壺1点(25.7g)、古式土師器(中台~草刈式)小型壺2点(19.0g)、古式土師器(草刈式)小型壺1点(14.9g)、古式土師器(中台~草刈式)甕54点(548.0g)、古式土師器(草刈式)台付甕1点(20.2g)、土師器杯5点(27.1g)、ロクロ土師器31点(161.2g)、ロクロ土師器杯(内面黒色処理)5点(52.3g)、ロクロ土師器椀3点(29.8g)、土師器甕34点(311.8g)、須恵器杯2点(7.5g)、須恵器(永田・不入)杯5点(25.8g)、須恵器瓶壺類3点(22.9g)、須恵器甕10点(154.3g)、須恵器(千葉産)甕2点(45.3g)、須恵器(東海産)甕3点(127.8g)、須恵器(猿投産)甕1点(12.6g)、灰釉陶器瓶壺類6点(118.1g)、常滑産の甕2点(80.4g)、丸瓦(行基式)4点(739.7g)、丸瓦3点(146g)、軒平瓦(縄叩き、瓦当部無文)1点(91.6g)、軒平瓦(瓦当部無文)1点(111.6g)、平瓦(縄叩き)34点(2823.2g)、平瓦(格子叩き、彫11)1点(214.3g)、平瓦(格子叩き、彫5?)1点(102.8g)、平瓦(格子叩き、彫不明)1点(75.4g)が出土している。SD03は出土遺物から中世の所産と思われる。

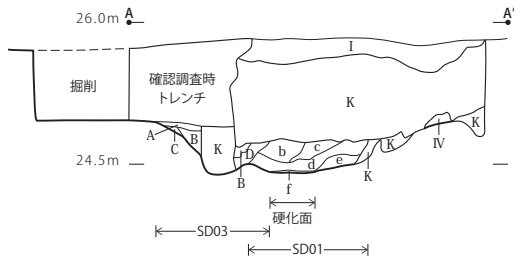
SK01は長楕円形の土坑で、長軸2.40m×短軸0.68m、深さ0.24mである。SD03を切る。ロームブロックを多量に含む粗い覆土で、出土遺物はない。形状や覆土の状況からSK01は近世の所産と思

SD01・03・SK01



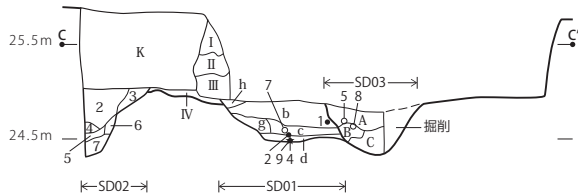
第15图 中台遺跡(第5次) 平面図(2)

SD01・03

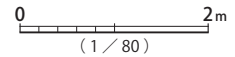


- I 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり強い 粘性なし 客土
- IV 10YR6/6 明黄褐色土 しまり強い 粘性あり ソフトローム
- b 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(5～20mm)多量に含む しまり弱い 粘性なし 一部根の掘乱の影響を受ける SD01
- c 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～15mm)含む しまりやや強い 粘性あり 一部根の掘乱の影響を受ける SD01
- d 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～8mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり 一部根の掘乱の影響を受ける SD01
- e 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～8mm)やや多く含む、焼土粒子(5mm以下)少量含む しまり弱い 粘性なし 一部根の掘乱の影響を受ける SD01
- f 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む、焼土粒子(5mm以下)少量含む しまり非常に強い 粘性あり SD01
- A 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり SD03
- B 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブツク(5～15mm)多量に含む、焼土粒子(5mm以下)少量含む しまり強い 粘性あり 一部根の掘乱の影響を受ける SD03
- C 10YR3/4 暗褐色土 ロームブツク(5～15mm)やや多く含む、焼土粒子(5mm以下)少量含む しまり強い 粘性あり SIO1 貼床の一部を壊し、その一部が覆土に混じる SD03
- D 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブツク(5～15mm)やや多く含む、焼土粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり SD03

SD01・02・03

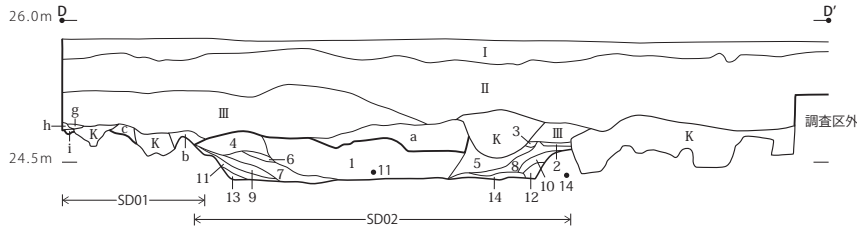


- I 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり強い 粘性なし 客土
- II 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)・焼土粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性なし 現代耕作土
- III 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1～3mm程度)・焼土粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし 現代耕作土
- IV 10YR6/6 明黄褐色土 しまり強い 粘性あり ソフトローム
- b 10YR3/1 黒褐色土 炭化物・焼土粒子(5mm以下)少量含む、ロームブロック(5～10mm)多量に含む しまりやや強い 粘性あり SD01
- c 10YR3/1 黒褐色土 炭化物・焼土粒子(5mm以下)少量含む、ロームブロック(5～7mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり SD01
- d 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり非常に強い 粘性あり 硬化面 SD01
- g 10YR3/1 黒褐色土 炭化物・焼土粒子(5mm以下)少量含む、ロームブロック(5～7mm)含む しまりやや強い 粘性あり SD01
- h 10YR4/3 にぶい黄褐色土 微小なローム粒含む しまり強い 粘性なし SD01・02 SPD-SPD'のh層に相当 SD01
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)含む しまりやや強い 粘性あり SD02
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性あり SD02
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)含む しまりやや強い 粘性あり SD02
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性あり SD02
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)やや多く含む しまり弱い 粘性なし SD02
- 7 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量に含む しまりやや強い 粘性なし SD02
- A 10YR2/2 黒褐色土 ロームブツク(5～10mm)含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり SD01・02・03, SK01 SPF-SPF'のA層に相当 SD03
- B 10YR2/2 黒褐色土 ロームブツク(5～10mm)多量に含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり SD01, SK01・03 SPA-SPA'のB層に相当 SD03
- C 10YR2/1 黒褐色土 ロームブツク(5～8mm)含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり SD01・03, SK01 SPA-SPA'のC層に相当 SD03



第16図 中台遺跡(第5次)断面図(2)

SD01・02

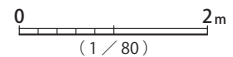


- I 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり強い 粘性なし 客土
- II 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)含む しまり強い 粘性なし 現代耕作土
- III 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1~3mm)含む しまりやや強い 粘性なし 現代耕作土
- a 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり SD01 表層
- b 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~3mm)含む しまり弱い 粘性なし
- c 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(3mm程度)含む しまり弱い 粘性なし
- g 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)含む しまり強い 粘性なし
- h 10YR4/3 にぶい黄褐色土 微小なローム粒子含む しまり強い 粘性なし SD01・02・03 SPC-SPE' の h 層に相当
- i 10YR4/4 にぶい黄褐色土 微小なローム粒子含む しまりやや強い 粘性なし
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR5/6 明褐色土 しまり強い 粘性なし ロームの残骸か?
- 3 10YR4/6 褐色土 しまり強い 粘性なし
- 4 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性なし
- 5 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)含む しまり弱い 粘性あり
- 6 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性あり
- 7 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1~3mm程度)含む しまり弱い 粘性なし
- 8 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子(3mm程度)含む しまり弱い 粘性なし
- 9 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性なし
- 10 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1~3mm程度)含む しまりやや強い 粘性なし
- 11 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子(1~3mm程度)含む しまりやや強い 粘性なし
- 12 10YR2/2 黒褐色土 微小なローム粒子含む しまり弱い 粘性あり
- 13 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)含む しまり弱い 粘性あり
- 14 7.5YR3/2 黒褐色土 しまり強い 粘性あり

SD01・02・03・SK01

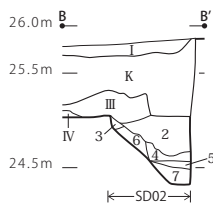
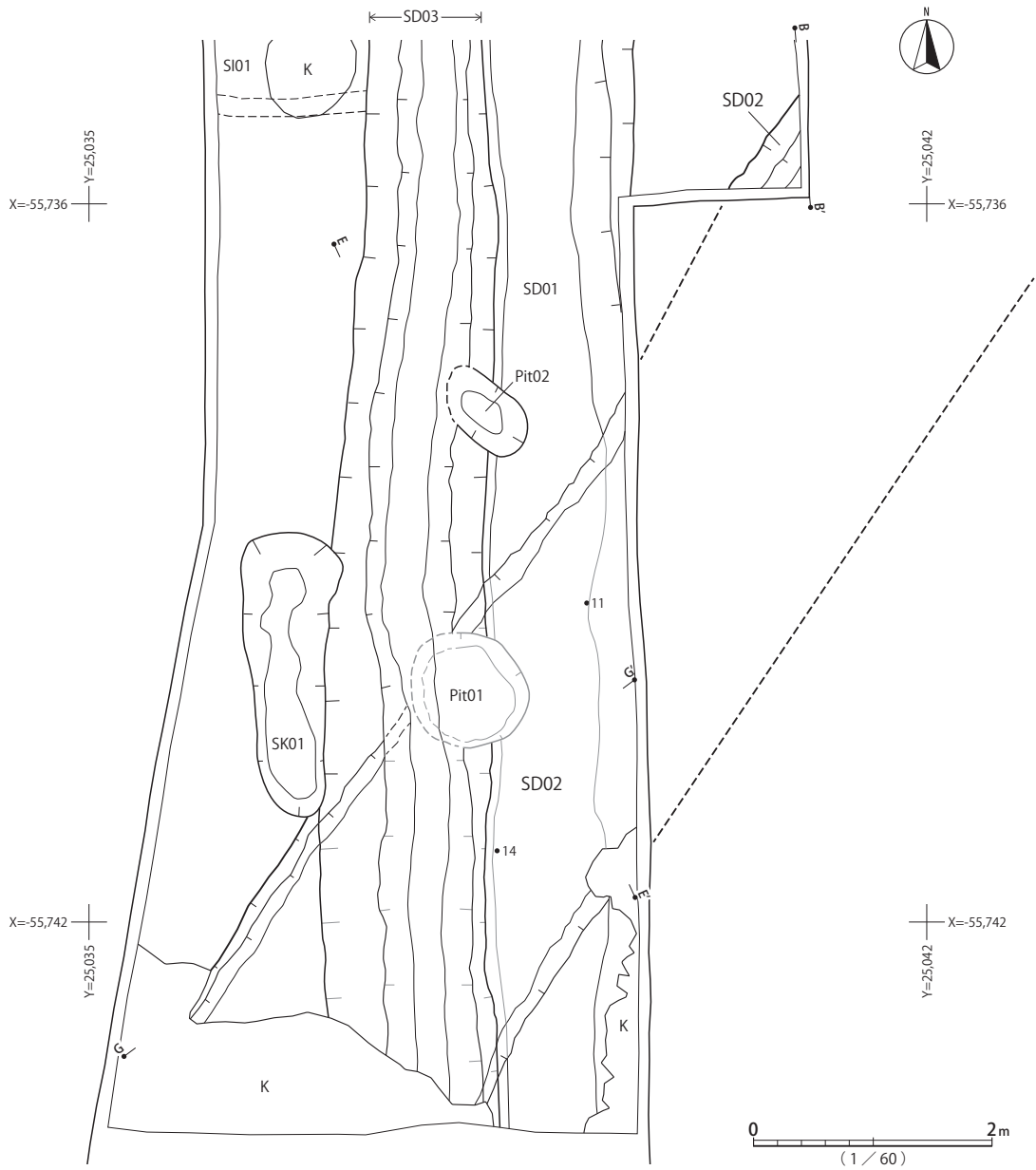


- a 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり SD01 表層
- b 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む しまり強い 粘性あり
- c 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子含む しまり強い 粘性あり
- d 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm)含む しまり非常に強い 粘性あり 硬化面
- e 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(3~5mm)含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面
- f 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面
- g 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(1mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし SD01・02・03 SPE-SPE' の g 層に相当
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)含む しまりやや強い 粘性あり SD02 立ち上がり面
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- 3 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱い 粘性なし SD01・02・03 SPE-SPE' の 3層に相当
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1~3mm)含む しまりやや強い 粘性なし
- 5 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(1mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり SD01・02・03 SPE-SPE' の 5層に相当
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 7 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- A 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(5~10mm)含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- B 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(5~10mm)多量に含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり
- C 10YR2/1 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- D 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし
- E 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)多量に含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし
- i 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)多量に含む しまり弱い 粘性なし
- ii 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(5~10mm)多量に含む しまり弱い 粘性なし



第17図 中台遺跡(第5次)断面図(3)

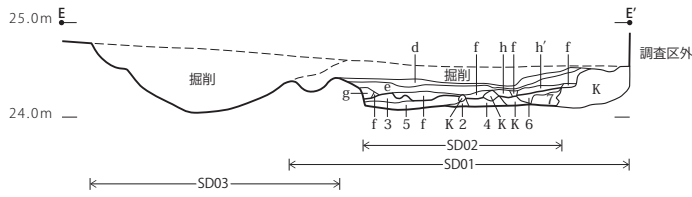
SD02



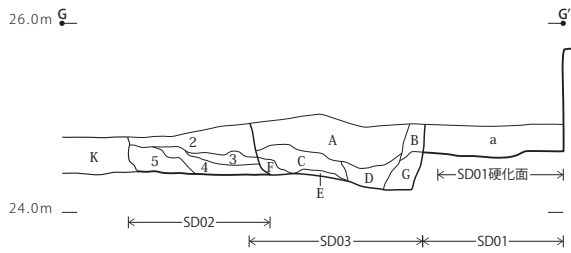
- I 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり強い 粘性なし 客土
- III 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~3mm程度)、焼土粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし 現代耕作土
- IV 10YR6/6 明黄褐色土 しまり強い 粘性あり ソフトローム
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(5~10mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(5~10mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性あり
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)含む しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性あり
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)やや多く含む しまり弱い 粘性なし
- 7 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)多量に含む しまりやや強い 粘性なし

第18図 中台遺跡(第5次) 平面図(3)・断面図(4)

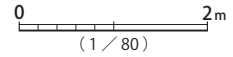
SD01・02・03



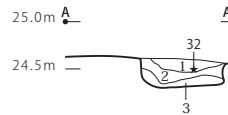
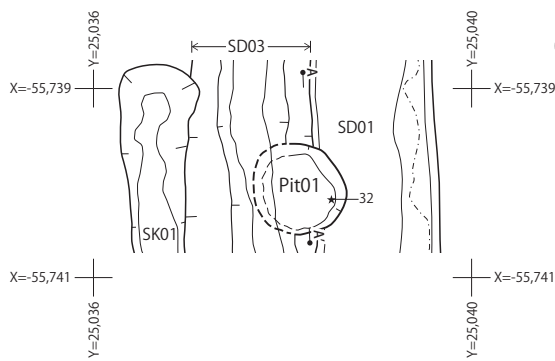
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)含む しまり強い 粘性あり SD02
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)含む しまり強い 粘性あり SD01・02・03・SK01 SPF-SPF の3層に相当 SD02
- 4 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり SD02
- 5 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)含む しまり強い 粘性なし SD01・02・03・SK01 SPF-SPF の5層に相当 SD02
- 6 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性なし SD02
- 7 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1~3mm)含む しまりやや強い 粘性なし SD02
- d 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面 SD01
- e 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒子(1mm程度)含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面 SD01
- f 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒子(1~3mm)少量含む しまり非常に強い 粘性なし 硬化面 SD01
- g 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性なし SD01・02・03・SK01 SPF-SPF のg層に相当 SD01
- h 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性なし SD01
- h' 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし SD01



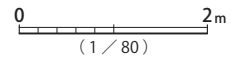
- a 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり SD01表層
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし
- 3 10YR2/2 黒褐色土 しまりやや強い 粘性あり
- 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)多量に含む しまり強い 粘性なし
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~3mm)多量に含む しまり強い 粘性なし
- A 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)少量含む しまり強い 粘性なし
- B 10YR2/3 黒褐色土 微小なローム粒子少量含む しまりやや強い 粘性あり
- C 10YR2/3 黒褐色土 微小なローム粒子少量含む しまり強い 粘性あり
- D 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- E 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~8mm)多量に含む、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり
- F 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む しまり強い 粘性あり
- G 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(3mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし



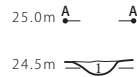
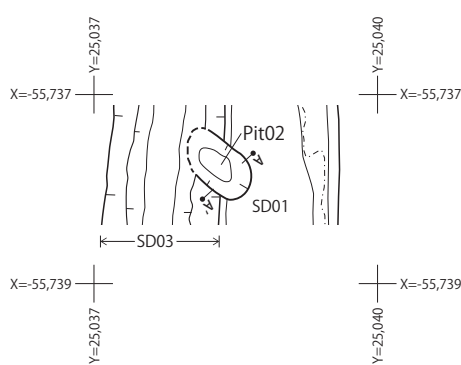
Pit01



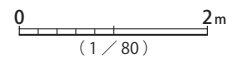
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)含む しまりやや強い 粘性なし
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)含む、焼土粒子含む しまり弱い 粘性あり
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)多量に含む しまりやや強い 粘性なし



Pit02



- 1 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし



第19図 中台遺跡(第5次) 平面図(4)・断面図(5)

われる。

Pit01は長軸0.97m×短軸0.96m、地山までの深さ0.28mである。SD01・02・03を切る。鉄滓が1点出土している(出土遺物32)。切り合い関係から、Pit01は中世～近世の所産であると思われる。

Pit02は長軸0.81m×短軸0.46m、地山までの深さ0.18mである。SD01・02・03を切る。出土遺物はないが切り合い関係から、Pit02は中世～近世の所産であると思われる。

出土遺物33は上総型暗文杯、34は常滑産の壺、35は丸瓦である。

中台遺跡(第5次)は神門3～5号墳に近接しており、それら古墳群を形成した母村が本調査区に展開していた可能性が考えられる。特にSD02は神門古墳群の形成時期とも一致しており、中台遺跡(第1次)の溝2416号などのような、首長の居住域・政治祭祀的空間に関連する方形区画に近い性格を持ったものかもしれない。

引用参考文献

小川浩一2022「中台遺跡(第2次)」『令和3年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第55集
市原市教育委員会

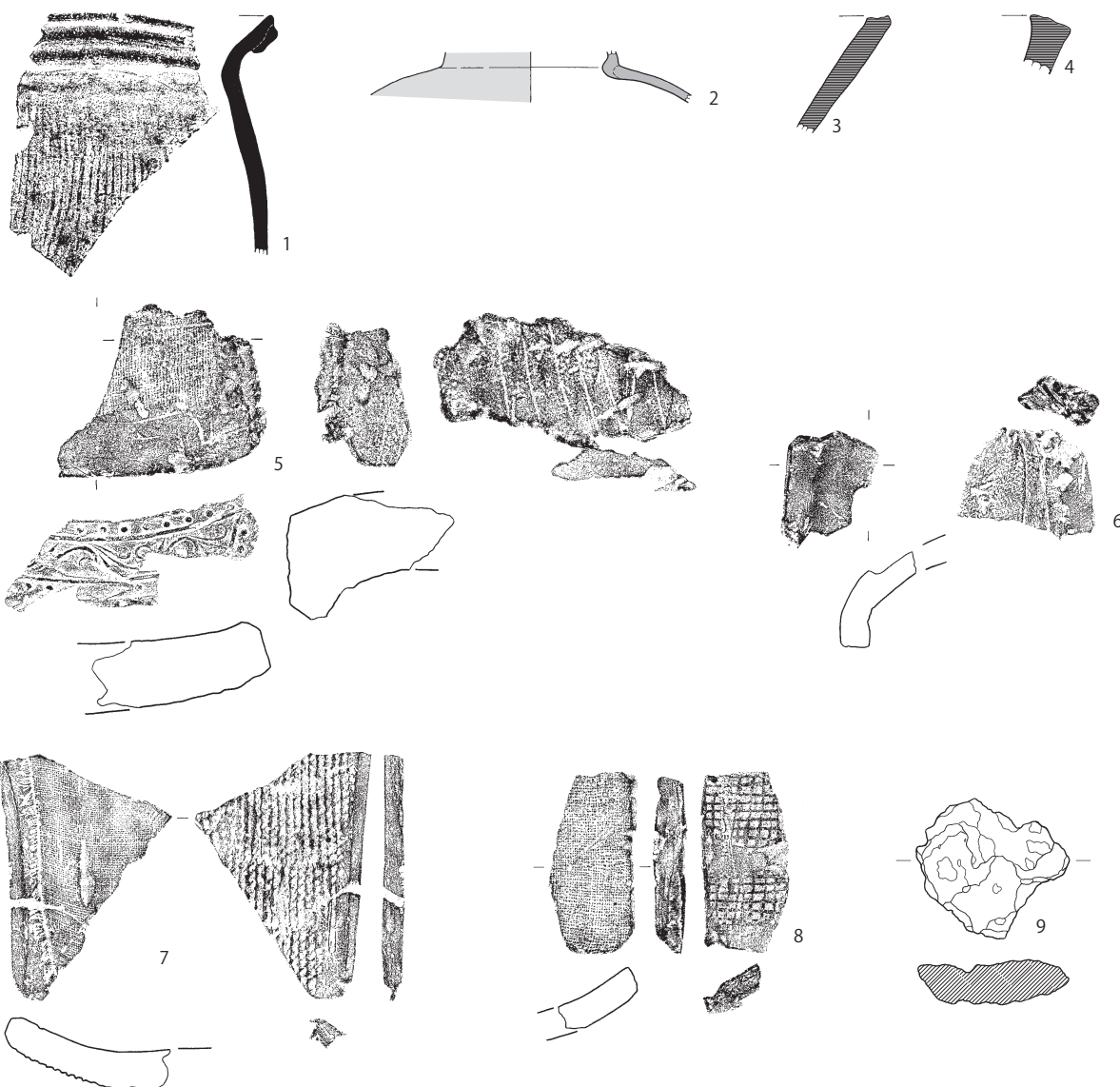
櫻井敦史他2009『上総国分僧寺跡Ⅰ』上総国分寺台遺跡調査報告XIX 市原市教育委員会

高橋康男1994『市原市 上総国府推定地確認調査報告書(1)』財団法人市原市文化財センター

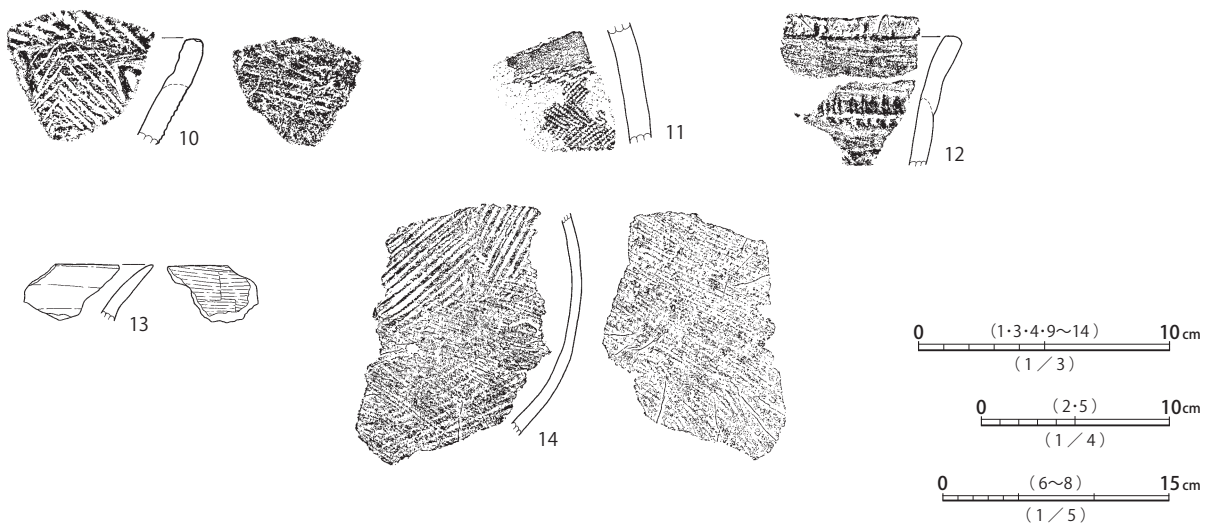
鶴岡英一他2013『市原市中台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告XXII 市原市教育委員会

鶴岡英一他2016『上総国分僧寺跡Ⅱ』上総国分寺台遺跡調査報告XXVII 市原市教育委員会

SD01

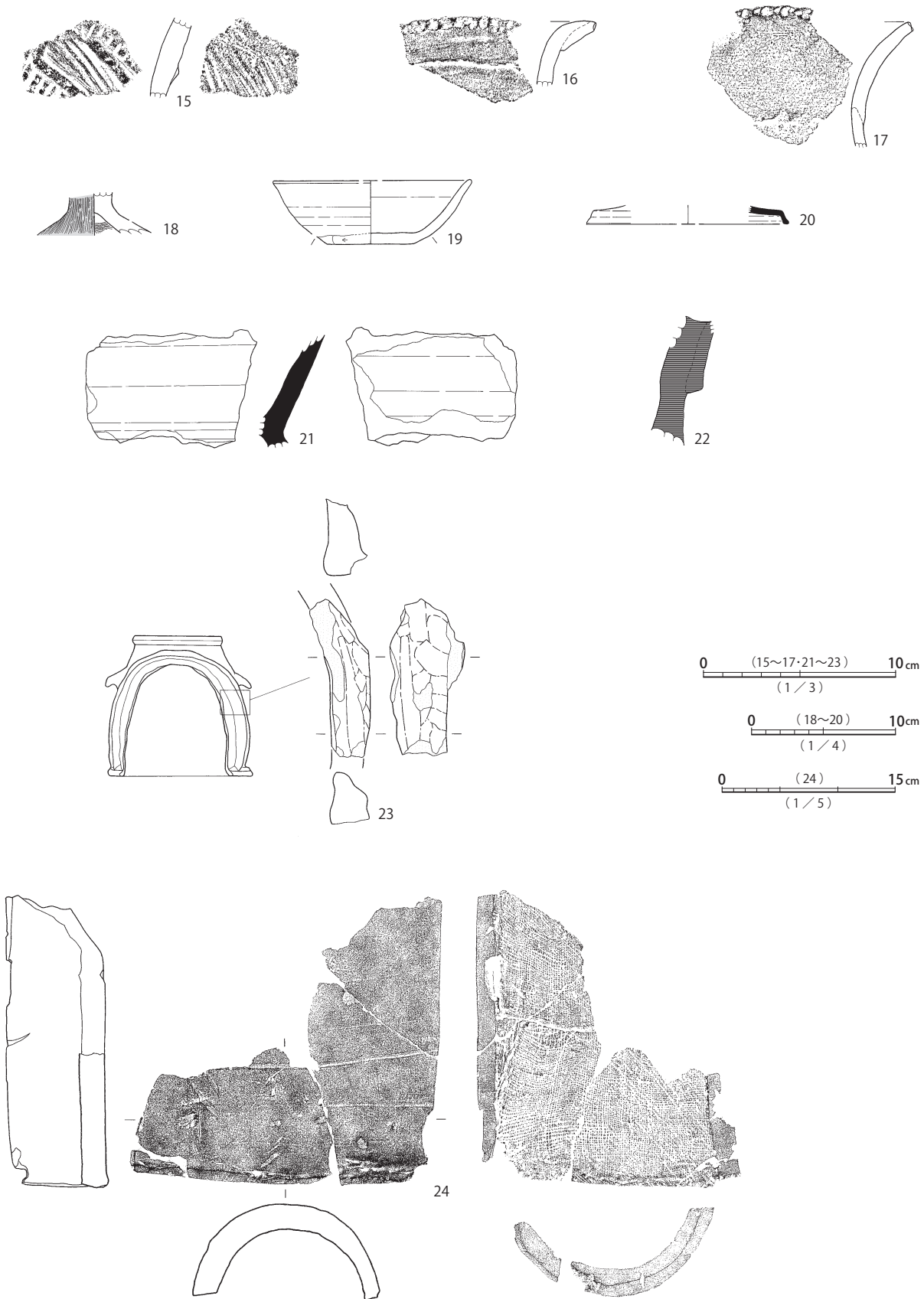


SD02



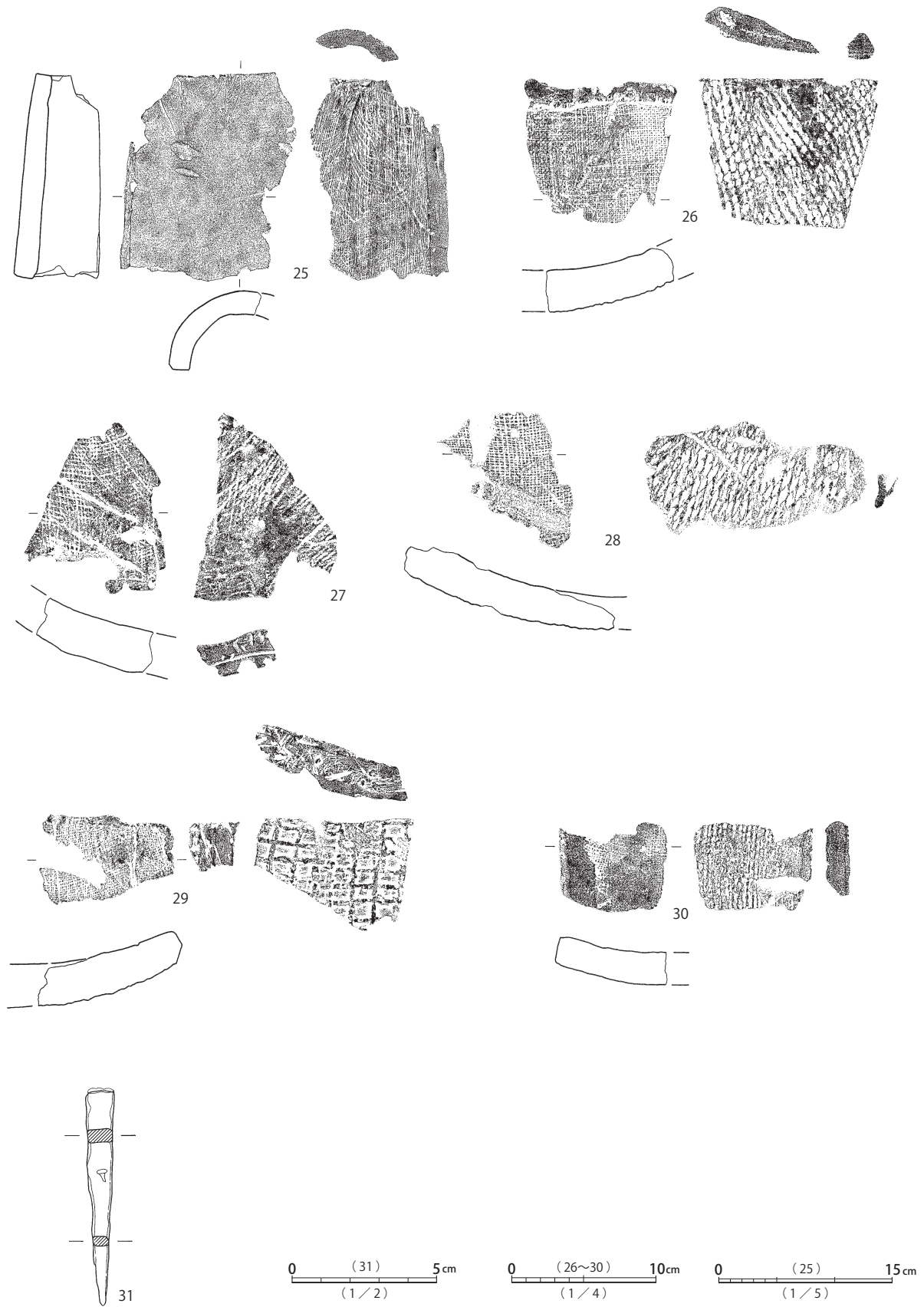
第20図 中台遺跡(第5次) 遺物実測図(1)

SD03



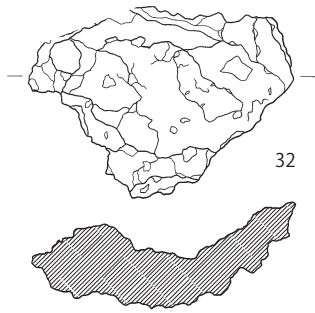
第21図 中台遺跡(第5次) 遺物実測図(2)

SD03

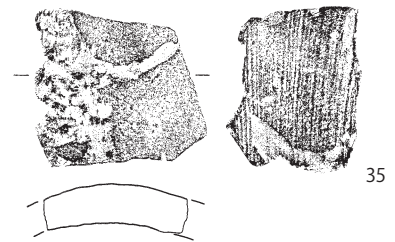
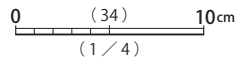
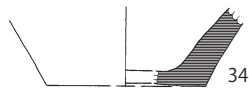
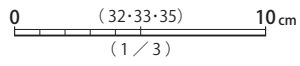
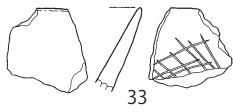


第22図 中台遺跡(第5次) 遺物実測図(3)

Pit01



遺構外



第23図 中台遺跡(第5次) 遺物実測図(4)

5 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡

遺跡の位置 遺跡は東京湾旧海岸線から東方約2kmにある標高22～24m前後の台地上に位置し、台地の縁辺部は、小谷によって樹枝状に開析された舌状台地が連なる。調査地点は、海岸平野の市原条里制遺跡から台地に上がった場所に所在し、東側は谷に向かって緩やかに傾斜し始めている。令和3年度には東隣で第28次(確認調査)を行っている。

本調査区から北方100mには光善寺廃寺が存在する。1948年には早稲田大学による調査で瓦が採集され、周辺からは古相の凸面布目平瓦等が確認されている。また、瓦は千葉市弥三郎第3遺跡と同范のもの、武士廃寺と同范のもの、国分寺創建瓦と同范のものが確認され、光善寺廃寺の時期は7世紀末～8世紀初頭に推定されている(笹生1993)。

周辺の調査では、市原城跡辻地区(国道297号線の西側部分)において、大規模な掘立柱建物跡の柱穴が検出されている(田中2011)。光善寺廃寺跡周辺を含む一帯は、上総国府推定値の有力な候補地として指摘されており、特に第29次調査区では、官衙関連の南北方向の区画溝などの存在が想定された。

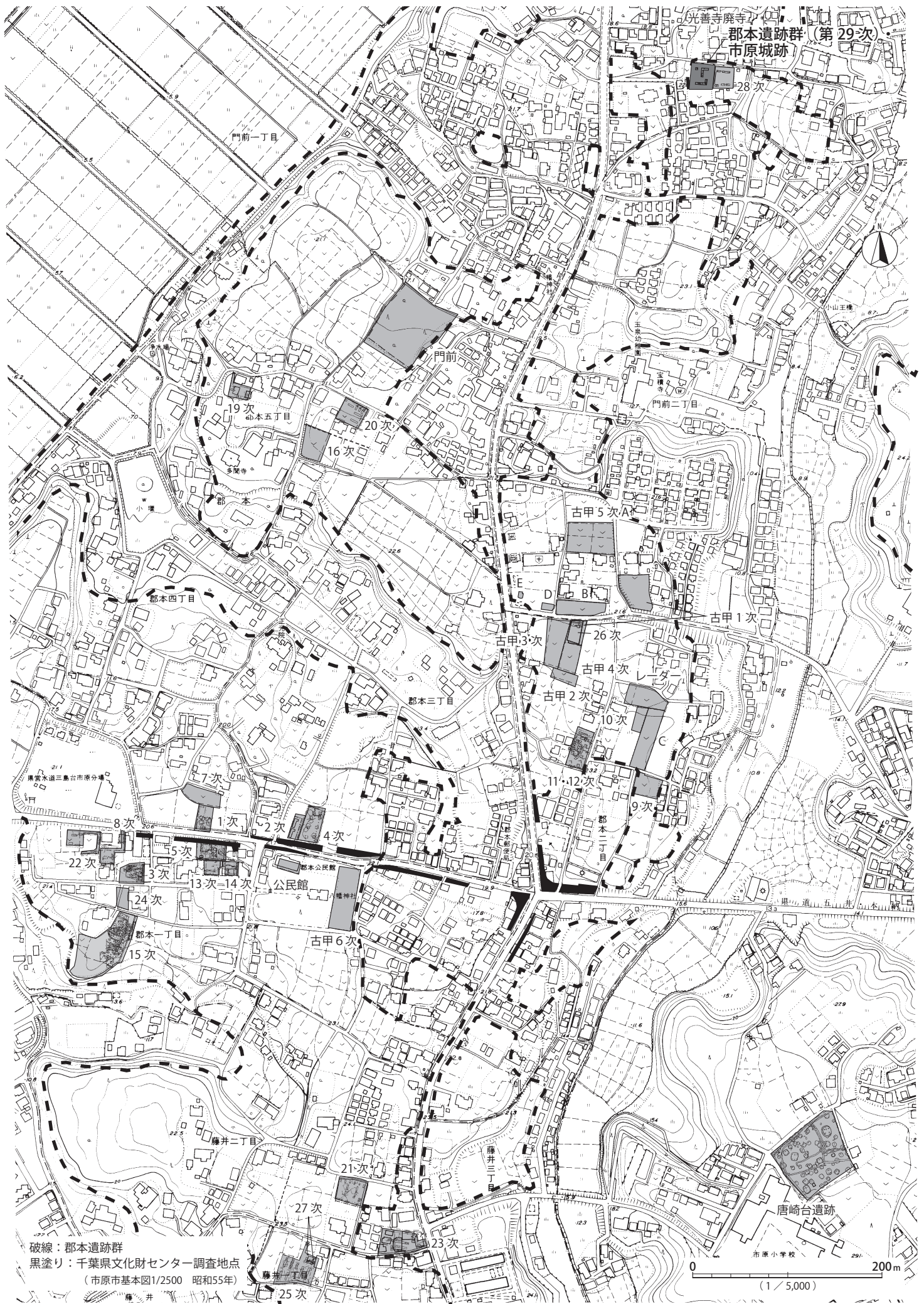
調査概要 宅地造成に先立ち確認調査を行った。事業範囲面積661㎡に対し、3本のトレンチ計66.1㎡を設定した。1トレンチの遺構確認面までの深さは1.16m、2トレンチは1.20m、3トレンチは1.20mであった(第26図)。調査の結果、平安時代竪穴建物跡10棟・土坑1基、中世～近世土坑11基を確認した。

また、今回調査区では台地整形土が複数層確認されている。出土遺物からV2・V2'層は11世紀後半～12世紀、V1層はV2-IV1層の漸移層、IV1層～Ⅲ層は近現代、I～Ⅱ層は現代客土と推定される(第26図・図版4)。少なくとも、11世紀後半～12世紀と近現代で2回大規模な整地を行っており、整地層の中から土師器杯・椀や光善寺廃寺系の瓦が大量に出土した。

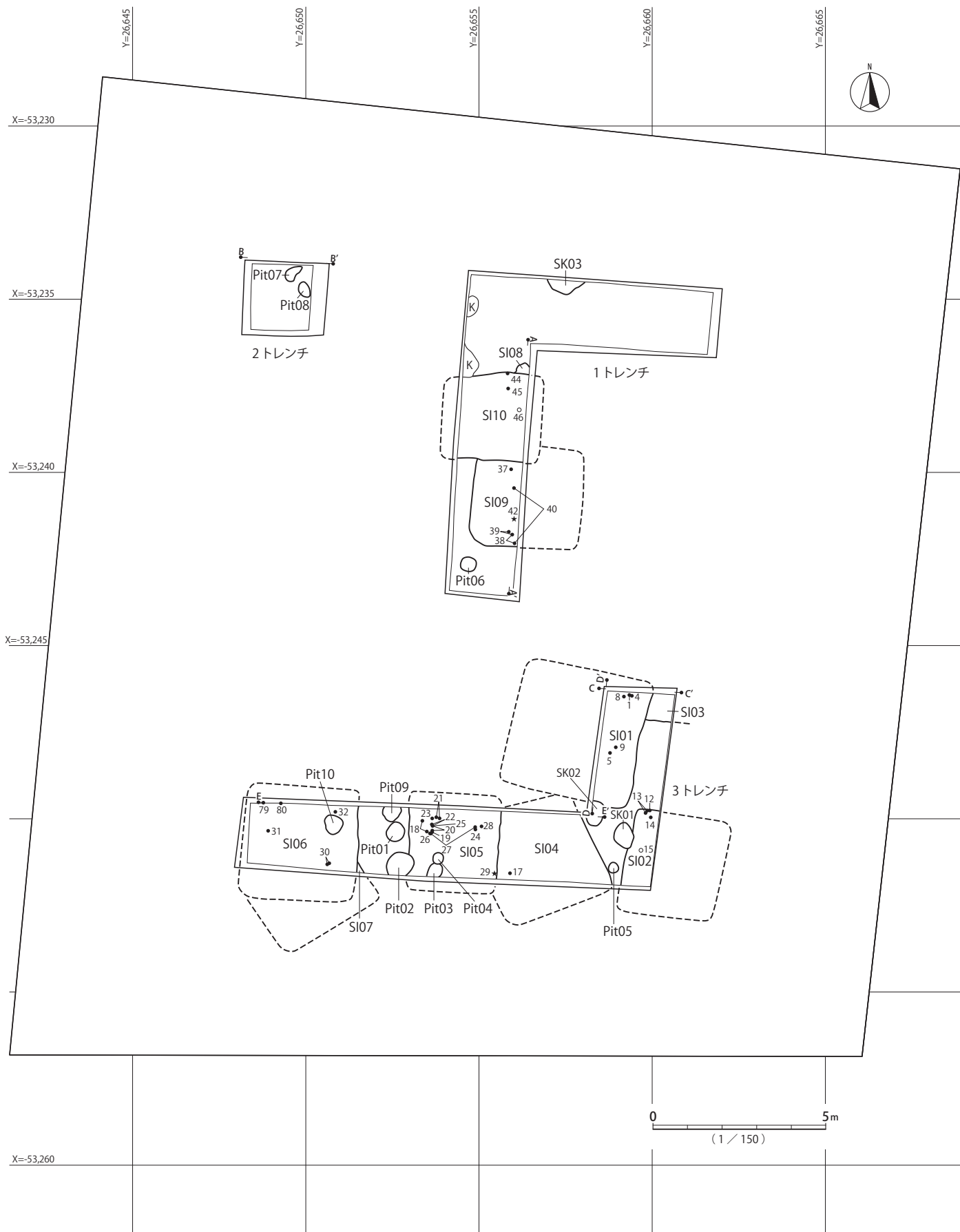
遺物として特筆すべきは中国南方系白磁と思われる水注(出土遺物79)である。12世紀頃の所産と考えられ、V2層～V1層中で出土した。またV2'層下の竪穴建物跡群では、遺構確認面のレベルで大量の土師器杯・椀が検出された。特に、SI01・SI05の一括資料は、形態・法量・器種組成が上総国分僧寺跡873号遺構の資料と近似している。873号遺構の土器群は11世紀後半に位置付けられており(櫻井2009)、遺構から出土した炭化アワの¹⁴C年代測定もその編年を補強するものとなっている((株)加速器分析研究所2023)。SI01・SI05で出土した土師器杯・椀も11世紀後半に位置付けられると思われる。

第29次調査区では、官衙関連の南北方向の区画溝などの存在が想定されたが、今回調査区では溝状遺構は検出されなかった。

遺構と遺物 SI01は大半が調査区外に展開するが、方形を呈していると思われる(第25図)。長軸(3.33)m×短軸(1.08)m、主軸方位N-10°-Eである。SI03を切り、SK02に切られる。出土遺物1はロクロ土師器小型杯で、2はロクロ土師器杯で、外面の一部に赤彩を施す。3はロクロ土師器小型椀で、内面に黒色処理が施されている。出土遺物4～11はロクロ土師器小型杯で、その内5～7・10はスス・油染みが付着している。その他非掲載遺物としてロクロ土師器杯3点(23.4g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)2点(4.7g)、土師器甕2点(30.6g)、須恵器甕1点(3.0g)が出土している。



第24図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 周辺地形図



第25図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 全体図

SI01は出土遺物から平安時代後期(11世紀後半)の所産と思われる。

SI02は方形を呈し、長軸(2.19)m×短軸(0.81)m、主軸方位N-11°-Eである(第25図・図版4)。SK01に切られる。出土遺物12～14はロクロ土師器杯である。15は光善寺廃寺系の平瓦で、技法は桶巻づくりである。その他非掲載遺物として、弥生土器(後期～終末期)甕2点(5.2g)、ロクロ土師器杯12点(74.4g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)3点(9.0g)、土師器甕7点(41.6g)、須恵器瓶壺類1点(26.6g)が出土している。出土遺物からSI02は平安時代(11世紀代)の所産と思われる。

SI03は大部分がSI01に切られているため、形状・規模は不明である(第25図)。出土遺物16はロクロ土師器小型椀で、内面にヘラミガキを施す。その他非掲載遺物として、弥生土器(後期～終末期)甕2点(23.6g)、弥生土器(後期～終末期)壺1点(2.2g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)1点(3.1g)、土師器皿?1点(4.1g)、土師器甕11点(127.5g)が出土している。SI03は出土遺物から平安時代の所産と思われる。

SI04は大半が調査区外に展開するが、隅がやや丸まった方形を呈していると思われる(第25図)。長軸(3.03)m×短軸(2.95)m、主軸方位N-26°-Wである。SI05に切られる。出土遺物17は弥生時代後期～終末期の壺である。その他非掲載遺物として、弥生土器(後期～終末期)甕2点(64g)が出土している。SI04は出土遺物から弥生時代後期～終末期の所産と思われる。

SI05は大半が調査区外に展開するが、方形を呈していると思われる(第25図)。長軸2.56m×短軸(1.96)m、主軸方位N-5°-Eである。Pit02・03・04に切られる。出土遺物18～23・25～27は一箇所からまとまって出土している。出土遺物18はロクロ土師器杯、19はロクロ土師器椀、20・21は足高高台杯、22・23はロクロ土師器椀、24・25はロクロ土師器小型椀である。19・21～25は内面に黒色処理を施す。26はロクロ土師器足高高台皿である。出土遺物28は灰釉陶器壺、29は鉄鏃である。29は鏃身部が厚く先端の尖りが鈍いため、鏃通しと思われる。その他非掲載遺物として、ロクロ土師器杯6点(35g)、土師器甕2点(307.7g)、須恵器甕1点(18.8g)が出土している。SI05は出土遺物から平安時代後期(11世紀後半)の所産と思われる。

SI06は長軸(3.18)m×短軸(1.80)m、主軸方位N-3°-Eである(第25図)。SI07を切る。出土遺物30・31はロクロ土師器杯、32は足高高台杯である。その他非掲載遺物として、古式土師器壺1点(12.8g)、ロクロ土師器杯4点(73.7g)、土師器甕?1点(10.4g)が出土している。SI06は出土遺物から平安時代(11世紀代)の所産と思われる。

SI07は大半をSI06に切られているため、形状・規模は不明である(第25図)。出土遺物33は山田橋式の甕である。その他非掲載遺物として、古式土師器壺?1点(2.3g)、古式土師器甕?1点(30.4g)、ロクロ土師器杯1点(1.5g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)1点(2.7g)が出土している。ロクロ土師器は混入と思われる。SI07は出土遺物から弥生時代後期～終末期の所産と考えられる。

SI08は大半をSI10に切られているため、形状・規模は不明である(第25図)。覆土に多量の炭化物・焼土粒子が含まれていたため、カマドの一部を検出したものと思われる。出土遺物34はロクロ土師器足高高台杯、35は土師器甕である。その他非掲載遺物として、弥生土器(後期～終末期)甕3点(61.5g)、古式土師器壺?8点(58.3g)、土師器杯36点(72.1g)、ロクロ土師器杯椀類34点(149.3g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)5点(28.5g)、土師器甕?22点(181.5g)、須恵器杯

椀類1点(3.3g)、須恵器瓶壺類1点(11.8g)、灰釉陶器椀1点(2.1g)、平瓦1点(4.2g)、丸瓦2点(78.6g)、不明瓦5点(17.6g)が出土している。SI08は出土遺物から平安時代(11世紀代)の所産と思われる。

SI09は長軸(2.45)m×短軸(1.32)m、主軸方位N-5°-Eである(第25図)。SI10に切られる。出土遺物37はロクロ土師器椀で、内面に黒色処理を施す。外面に大量のスス・油染みが付着していることから灯明に使用したものである。38・39はロクロ土師器小型杯で、38はスス・油染みが付着しており灯明皿として使用している。41は埴である。小片のため推測だが正方形埴と思われる。42は鉄鍬(雁股)である。その他非掲載遺物として、弥生土器(後期～終末期)甕3点(14.3g)、古式土師器壺?2点(7.3g)、土師器杯13点(35.4g)、ロクロ土師器杯24点(94.0g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)4点(51.2g)、ロクロ土師器足高台杯1点(8.0g)、土師器甕5点(45.3g)、土師器(器種不明)5点(9.5g)、須恵器杯(内面赤色顔料付着)1点(4.4g)、須恵器甕1点(34.1g)、不明瓦2点(9.5g)が出土している。SI09は出土遺物から平安時代(11世紀代)の所産と思われる。

SI10は長軸2.53m×短軸(1.87)m、主軸方位N-88°-Wである(第25図)。SI08・09を切る。出土遺物45は羽釜の鏝部である。46は光善寺廃寺系の玉縁式丸瓦である。その他非掲載遺物として、縄文土器(後期)深鉢1点(54.5g)、弥生土器(山田橋式)壺2点(9.8g)、弥生土器(後期～終末期)壺?1点(18.0g)、古式土師器(古墳時代前期?)壺?1点(17.1g)、土師器杯3点(9.0g)、ロクロ土師器杯4点(30.2g)、ロクロ土師器椀(内面黒色処理)3点(58.2g)、土師器甕4点(51.3g)、須恵器甕1点(14.3g)、平瓦1点(32.1g)、不明瓦3点(17.1g)が出土している。SI10は出土遺物から平安時代(11世紀代)の所産と思われる。

SK01はやや不定な楕円形を呈する。遺物の出土は無い。中世～近世の所産と思われる。

SK02は長軸0.72m×短軸0.48mで、楕円形を呈する。遺物の出土は無いが、SI01を切り、V2'層下から掘り込まれていることから平安時代後期(11世紀後半～12世紀)の所産と思われる。

SK03は大半が調査区外へ展開しており、形状は不明である。覆土は暗褐色で、ロームブロックを多量に含んでいる。遺物の出土は無いが、覆土の状況から中世～近世の所産と思われる。

Pit01は円形を呈する。時期不明の土器小片が17点(28.7g)出土している。遺構の時期は中世～近世と思われる。

Pit02は円形を呈する。遺物の出土は無いが、SI05を切り、V1層上から掘り込まれていることから中世～近世の所産と思われる。

Pit03は円形を呈する。遺物の出土は無いが、SI05を切り、V1層上から掘り込まれていることから中世～近世の所産と思われる。

Pit04は円形を呈する。遺物の出土は無いが、Pit03を切っていることから中世～近世の所産と思われる。

Pit05・06は円形を呈する。遺物の出土は無いが、中世～近世の所産と思われる。Pit07・08はやや不定な楕円形である。遺物の出土は無いが、同様に中世～近世の所産と思われる。

Pit09は円形を呈する。遺物の出土は無いが、V2層を掘り込みV1層に切られているため、平安時代(12世紀)～近世に形成されたものと思われる。

Pit10はやや不定な円形を呈する。SI06を切る。遺物の出土は無く、層位も不明だが、他のPitと

同様に中世～近世の所産と思われる。

出土遺物51は東海産(K90～O53型式)の灰釉陶器皿である。52は貝巢穴泥岩で、被熱痕跡が認められる。53は型挽き三重弧文の軒平瓦で、技法は桶巻づくりである。56は光善寺廃寺系の平瓦で、技法は桶巻づくりである。LとRを組み合わせた特殊な縄叩き具を使用している。57・58は粘土板一枚づくりの平瓦である。58は2次的に被熱し変形するが、用途は不明である。59～62は光善寺廃寺系の平瓦(凸面布目)で、技法は桶巻づくりである。63は光善寺廃寺系の平瓦で、側面が角頭状を呈する。67・68は塼である。56～58はSK03の直上の層から出土している。

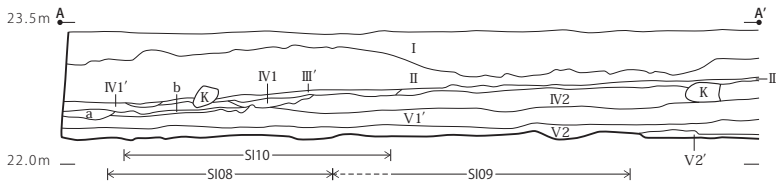
出土遺物75はロクロ土師器の杯で、口縁部外面と内面全域に黒色処理を施す。また、意図は不明だが体部に部分的に赤色顔料が付着する。79は中国南方系白磁の可能性があり、きめ細かな胎土で、ケズリ調整を多用する。12世紀頃の所産と考えられ、V2層～V1層の時期決定の根拠となる。80は近世陶器(飯能焼?)で、V2'層のレベルから出土している(第25・26図)が根攪乱による混入と思われる。83は光善寺廃寺系の平瓦(凸面布目)で、技法は桶巻づくりである。86は刀子、87は青銅製の小型椀である。

88はロクロ土師器杯で、底部内面に十字の線刻が施されている。

引用参考文献

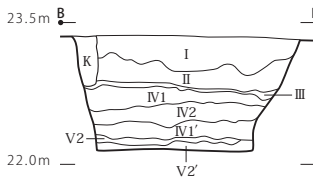
- (株)加速器分析研究所2023「第1節 上総国分僧寺跡・山田橋大山台遺跡・佐是城跡・天神台遺跡・神門3号墳・根田代遺跡・諏訪台古墳群における放射性炭素年代(AMS測定)」『市原市天神台遺跡III』上総国分寺台遺跡調査報告XXIX 市原市教育委員会
- 櫻井敦史他2009『上総国分僧寺跡I』上総国分寺台遺跡調査報告XIX 市原市教育委員会
- 笹生1993『房総考古学ライブラリー 7 歴史時代(1)』財団法人千葉県文化財センター
- 須田 勉1998『千葉県の歴史』資料編 考古3 財団法人千葉県史料研究財団
- 高橋康男1994『市原市 上総国府推定地確認調査報告書』財団法人市原市文化財センター
- 田中清美2011「市原城跡辻地区」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第19集 市原市教育委員会

1 トレンチ



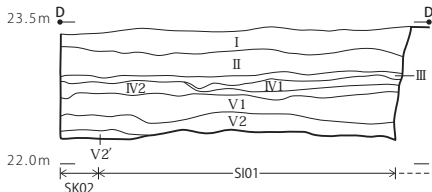
- I 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱い 粘性なし 攪乱表土
- II 10YR6/6 明黄褐色土 白色砂混じり しまり弱い 粘性なし 客土
- III 10YR3/2 黒褐色土 炭化物(30mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし 旧表土
- III' 10YR3/2 黒褐色土 炭化物(20~30mm)少量含む しまりやや強い 粘性なし 旧表土
- IV1 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(30mm程度)少量、ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)少量、炭化物微量含む しまりやや強い 粘性あり
- IV1' 10YR5/6 黄褐色土 灰黄褐色ブロック、ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- IV2 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物(5mm以下)、ロームブロック(5~25mm)多量を含む しまり強い 粘性あり
- V1' 10YR4/2 灰黄褐色土 焼土粒子・炭化物(5mm以下)やや多量、ローム粒子(5mm以下)少量含む しまり強い 粘性あり
- 層序的に3トレンチ基本土層のVI層に該当するが、3トレンチに比べて非常にしまりが強く、色も灰色がかかっている
- V2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量、炭化物微量含む しまり弱い 粘性あり
- V2' 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)微量含む しまり弱い 粘性あり
- a 5Y6/1 灰色土 しまりやや強い 粘性あり
- b 10YR5/1 褐灰色土 しまりやや強い 粘性あり

2 トレンチ

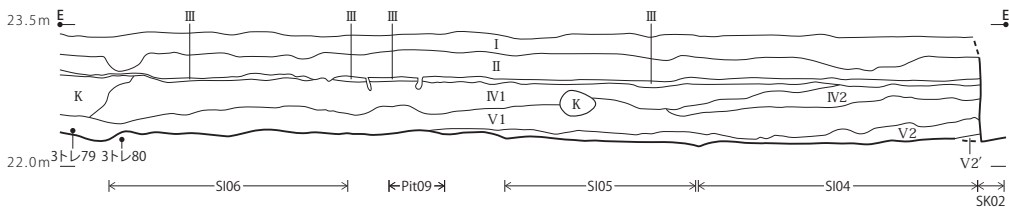


- I 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり弱い 粘性なし 攪乱表土
- II 10YR6/6 明黄褐色土 白色砂混じり しまり弱い 粘性なし 客土
- III 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物(5mm以下)、ローム粒子(5~8mm)、白色砂少量含む しまり強い 粘性あり 旧表土
- IV1 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物(5mm以下)、ロームブロック(5~25mm)やや多量を含む しまり強い 粘性あり
- IV1' 10YR5/6 黄褐色土 灰黄褐色ブロック、ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- IV2 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物(5mm以下)、ロームブロック(5~25mm)多量を含む しまり強い 粘性あり
- V2 10YR4/2 灰黄褐色土 焼土粒子・炭化物(5mm以下)やや多量、ローム粒子(5mm以下)少量含む しまり強い 粘性あり
- V2' 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量を含む しまりやや強い 粘性あり

3 トレンチ

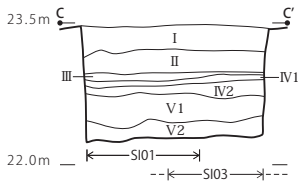


- I 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱い 粘性なし 攪乱表土
- II 10YR6/6 明黄褐色土 白色砂混じり しまり弱い 粘性なし 客土
- III 10YR3/2 黒褐色土 炭化物(30mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし 旧表土
- IV1 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(30mm程度)少量、ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)少量、炭化物微量含む しまりやや強い 粘性あり
- IV2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(20mm程度)多量、炭化物含む しまりやや強い 粘性あり
- V1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- V2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量、炭化物微量含む しまり弱い 粘性あり
- V2' 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)微量含む しまり弱い 粘性あり

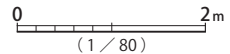


- I 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱い 粘性なし 攪乱表土
- II 10YR6/6 明黄褐色土 白色砂混じり しまり弱い 粘性なし 客土
- III 10YR3/2 黒褐色土 炭化物(30mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし 旧表土
- IV1 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(30mm程度)少量、ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)少量、炭化物微量含む しまりやや強い 粘性あり
- IV2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(20mm程度)多量、炭化物含む しまりやや強い 粘性あり
- V1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- V2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量、炭化物微量含む しまり弱い 粘性あり
- V2' 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)微量含む しまり弱い 粘性あり

SI01・SI03

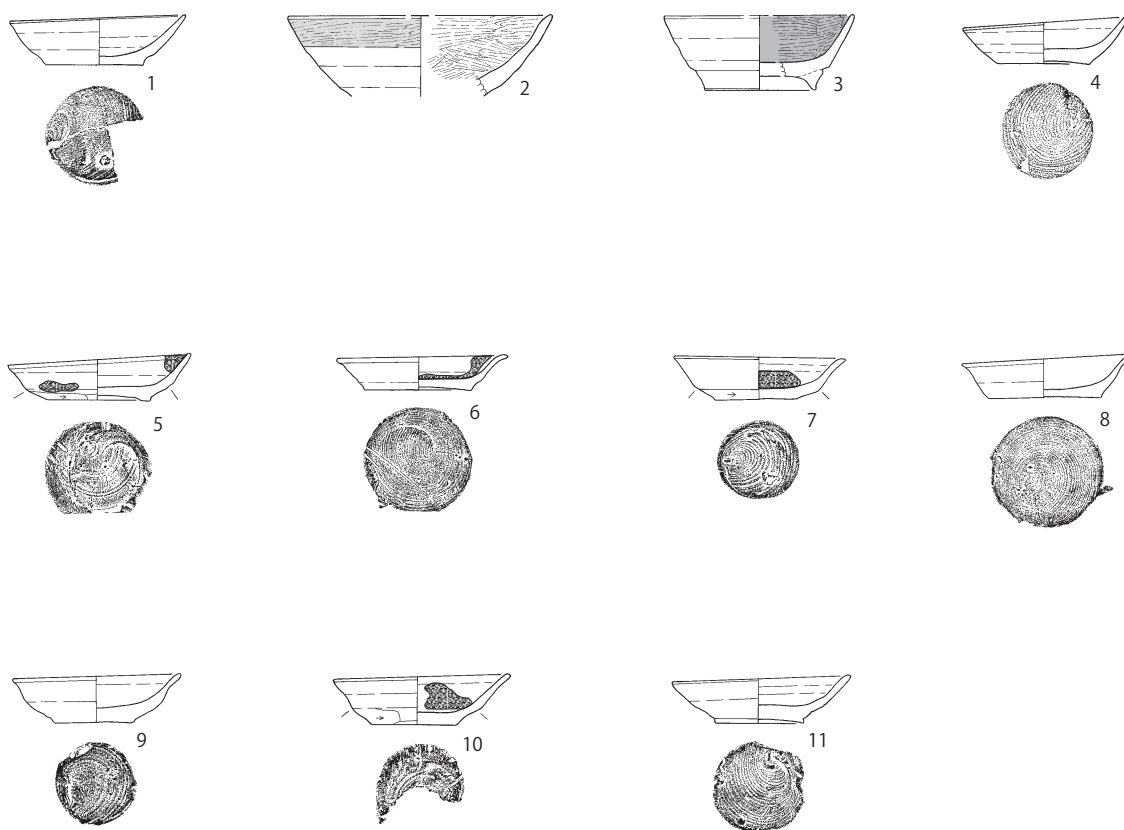


- I 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし 攪乱表土
- II 10YR6/6 明黄褐色土 白色砂混じり 粘性なし 客土
- III 10YR3/2 黒褐色土 炭化物(30mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし 旧表土
- IV1 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(30mm程度)少量、ローム粒子・焼土粒子(1mm程度)少量、炭化物微量含む しまりやや強い 粘性あり
- IV2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(20mm程度)多量、炭化物含む しまりやや強い 粘性あり
- V1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
- V2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量、炭化物微量含む しまり弱い 粘性あり

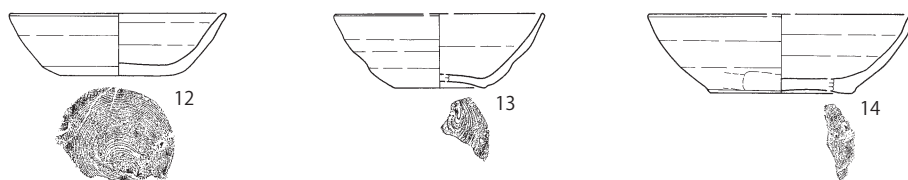


第26図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 断面図

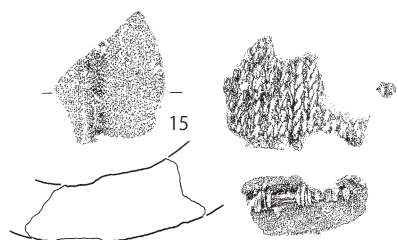
SI01



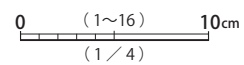
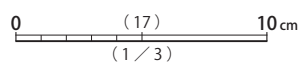
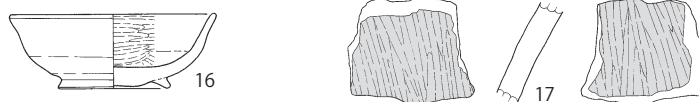
SI02



SI03

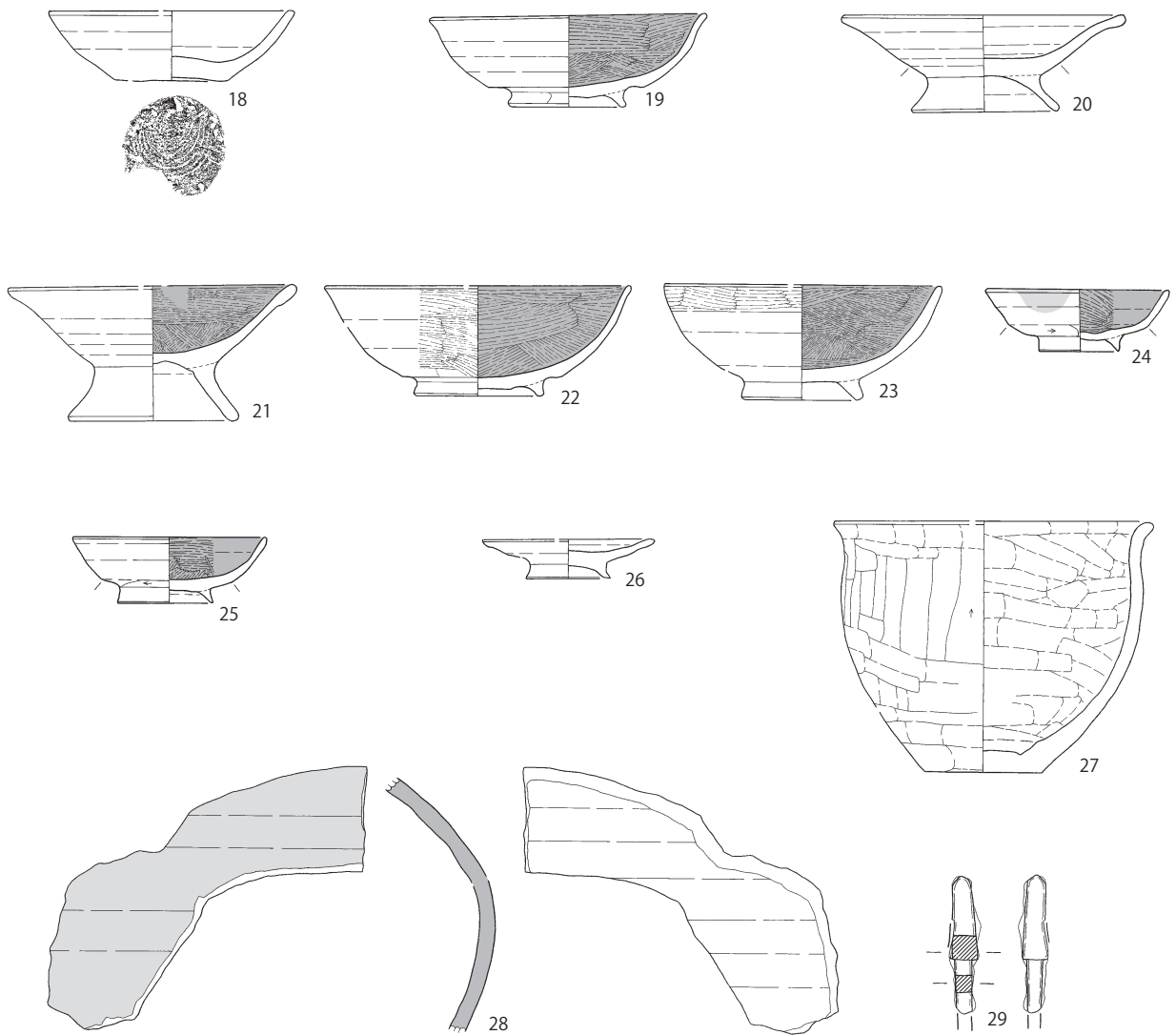


SI04

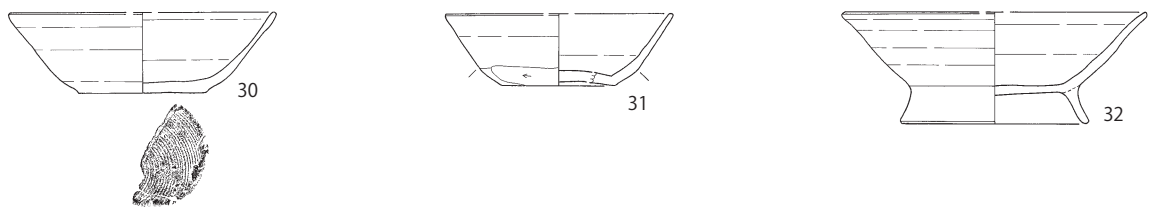


第27図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(1)

SI05



SI06



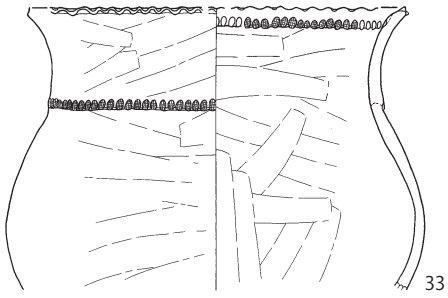
0 (29) 5cm
(1/2)

0 (28) 10cm
(1/3)

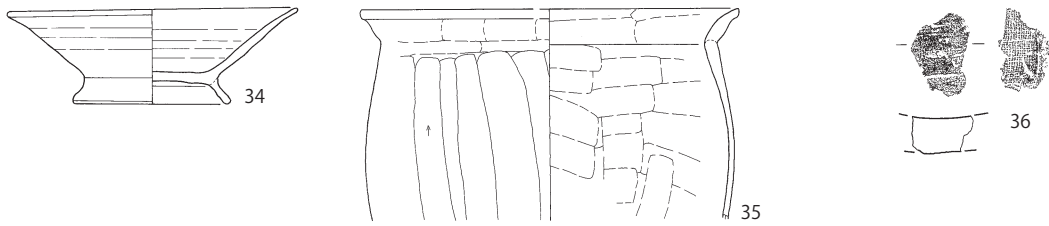
0 (18~27·30~32) 10cm
(1/4)

第28図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(2)

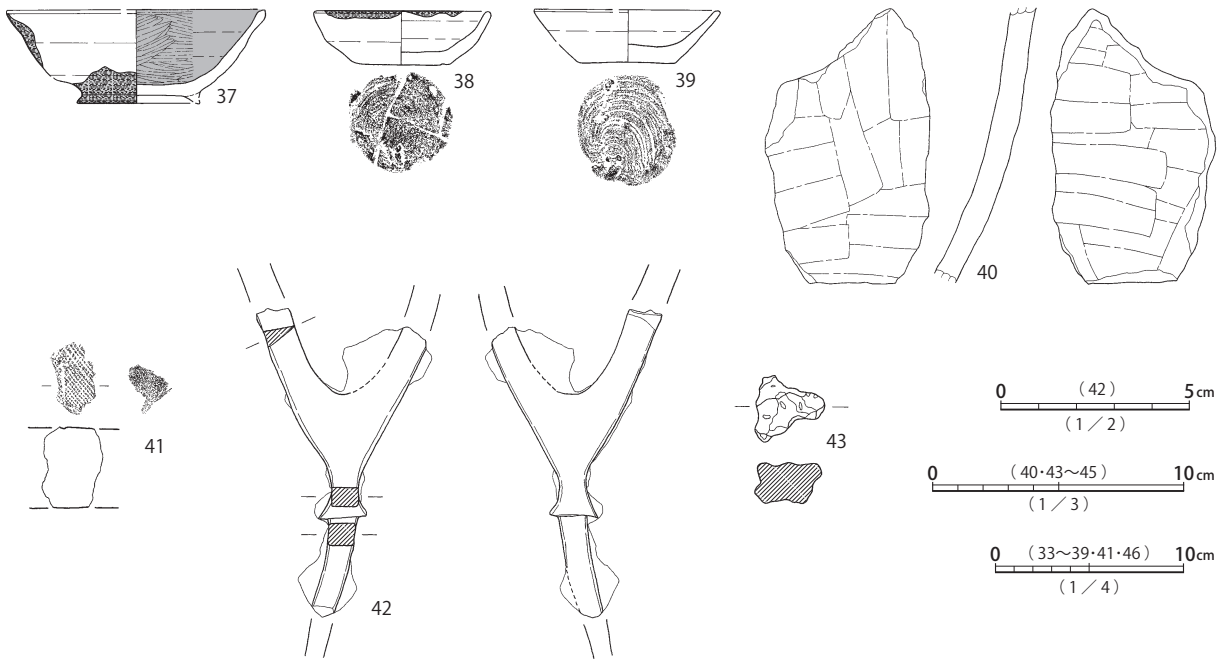
SI07



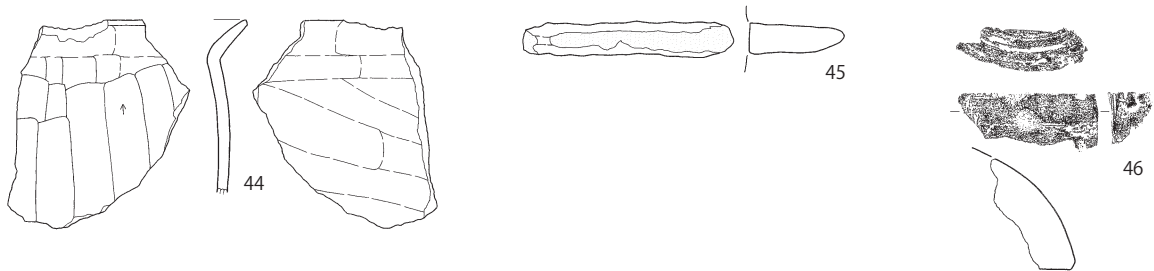
SI08



SI09

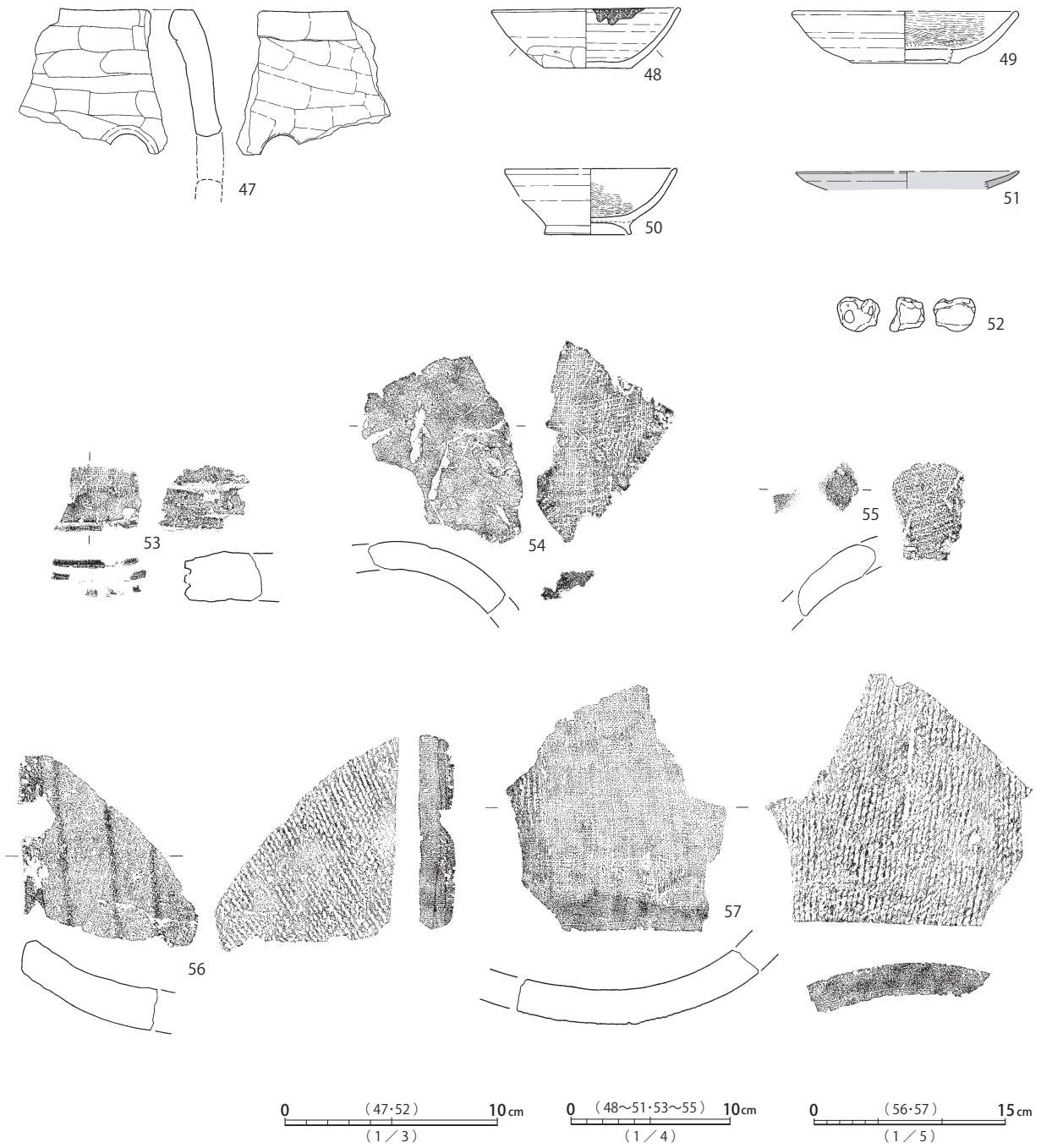


SI10



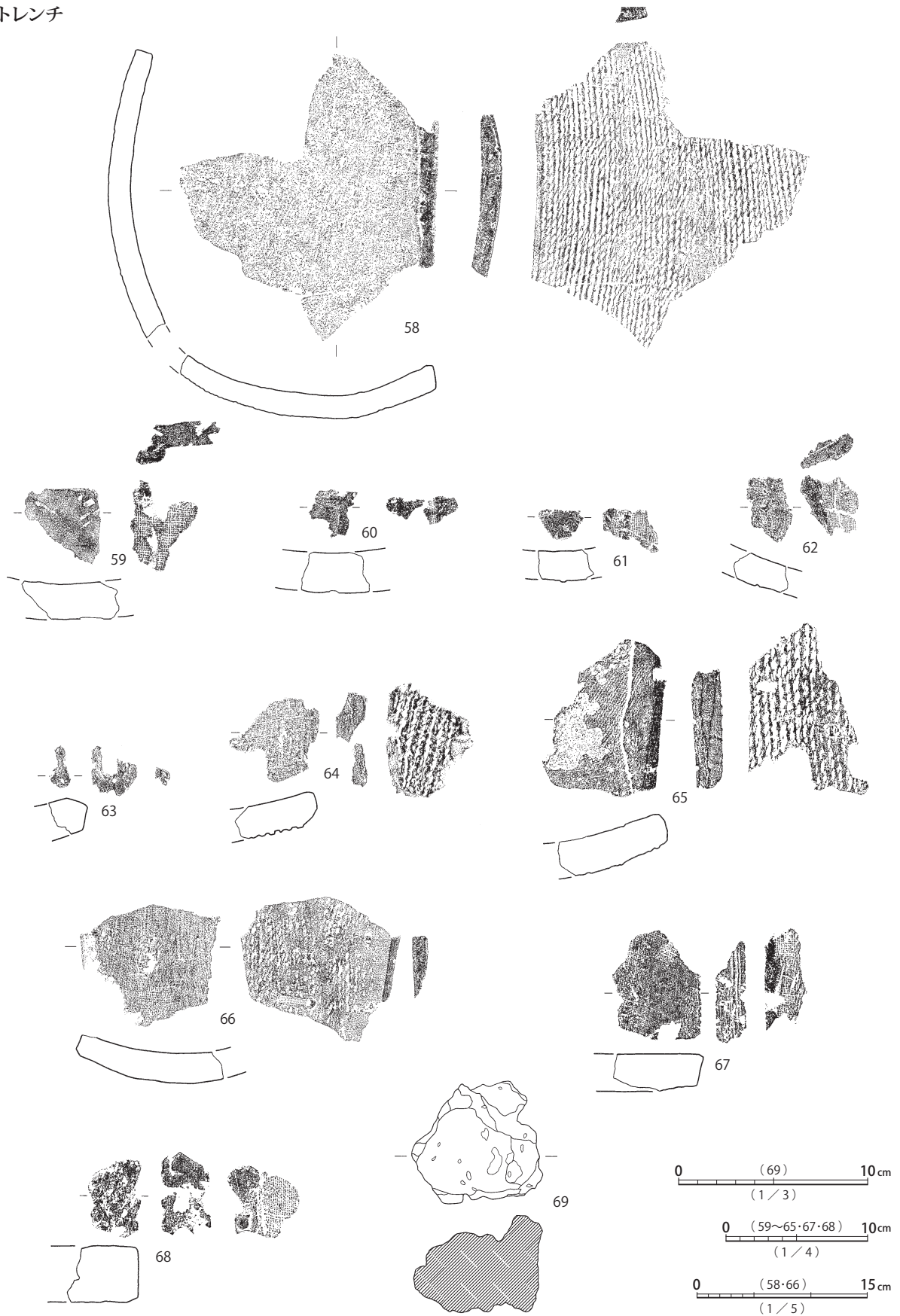
第29図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(3)

1 トレンチ



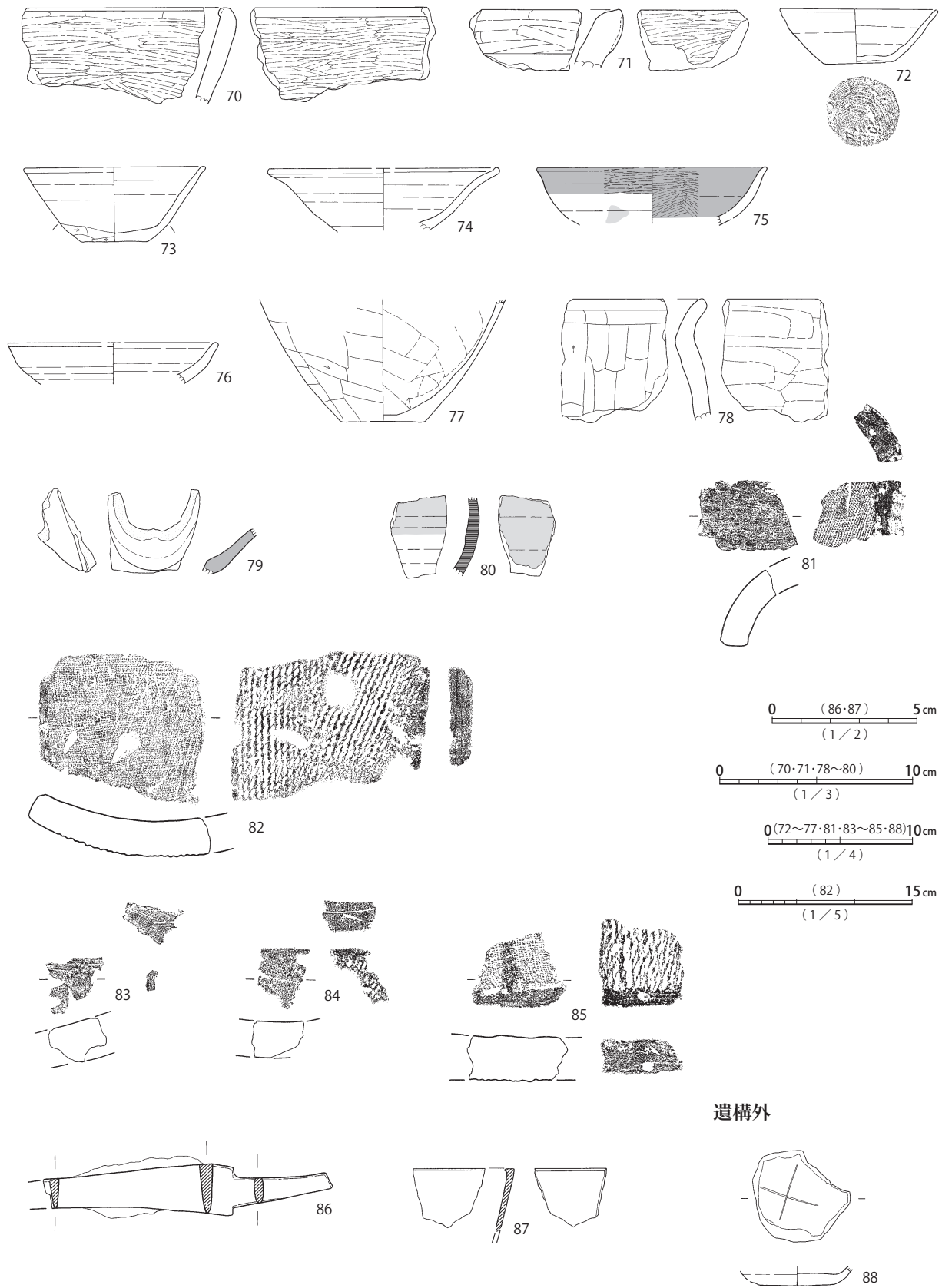
第30図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(4)

1トレンチ



第31図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(5)

3トレンチ



第32図 郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 遺物実測図(6)

6 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡

遺跡の位置 遺跡は旧海岸線から約3.5km内陸の標高27mほどの台地上にある。この台地は、村田川と養老川に挟まれた「市原台地」を構成する、南北に延びる樹枝状台地のうちのひとつである。

遺跡は「国分寺台遺跡群」の東端に位置し、小支谷を挟んで南西500mほどの場所には上総国分尼寺やこれに関連する坊作遺跡が展開する。本調査区は、稲荷台遺跡の中では北東隅に位置する。稲荷台遺跡は、その建物構成や配置、祭祀遺構、出土遺物の特殊性から官衙関連遺跡と考えられている。その広がりや東端を区画規定するラインが、本調査区を含む、「市原古道遺跡」である。

稲荷台遺跡は、これまで数回にわたって発掘調査が実施されている。今回調査区の北方約75mに位置するJ地点では最大掘り込み上面幅14.8mを計る平安時代～中世の道路跡や平安時代の竪穴建物跡が検出されている(牧野2003)。同様に南方約100m地点に位置するH地区、南方約200m地点に位置するG地区からも古代道の跡が検出されており、出土遺物から9世紀代第2四半期まで時期が遡ると考えられる(浅利他2003)。またこの古代道の南延長はR地点から南方約400mの亥の海道遺跡の地点で南東方向に向きを変え(田所1996)、その延長は山田橋表通遺跡、山田橋大塚台遺跡、山田橋大山台遺跡で確認されている(浅利他2003)。今回の調査で確認された道路跡はこれら古代道跡と接続する遺構であると考えられる。

調査概要 駐車場造成に先立ち確認調査を行った。事業範囲面積1,406.83㎡に対し、4本のトレンチ計140.683㎡を設定した。1トレンチの遺構確認面までの深さは0.3m、2トレンチは0.64m、3トレンチは0.4m、4トレンチは0.36mであった(第34・35図)。遺構確認面までの深度が浅く、遺構の上面は現代客土で削られている。調査の結果、平安時代土坑2基、平安時代～中世道路1条、近世溝1条・土坑4基を確認した。

遺構と遺物 SD01は幅12.00?m、南北方向に走行する道路である(第34図・図版5)。出土遺物2は東海産の緑釉陶器皿で、底部台を貼り付けている。時期は平安時代(9世紀)か。出土遺物3は猿投窯産の原始灰釉瓶壺、4は猿投窯産の甕である。5は常滑産の片口鉢Ⅱ類、6は粘土板一枚づくりの平瓦、7は釘、8は鉄滓(椀形滓)である。その他非掲載遺物として、ロクロ土師器12点(76g)、土師器甕6点(27g)、須恵器杯1点(1.4g)、須恵器瓶壺類1点(156.5g)、須恵器甕5点(121.2g)粘土板一枚づくり平瓦3点(133.8g)が出土している。SD01は平安時代から中世までの遺物を含んでいる。SD01の北方約75mに位置するJ地点では平安時代～中世の道路が検出されている。本遺構はこれに接続すると思われるので、J地点と同様に平安時代から中世まで道路として繰り返し使用されていたと推測できる。

SD02は南北方向に走行する溝である(第34図・図版5)。遺構確認面の上面に宝永火山灰(1707年)が確認できるので、溝の形成時期は近世(17世紀代)と思われる。出土遺物9は猿投窯産の灰釉陶器椀だが、本遺構の時期を決定するものではないだろう。

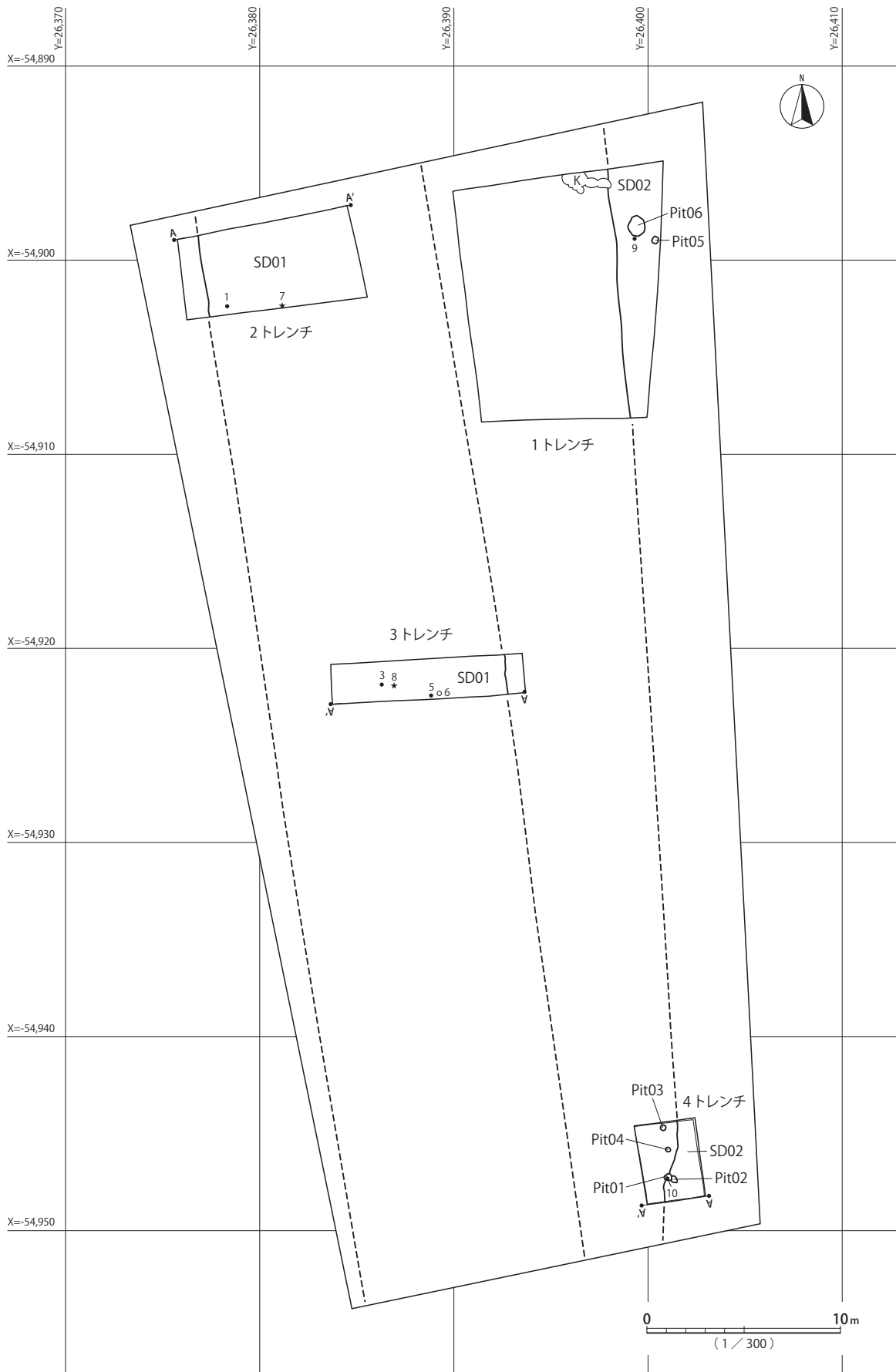
Pit01・02は円形を呈する。共にSD02を切るため、近世の所産だと思われる。

Pit03・04は円形を呈する。Pit03の非掲載遺物として、ロクロ土師器杯1点(3.6g)、土師器甕1点(24.2g)が出土している。Pit04はロクロ土師器杯2点(7.5g)が出土している。Pit03・04は出土遺物から平安時代の所産と思われる。



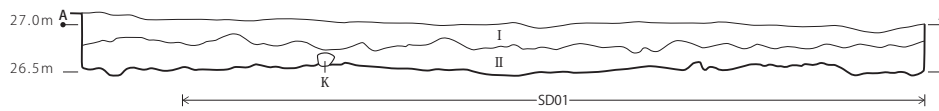
(国分寺台土地区画整理事業現況図 500分の1 昭和51年をもとに作成)

第33図 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡 周辺地形図



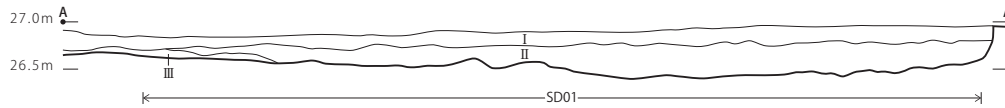
第34図 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡 全体図

2トレンチ



- I 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性なし 客土
- II 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし

3トレンチ

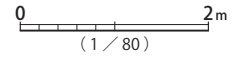


- I 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性なし 客土
- II 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性なし
- III 10YR5/6 黄褐色土 しまりやや強い 粘性あり ソフトローム

4トレンチ



- I' 10YR3/2 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし 攪乱表土
- II' 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む、焼土粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性なし 客土
- IV 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む、焼土粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり



第35図 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡 断面図

Pit05・06は円形を呈する。出土遺物はないが、共にSD02を切るため、近世の所産だと思われる。

出土遺物 11は猿投窯産の灰釉陶器椀、12は灰釉陶器瓶壺類で風船技法が使われている。1トレンチではその他非掲載遺物として土師器杯24点(73.4g)、土師器甕8点(71.7g)、古墳時代土師器壺1点(5.2g)、須恵器瓶壺2点(20.5g)、須恵器甕3点(68.7g)、近世土器(器種不明)1点(2.3g)が出土している。

出土遺物 16は古墳時代の壺と思われる。3トレンチではその他非掲載遺物として、須恵器甕1点(16.2g)が出土している。

出土遺物 17はカワラケ小皿である。4トレンチではその他非掲載遺物として、近世土器鉢1点(16.7g)が出土している。

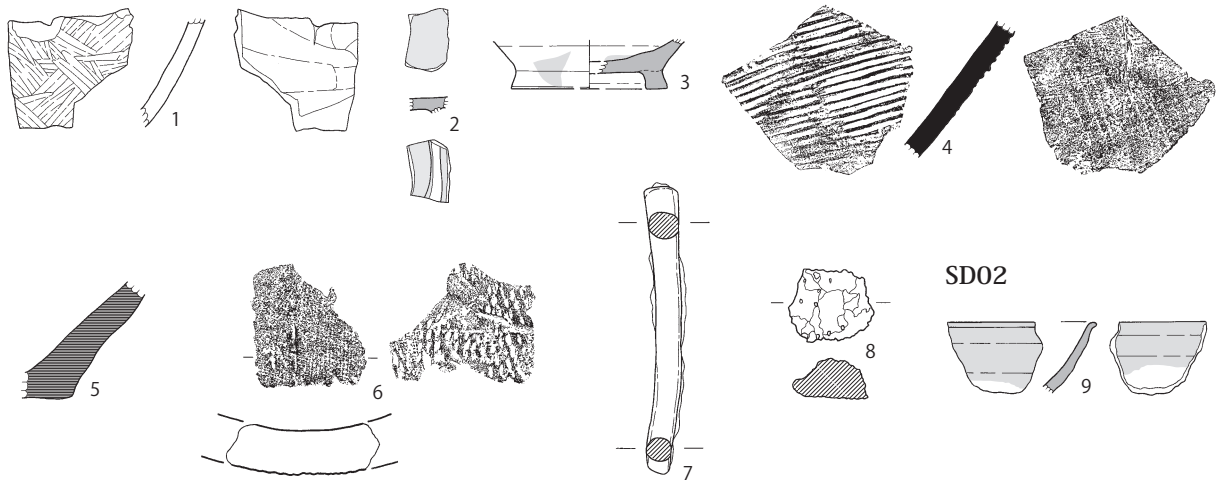
引用参考文献

浅利幸一他 2003「稲荷台遺跡」『平成14年度市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

田所 真 1996「山田橋亥の海道遺跡」『市原市文化財センター一年報(平成8年度)』財団法人市原市文化財センター

牧野光隆 2003「稲荷台遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』上総国分寺台遺跡調査報告書IX 市原市教育委員会

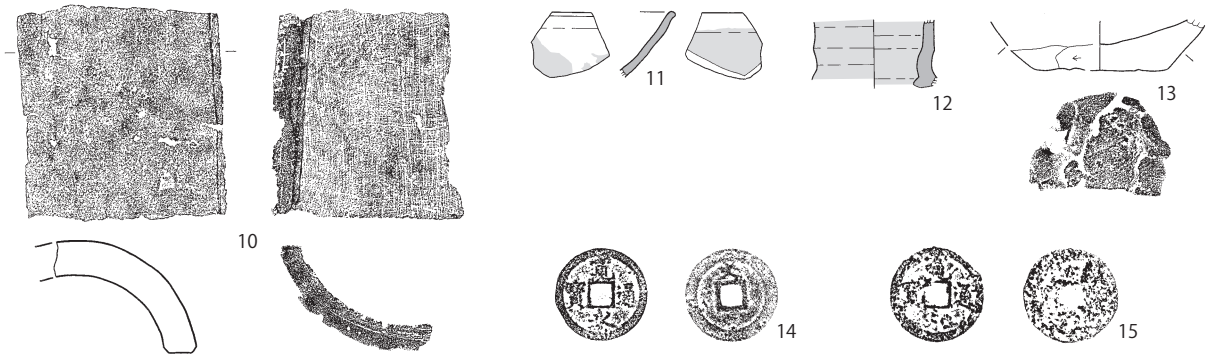
SD01



SD02

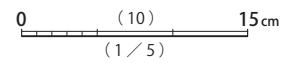
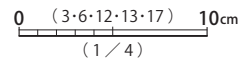
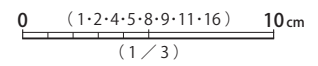
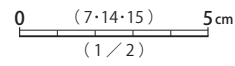
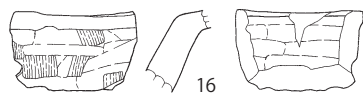
Pit01

1 トレンチ



3 トレンチ

4 トレンチ



第36図 稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡 遺物実測図

7 島原遺跡(第2次)

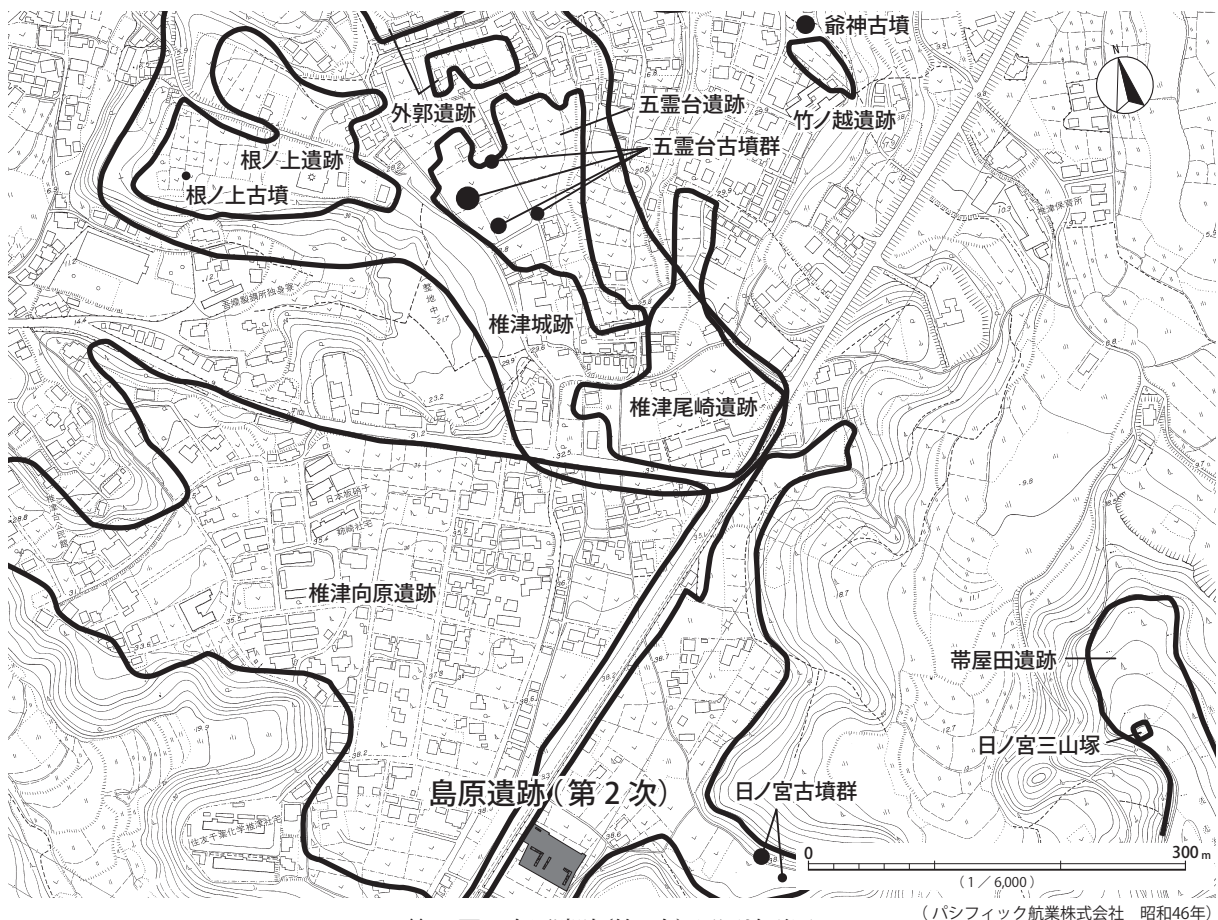
遺跡の位置 遺跡は、椎津の海岸線より南東に約0.8kmほど入った洪積台地上南端部に位置する。今回調査区は標高40m前後の舌状台地最奥部に位置し、東西方向から谷津が入り込む台地上の最狭地点にあたる。約300m北西には古墳時代後期及び平安時代の竪穴建物跡群が確認された椎津向原遺跡、約400m北東には平安時代及び中世の遺構群が確認された椎津尾崎遺跡がある。

今回調査区は平成23年度に実施した第1次(確認調査)に隣接している。

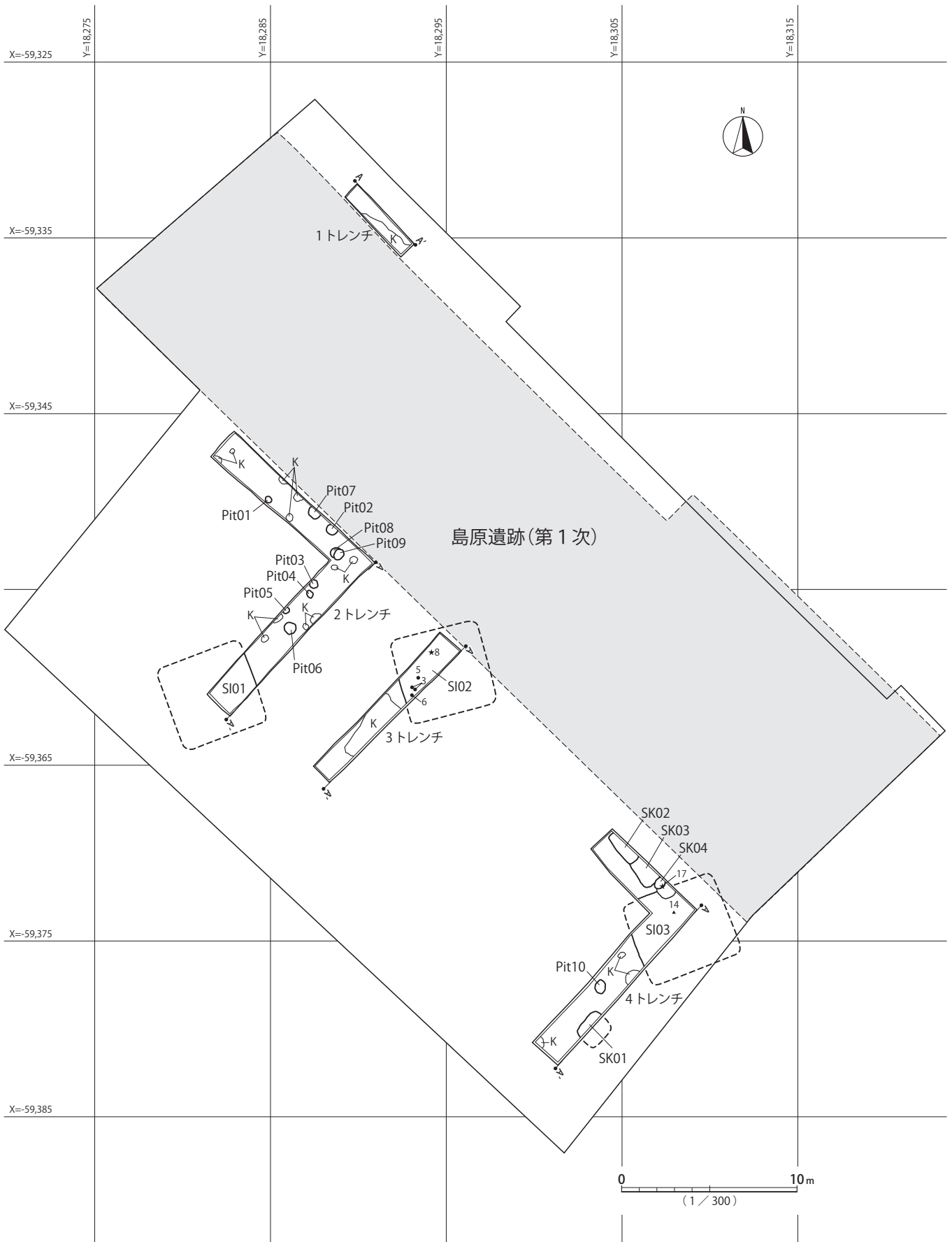
調査概要 事務所建設に先立ち確認調査を行った。事業範囲面積842.975㎡に対し、4本のトレンチ計84.2975㎡を設定した。1トレンチの確認面までの深さは0.72m、2トレンチは0.76m、3トレンチは0.80m、4トレンチは0.74mであった(第38・39図)。

調査の結果、古墳時代竪穴建物跡2棟・土坑13基、奈良時代竪穴建物跡1基、中世土坑1基を確認した。出土遺物は鬼高式(6世紀前半?)の土師器杯・壺・甕や、奈良時代(8世紀前半?)のロクロ土師器杯・蓋、須恵器杯・蓋・瓶壺類が出土している。底部回転糸切り痕の杯は出土しなかった。今回調査区に隣接する第1地点でも7～8世紀の竪穴建物跡が検出されており、古墳時代後期から奈良時代まで、複数時期に渡って集落が形成されていたことが窺える。

遺構と遺物 SI01は大半が調査区外に展開するが、方形を呈していると思われる(第38図)。出土遺物1は土師器甕(古墳時代後期?)である。その他非掲載遺物として、土師器杯1点(1.9g)、土師

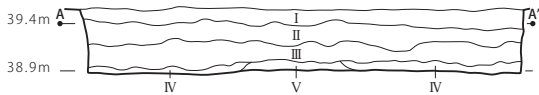


第37図 島原遺跡(第2次)周辺地形図

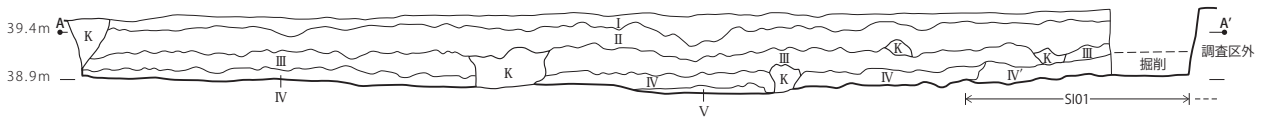


第38図 島原遺跡(第2次)全体図

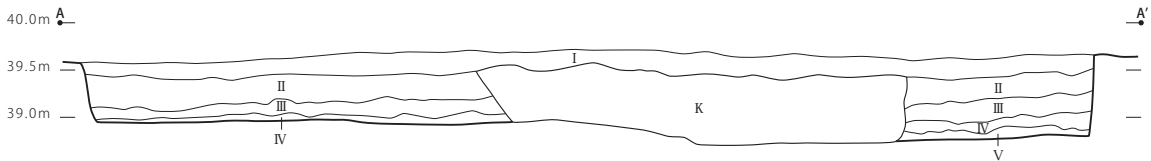
1 トレンチ



2 トレンチ

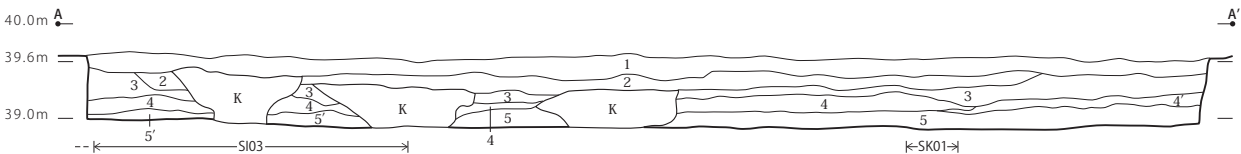


3 トレンチ

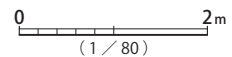


- I 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック(5～15mm)多量に含む しまり強い 粘性なし 現表土 根掘乱多い
- II 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり 有機質土
- III 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまりやや強い 粘性あり 有機質土
- IV 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)やや多く含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)微量含む しまりやや強い 粘性あり 有機質土
- IV' 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)少量含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)やや多く含む、白色粘土粒子(5mm以下)少量含む しまり弱い 粘性なし SI01の覆土を含む
- V 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック(5～8mm)多量に含む、ローム粒子(5mm以下)多く含む しまり強い 粘性あり ソフトロームと有機質土の漸移層

4 トレンチ



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～15mm)多量に含む しまりやや強い 粘性なし 現表土 根掘乱が多い
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5～15mm)多量に含む しまり非常に強い 粘性あり 転圧土
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5～15mm)多量に含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)含む、白色粘土ブロック(5～10mm)含む しまり非常に強い 粘性あり 転圧土
- 4 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(5～15mm)多量に含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)含む、白色粘土ブロック(5～10mm)含む しまり非常に強い 粘性あり 転圧土
- 4' 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む、白色粘土粒子(5mm以下)含む しまり非常に強い 粘性あり 転圧土
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む、白色粘土粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり 転圧土
- 5' 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(5～15mm)多量に含む、焼土・炭化物粒子(5mm以下)含む、白色粘土粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり 転圧土 SI03の覆土を含む



第39図 島原遺跡(第2次) 断面図

器壺(古墳時代)1点(5.8g)、土師器甕37点(214.9g)が出土している。SI01は出土遺物から古墳時代後期の所産と思われる。

SI02は大半が調査区外に展開するが、方形を呈していると思われる(第38図)。出土遺物2はロクロ土師器の蓋、3は土師器甕(鬼高式?)、5は須恵器蓋(8世紀前半?)、6は須恵器瓶壺類、7は須恵器の平行叩き甕である。その他非掲載遺物として、土師器高杯1点(21.7g)、土師器壺(古墳時代)5点(42.9g)、土師器杯6点(26.4g)、土師器甕125点(828.4g)、鉄鏃(茎部小片)3点(1.3g)、鉄滓(椀形滓)1点(26.8g)が出土している。SI02は出土遺物から奈良時代(8世紀前半?)の所産と思われる。

SI03は大半が調査区外に展開するが、方形を呈していると思われる(第38図)。長軸6.00?m×短軸6.00?m、主軸方位N-20°-Wで北カマドをもつ。4トレンチは遺構検出面の直上まで現代客土で削平されている(第39図)が、SI03の依存状態は良好であった。出土遺物9は土師器蓋杯(鬼高式)、10は土師器杯(古墳時代後期?)、11は土師器壺(古墳時代後期?)の口縁部である。出土遺

物12は新治産須恵器杯、13は須恵器平行叩き甕である。12(新治産須恵器)は混入と思われる。その他非掲載遺物として、土師器杯4点(21.4g)、土師器甕69点(560.1g)、鉄釘?1点(10.5g)が出土している。SI03は出土遺物から古墳時代後期の所産と思われる。

SK01は大半が調査区外に展開するが、隅丸の長方形を呈していると思われる(第38図)。覆土は暗褐色土を主体とし、ロームブロックを多量に含む。出土遺物はないが、形状・覆土の状況から中世の土坑だと思われる。

SK02は大半が調査区外に展開するが、長方形を呈していると思われる(第38図)。SK03を切る。出土遺物15は土師器杯(鬼高式)、16は土師器甕(古墳時代後期?)である。その他非掲載遺物として土師器壺?(古墳時代)2点(7.1g)、土師器甕(古墳時代)1点(4g)、土師器甕28点(220.1g)、近世陶器1点(1.4g)が出土している。近世陶器は混入と思われる。SK02は出土遺物から古墳時代後期の所産と思われる。

SK03は大半が調査区外に展開するが、長方形を呈していると思われる(第38図)。SK02・SK04に切られる。非掲載遺物として、土師器杯1点(2.9g)、土師器壺(古墳時代?)1点(7.0g)、土師器甕12点(97.1g)が出土している。SK03は出土遺物・切り合いから、古墳時代後期の所産と思われる。

SK04はやや不定な円形を呈する(第38図)。SI03とSK03を切る。出土遺物17は鉄滓(粒状滓)である。覆土に白色粘土ブロックを多量に含むが、SI03のカマドを壊した際に流入したものだろう。明確な時期は不明だが、古墳時代後期の所産と思われる。

Pit01・02・03・04・06・08・09は円形を呈する(第38図)。それぞれ土師器甕の小片が数点出土している。後述するPit05・07と関連すると思われるため、遺構の時期は古墳時代後期と考えられる。

Pit05は円形を呈する。出土遺物18は非ロクロ整形の杯(鬼高式)である。その他非掲載遺物として、土師器杯1点(3.7g)、土師器甕1点(10g)が出土している。出土遺物から、Pit05は古墳時代後期の所産と思われる。

Pit07は円形を呈する。出土遺物19は鬼高式の土師器杯である。その他非掲載遺物として、土師器杯1点(2g)、土師器甕25点(98.6g)が出土している。出土遺物から、Pit07は古墳時代後期の所産と思われる。2トレンチ出土のPit群(01～09)は掘立建物跡の柱痕の可能性はある。

Pit10はやや不定な円形を呈する。出土遺物はなく、明確な時期は不明だが、古墳時代後期の所産と思われる。

出土遺物20は土錘、21は刀子、23は置きカマド(鬼高式並行?)である。24は土師器甕で、焼成前に口縁部に貫通孔(直径3mm)を施しているが、意図は不明である。

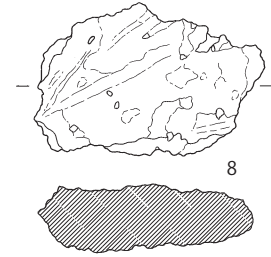
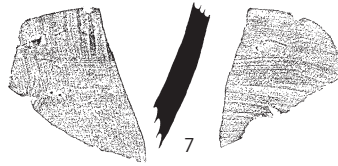
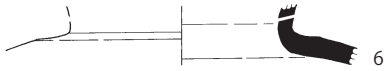
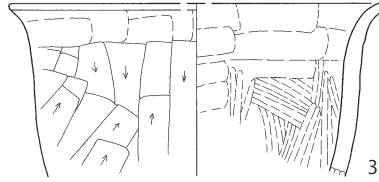
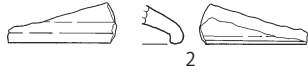
引用参考文献

木對和紀2012「島原遺跡」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第22集 市原市教育委員会

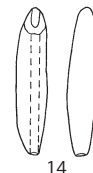
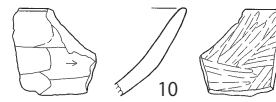
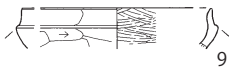
SI01



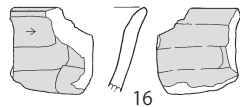
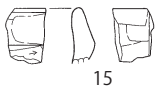
SI02



SI03



SK02



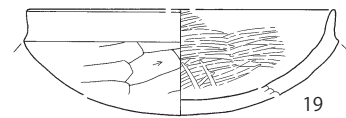
SK04



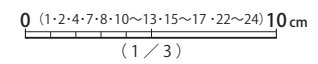
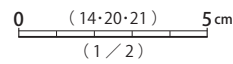
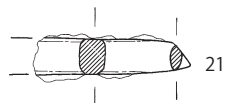
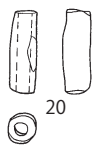
Pit05



Pit07



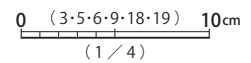
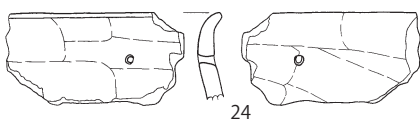
2トレンチ



3トレンチ



4トレンチ



第40図 島原遺跡(第2次) 遺物実測図

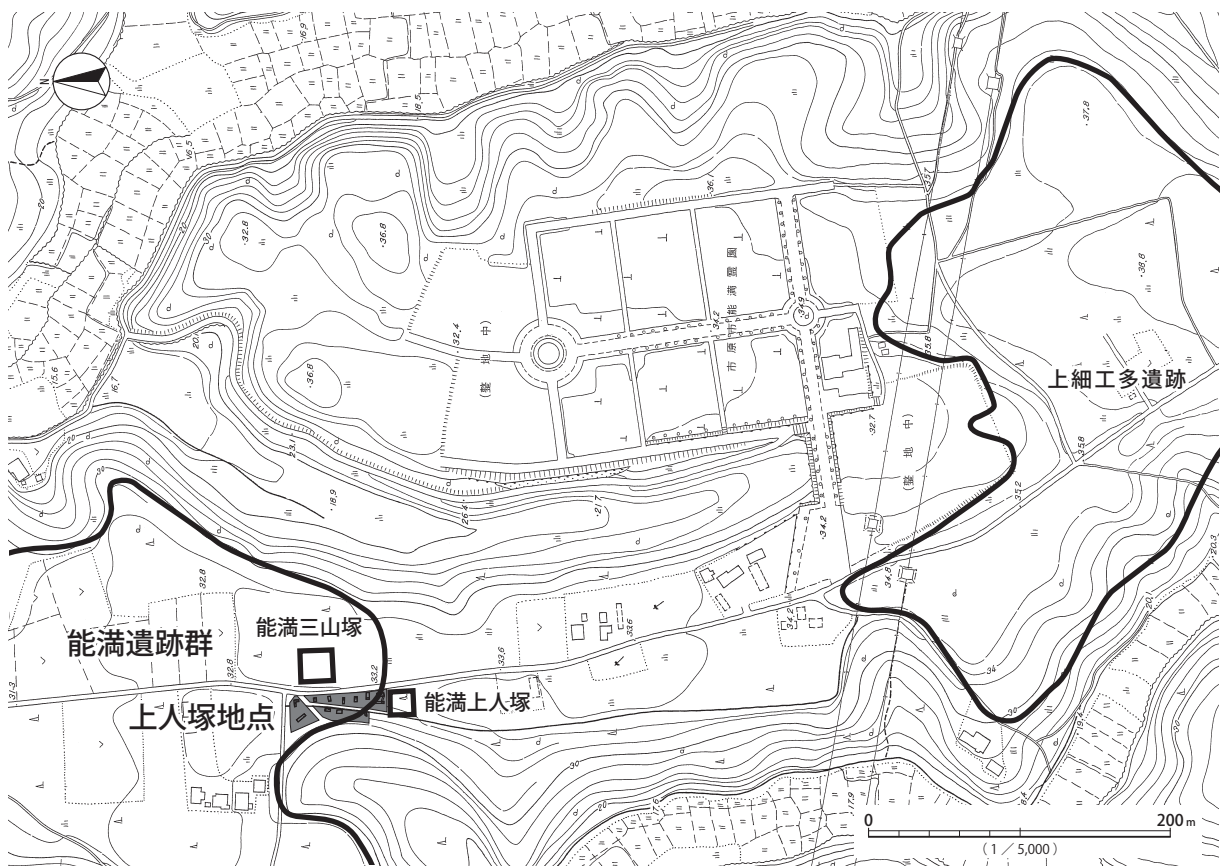
8 能満遺跡群(上人塚地点)

遺跡の位置 調査地点は、東京湾旧海岸線から南東に約3kmの距離にあり、新田川の開析谷に東西を挟まれた標高33m前後の市原台地上に所在する。能満遺跡群は、広域に広がる複合遺跡として南北1.6km、東西1.0kmにわたって包蔵地として周知されている。そのなかで、今回調査区は南東端に位置する。調査区の東隣に能満三山塚、南隣に能満上人塚(どちらも近世塚)がある。

調査概要 駐車場造成に先立ち確認調査を行った。事業範囲面積1,797㎡に対し、12本のトレンチ計179.7㎡を設定した。1～7・9トレンチの確認面までの深さは0.25～0.4m、8トレンチは0.48m、10トレンチは0.68m、11・12トレンチは0.45mである(第43図)。調査区は、台地の南西側の小谷に向かって標高が低くなっている。8・10～12トレンチは確認面直上まで現代客土の削平を受けているが、その他のトレンチでは旧地表面を良好に残す。調査の結果、中世～近世の溝を5条検出した(第42図)。

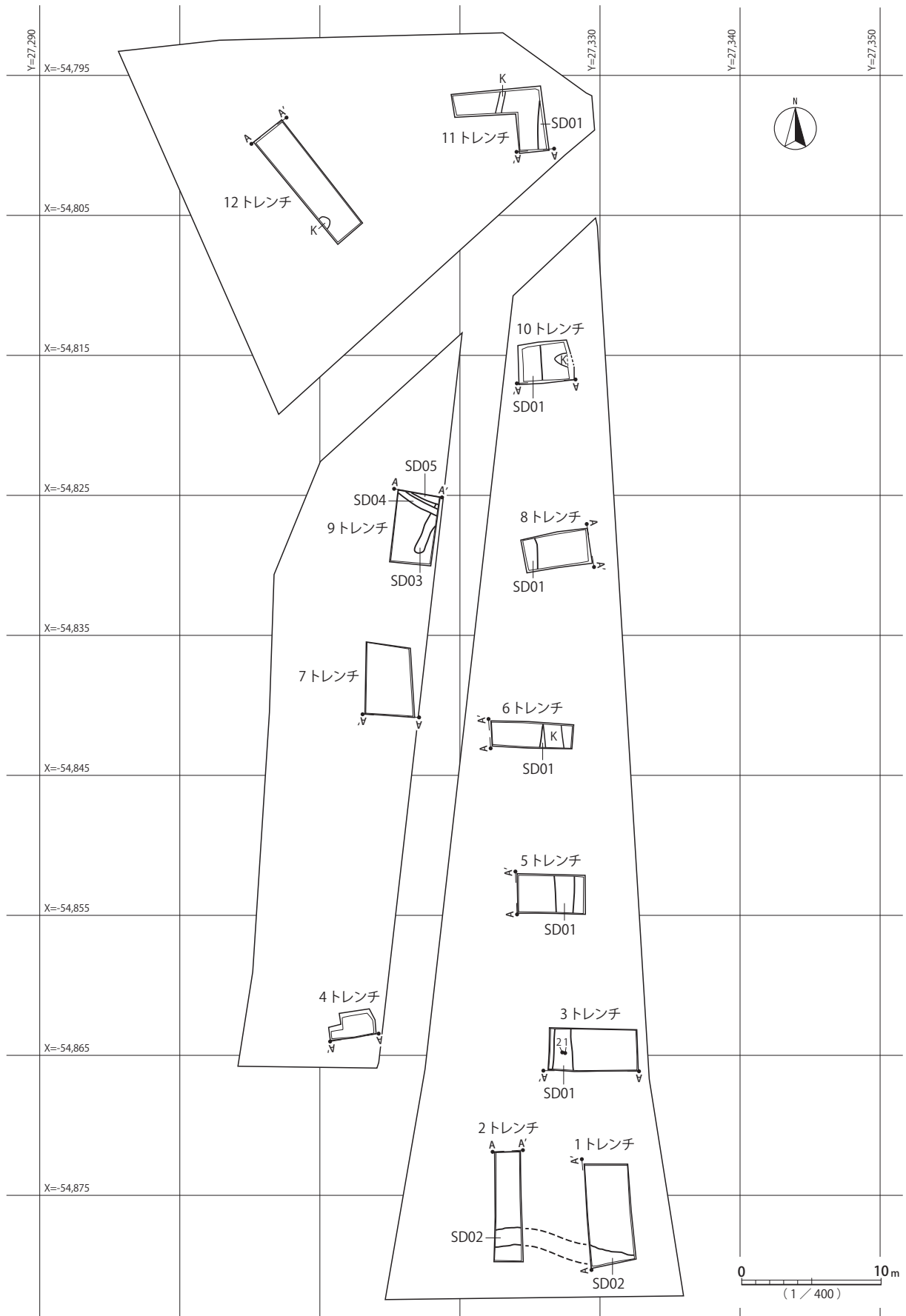
遺物の出土は希薄であり、非掲載遺物として、縄文早期後葉の条痕文土器深鉢17点(126.5g)、土師器杯(古墳時代後期?)1点(3.5g)、土師器壺(古墳時代後期?)3点(17.5g)、土師器杯4点(8.4g)、土師器甕1点(8.5g)、須恵器甕2点(34.2g)、灰釉陶器瓶壺類1点(22.2g)、カワラケ小皿2点(18.8g)、剥片石器1点(2.2g)を出土するのみであった。

遺構と遺物 SD01は主軸方向N-2°-W、幅1.4mの溝である(第42図)。SD02との切り合い関係は不明だが、調査区外に展開すると思われる。暗褐色の覆土で、ロームブロックを多量に含んでいる。



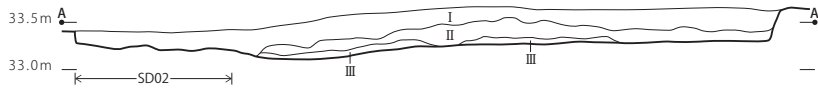
第41図 能満遺跡群(上人塚地点)周辺地形図

(パシフィック航業株式会社 昭和46年)

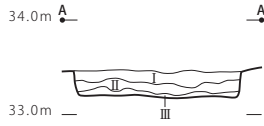


第42図 能満遺跡群(上人塚地点) 全体図

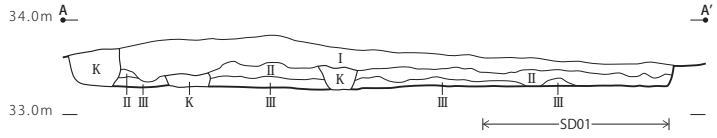
1 トレンチ



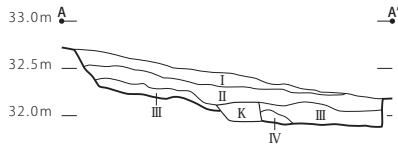
2 トレンチ



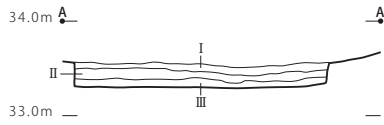
3 トレンチ



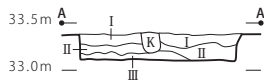
4 トレンチ



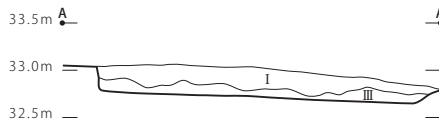
5 トレンチ



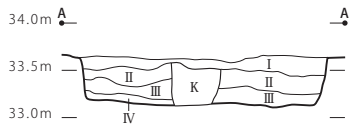
6 トレンチ



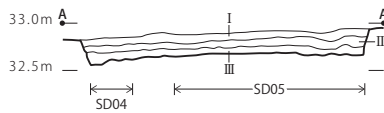
7 トレンチ



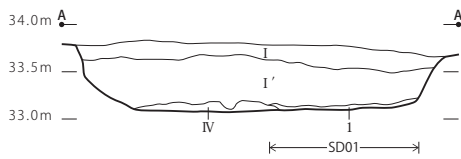
8 トレンチ



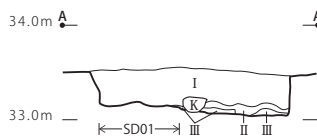
9 トレンチ



10 トレンチ



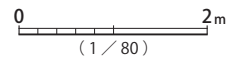
11 トレンチ



12 トレンチ



- I 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性なし 客土
- I' 10YR3/5 暗褐色土 ガラ・ロームブロック(5~15mm)多量に含む しまり非常に強い 粘性なし 客土
- II 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまりやや強い 粘性あり
- III 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(5~8mm)多量に含む しまりやや強い 粘性あり
- IV 10YR6/6 明黄褐色土 しまりやや強い 粘性あり ソフトローム



第43図 能満遺跡群(上人塚地点) 断面図

SD01



第44図 能満遺跡群(上人塚地点) 遺物実測図

出土遺物1は灰釉陶器瓶壺類である。2・3はカワラケ小皿で、14世紀頃の所産か。SD01は覆土の状況・出土遺物から中世～近世の時期に比定されると考えられる。用途は不明だが、土地区画の性格の溝だと考えられる。

SD02は東西方向に走る主軸方向N-81°-W、幅1.26mの溝である。黒褐色の覆土で、ローム粒子を少量含んでいる。能満上人塚に隣接するが、関連性はないと思われる。隣接する能満上人塚が古墳を改築している場合を想定し、古墳の周溝を狙って1・2トレンチを設定したが、SD02以外の遺構は確認できなかった。SD02は時期決定の根拠に乏しいが、形状・覆土の状況から中世～近世の所産と思われる。

SD03は主軸方向N-24°-E、幅0.62mの溝である。SD04・05に切られる。暗褐色の覆土で、ローム粒子を多く含む。縄文早期後葉の土器片を数点出土しているが、覆土の状況から中世～近世の所産と思われる。

SD04・05は幅0.48mの道状遺構、主軸方向はそれぞれN-62°-W、N-66°-Wである。旧地表土の削平によって遺構上面が削られ、地山の一部が露出しており、底部に硬化面が認められた。SD04・05の新旧関係は不明であるが、軸が同じことから、どちらか一方が他方を修繕している可能性がある。出土遺物は無く時期決定の根拠に乏しいが、SD04・05は中世～近世の所産と思われる。

9 仙台原遺跡

調査概要 仙台原遺跡は宅地造成に先立って確認調査が行われた。事業範囲面積5,007.891㎡に対して17本のトレンチ計500.7891㎡を設定した。その結果、古墳時代溝1条、中世土坑76基、中世溝6条、中世末の台地整形を検出した。また遺物として近世末の瓦も多く出土したことから、調査対象区域には古墳時代、中世末、近世末の遺構が展開していることが確認された。

遺構と遺物 計17トレンチのうち16・17トレンチから遺構及び遺物は確認されなかった。

また1・4トレンチからは土坑・ピットをそれぞれ1基検出したのみであり(SK01・Pit02)、遺物も殆ど出土しなかった。

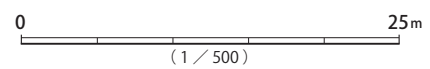
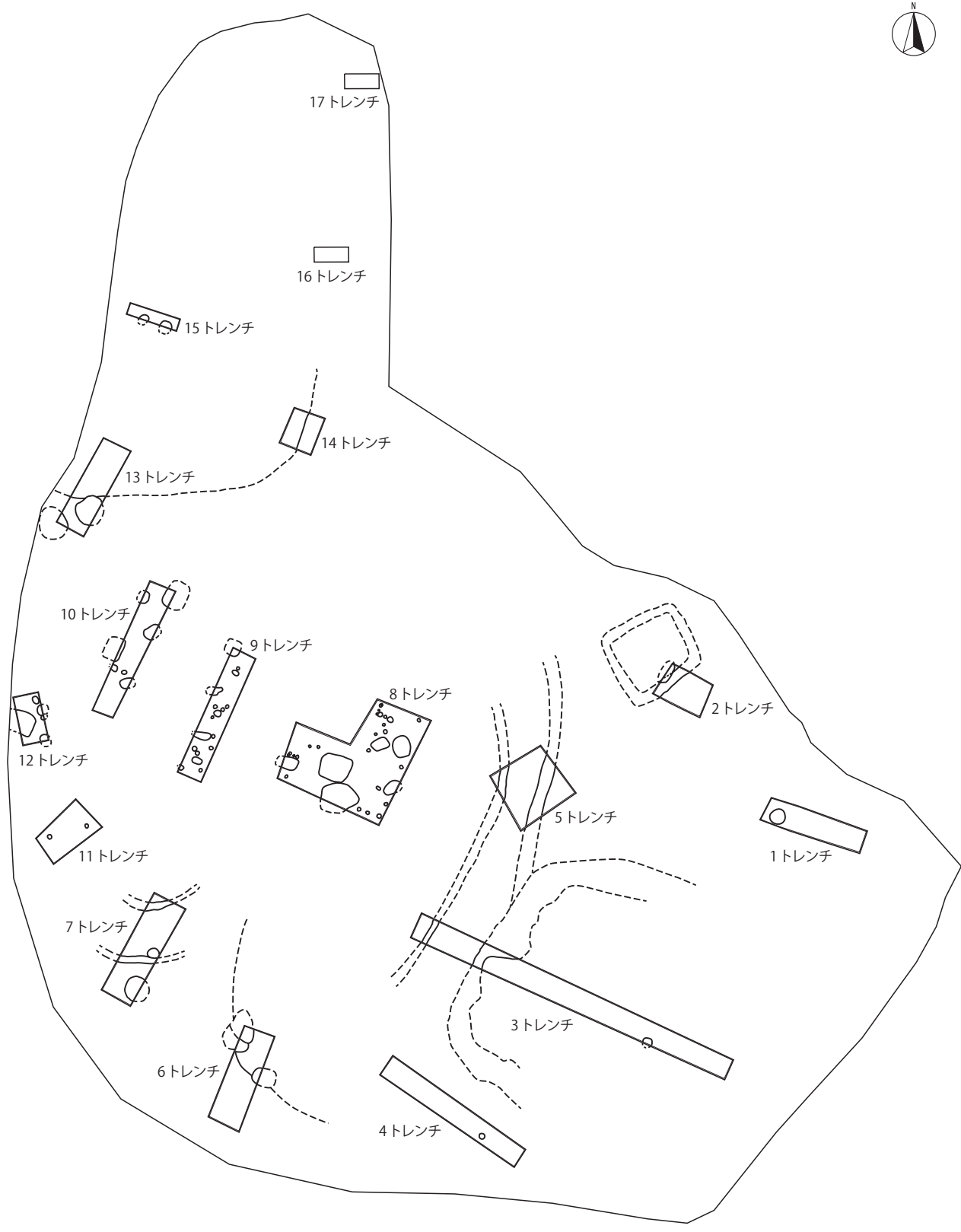
2トレンチからは走行北東から南西方向、幅約1.2mを計る溝状遺構(SD01)を検出し、古墳時代の土師器甕1が出土したことから当時期の遺構と考えられる(第47図・図版8)。SD01は古墳の周溝の可能性も考えられるが、実際に溝の方向が曲がるか判断できないため溝状遺構とした。また、この遺構を掘り込むように土坑(SK02)も確認されている。

3トレンチからは南北方向に延びる幅約0.7mの溝状遺構1条(SD02)が検出された(第47図・図版8)。またこのトレンチの南東側に中世に属すると考えられる台地整形が確認され、その範囲内にピットが1基(Pit01)確認された。出土遺物2～4はカワラケ小皿、5は土師質の内耳鍋、6は瀬戸・



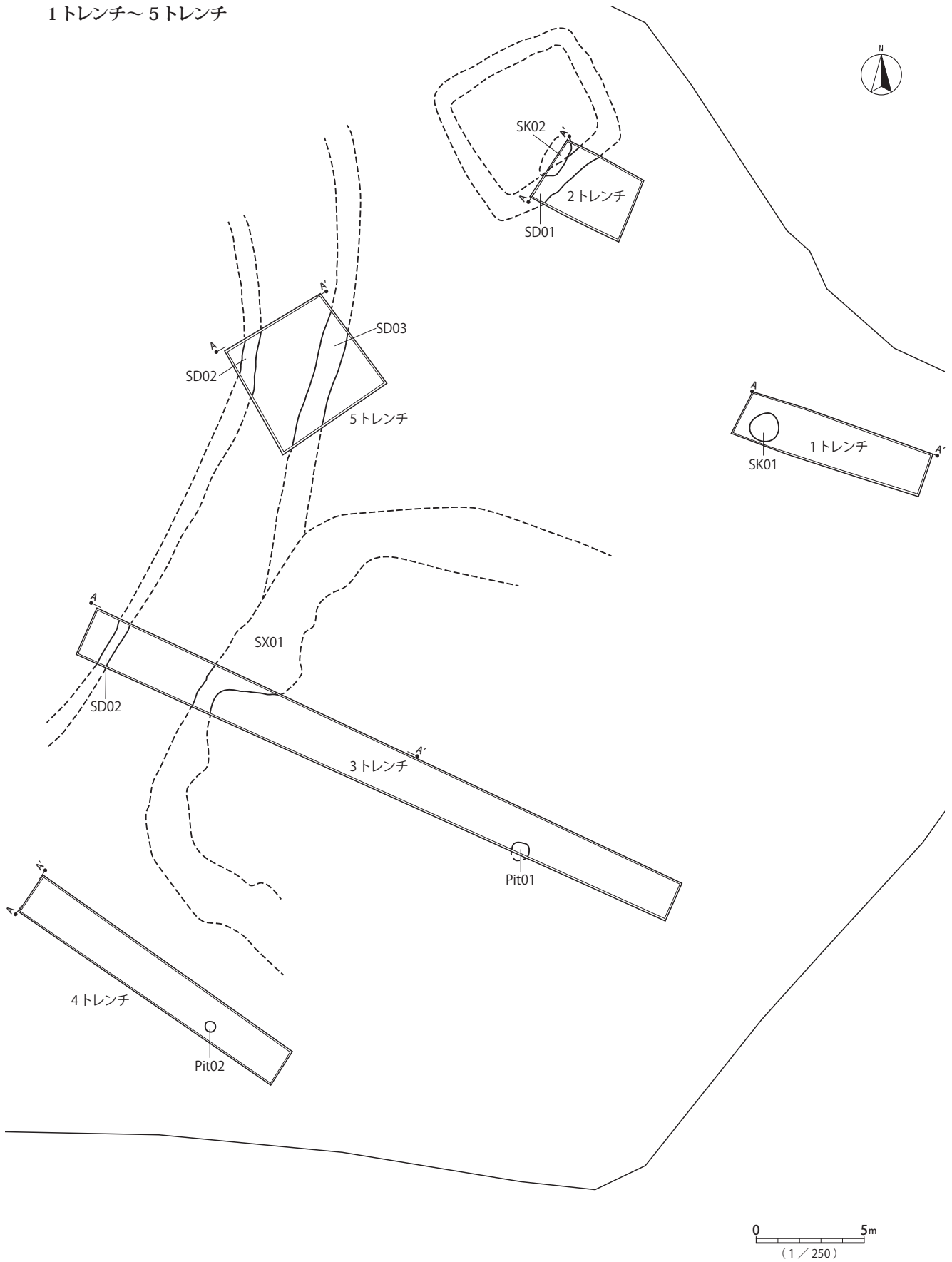
第45図 仙台原遺跡 周辺地形図

(パシフィック航業株式会社 昭和46年)



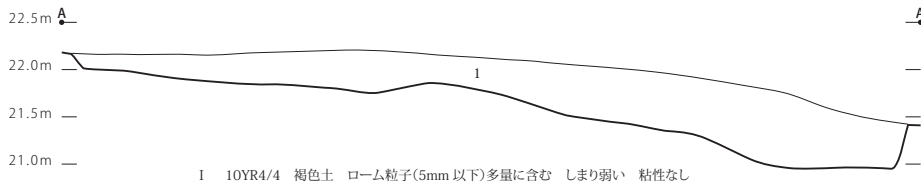
第46図 仙台原遺跡 全体図

1トレンチ～5トレンチ



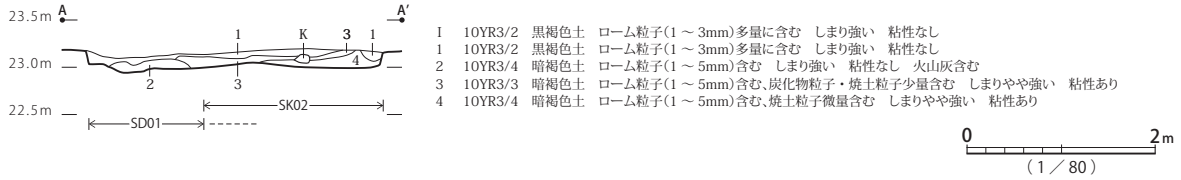
第47図 仙台原遺跡 平面図(1)

1 トレンチ



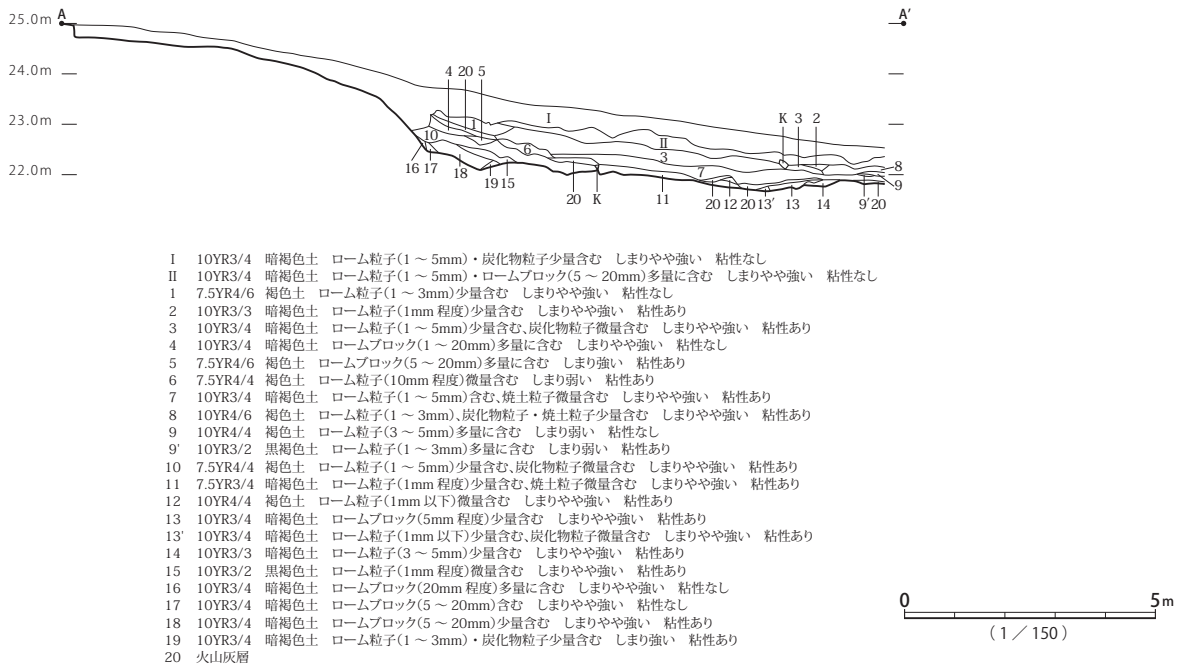
I 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまり弱い 粘性なし

2 トレンチ



I 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)多量に含む しまり強い 粘性なし
 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)多量に含む しまり強い 粘性なし
 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~5mm)含む しまり強い 粘性なし 火山灰含む
 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1~5mm)含む、炭化物粒子・焼土粒子少量含む しまりやや強い 粘性あり
 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~5mm)含む、焼土粒子微量含む しまりやや強い 粘性あり

3 トレンチ



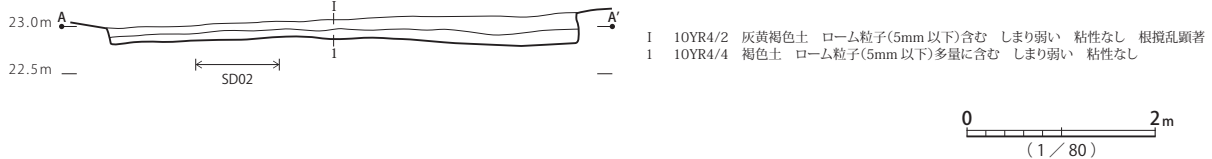
I 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~5mm)・炭化物粒子少量含む しまりやや強い 粘性なし
 II 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~5mm)・ロームブロック(5~20mm)多量に含む しまりやや強い 粘性なし
 1 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒子(1~3mm)少量含む しまりやや強い 粘性なし
 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~5mm)少量含む、炭化物粒子微量含む しまりやや強い 粘性あり
 4 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(1~20mm)多量に含む しまりやや強い 粘性なし
 5 7.5YR4/6 褐色土 ロームブロック(5~20mm)多量に含む しまり強い 粘性あり
 6 7.5YR4/4 褐色土 ローム粒子(10mm程度)微量含む しまり弱い 粘性あり
 7 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~5mm)含む、焼土粒子微量含む しまりやや強い 粘性あり
 8 10YR4/6 褐色土 ローム粒子(1~3mm)、炭化物粒子・焼土粒子少量含む しまりやや強い 粘性あり
 9 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(3~5mm)多量に含む しまり弱い 粘性なし
 9' 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(1~3mm)多量に含む しまり弱い 粘性あり
 10 7.5YR4/4 褐色土 ローム粒子(1~5mm)少量含む、炭化物粒子微量含む しまりやや強い 粘性あり
 11 7.5YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1mm程度)少量含む、焼土粒子微量含む しまりやや強い 粘性あり
 12 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(1mm以下)微量含む しまりやや強い 粘性あり
 13 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(5mm程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
 13' 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1mm以下)少量含む、炭化物粒子微量含む しまりやや強い 粘性あり
 14 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(3~5mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
 15 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子(1mm程度)微量含む しまりやや強い 粘性あり
 16 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(20mm程度)多量に含む しまりやや強い 粘性なし
 17 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(5~20mm)含む しまりやや強い 粘性なし
 18 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(5~20mm)少量含む しまりやや強い 粘性あり
 19 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子(1~3mm)・炭化物粒子少量含む しまり強い 粘性あり
 20 火山灰層

4 トレンチ



I 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまり弱い 粘性なし

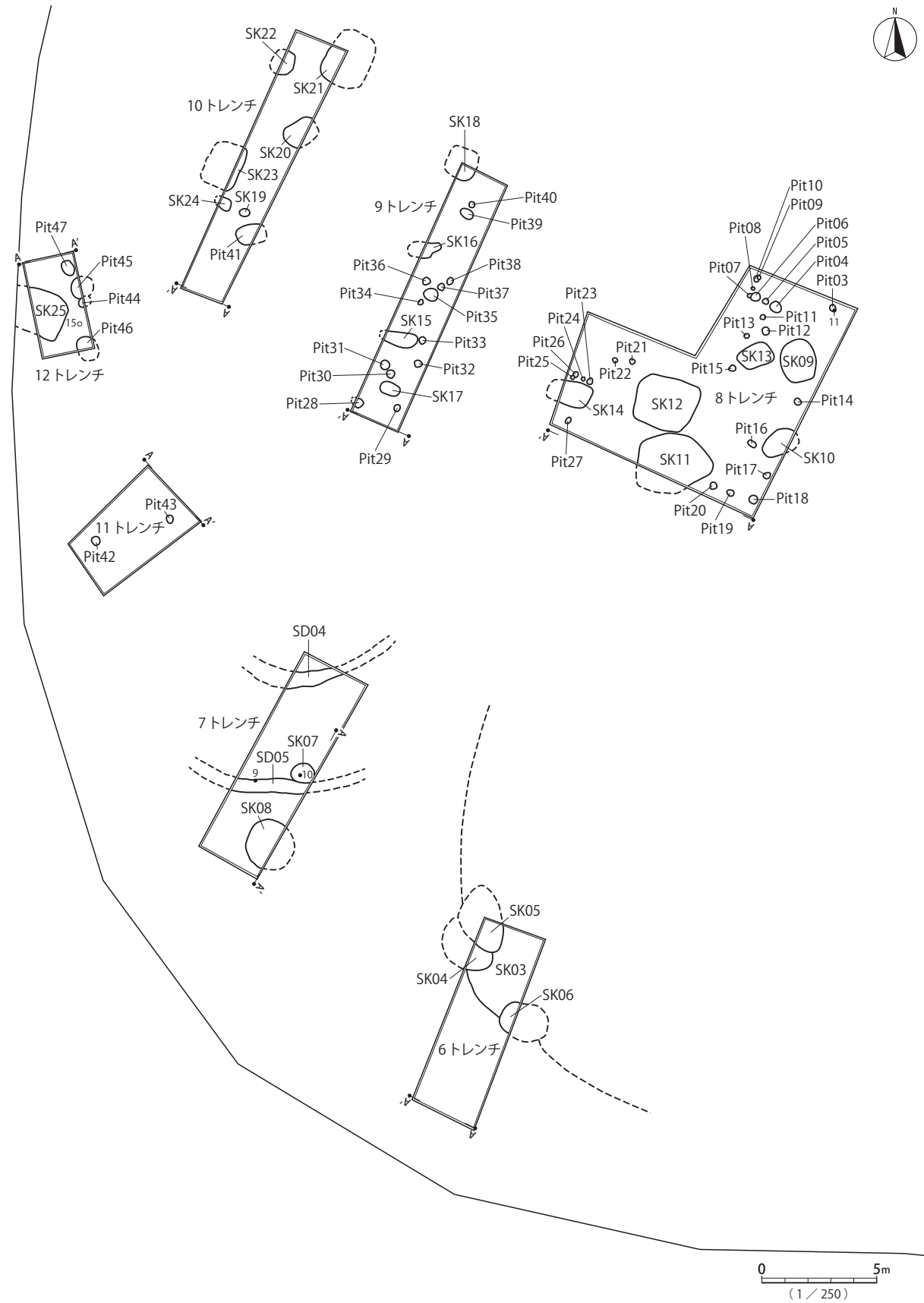
5 トレンチ



I 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性なし 根掘乱頭著
 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまり弱い 粘性なし

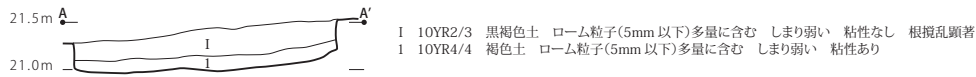
第48図 仙台原遺跡 断面図(1)

6トレンチ～12トレンチ

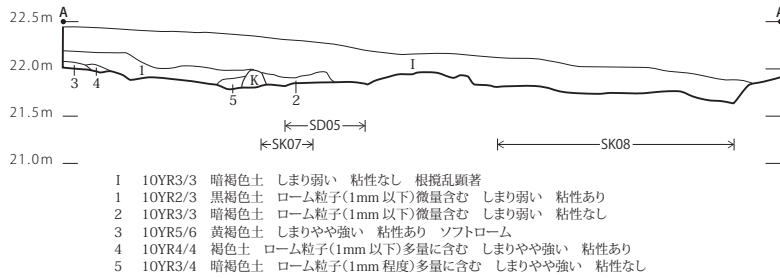


第49図 仙台原遺跡 平面図(2)

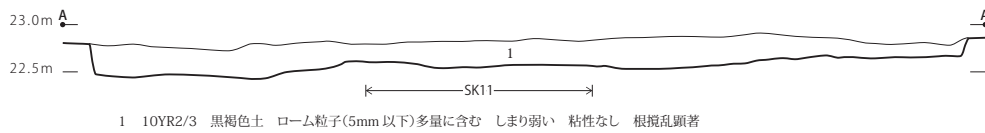
6 トレンチ



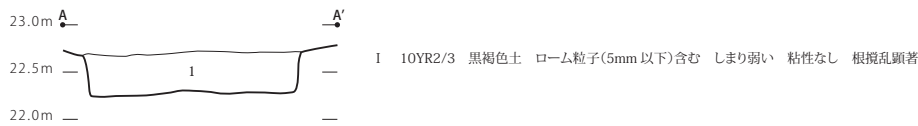
7 トレンチ



8 トレンチ



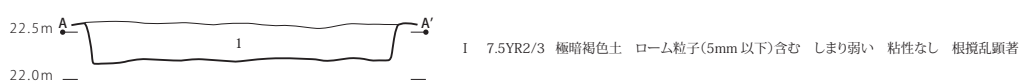
9 トレンチ



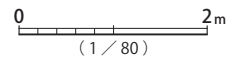
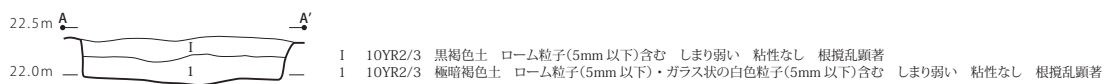
10 トレンチ



11 トレンチ

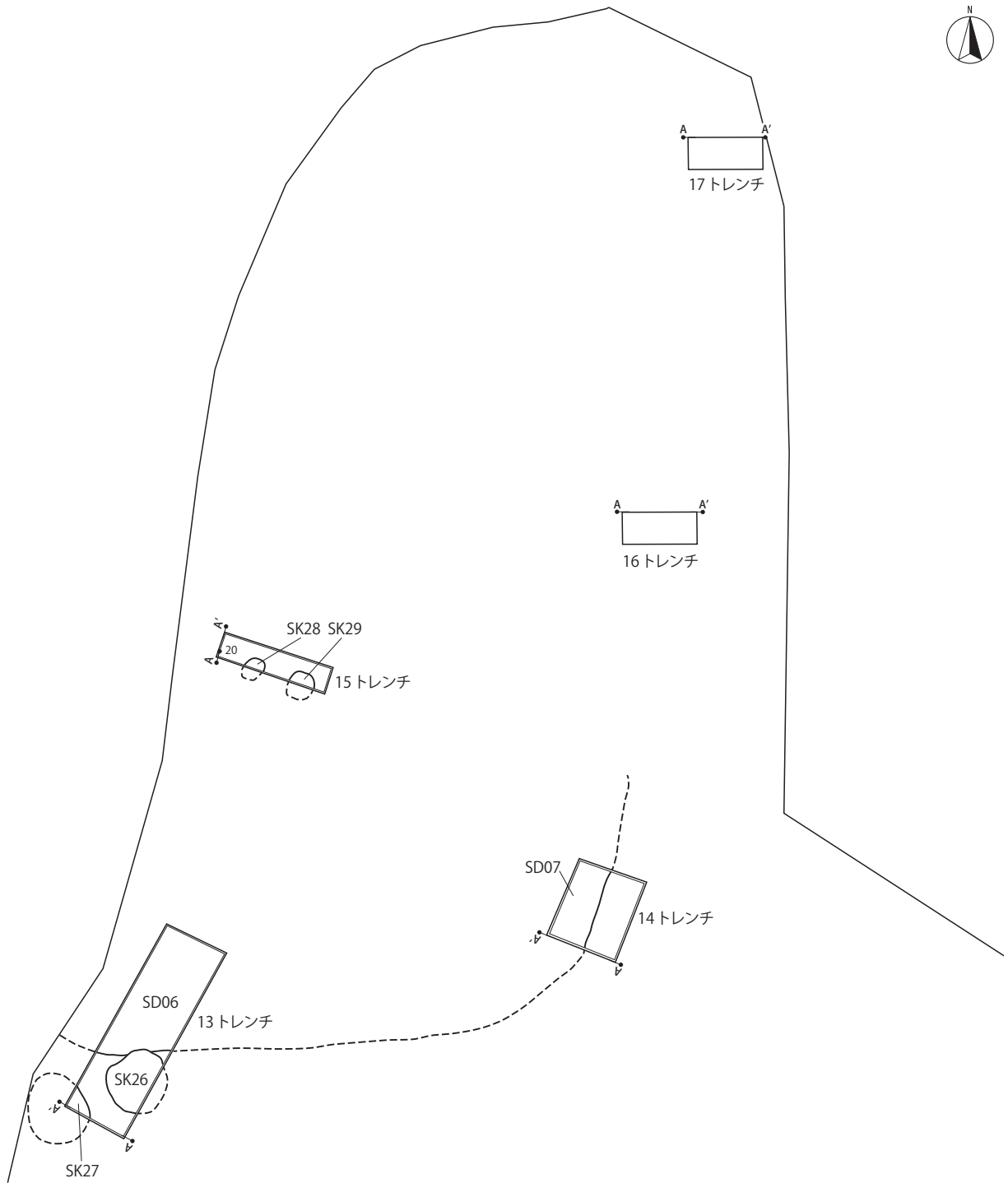


12 トレンチ



第50図 仙台原遺跡 断面図(2)

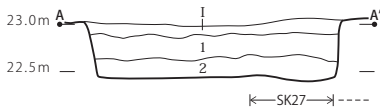
13トレンチ～17トレンチ



0 5m
(1/250)

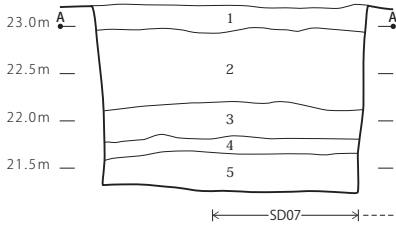
第51図 仙台原遺跡 平面図(3)

13 トレンチ



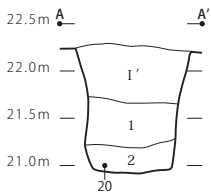
- I 10YR2/1 黒色土 ローム粒子(5mm以下)含む しまり弱い 粘性なし 根掘乱顕著
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(5~15mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(5~8mm)やや多く含む しまりやや強い 粘性あり

14 トレンチ



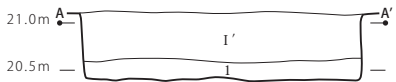
- 1 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(5~20mm)多量に含む、炭化物粒子・焼土粒子少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 2 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(5~50mm)多量に含む、炭化物粒子・焼土粒子少量含む しまりやや強い 粘性あり
- 3 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(5~10mm)含む、炭化物粒子・焼土粒子やや多く含む、白色粘土粒子(5mm以下)含む しまり強い 粘性あり
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)少量含む、炭化物粒子・焼土粒子含む、白色粘土粒子(5mm以下)やや多く含む しまりやや強い 粘性あり
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(5~10mm)含む、炭化物粒子・焼土粒子含む、白色粘土粒子(5mm以下)少量含む しまりやや強い 粘性あり

15 トレンチ



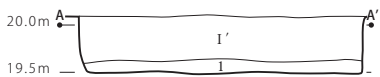
- I' 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒子(5mm以下)多量に含む しまり弱い 粘性なし
- 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)・ガラス状の白色粒子(5mm以下)多量に含む しまり弱い 粘性なし
- 2 10YR4/4 褐色土 ローム粒子(5mm以下)・ガラス状の白色粒子(5mm以下)多量に含む、白色スコリア(5mm以下)含む、炭化物粒子・焼土粒子微量含む しまり強い 粘性あり

16 トレンチ

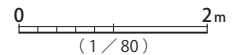


- I' 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱い 粘性あり 腐食土(産廃物あり)
- 1 ハードローム

17 トレンチ



- I' 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子(1mm以下)少量含む しまり弱い 粘性なし 根掘乱顕著
- 1 ハードローム



第52図 仙台原遺跡 断面図(3)

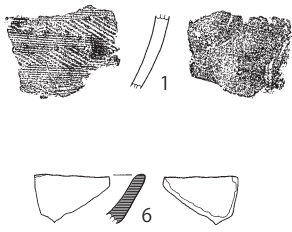
美濃系の志野丸皿、7は常滑産の片口鉢Ⅱ類である。

5 トレンチからは南北方向に延びる溝状遺構2条(SD02・03)が検出された(第47図・図版8)。幅はそれぞれ約1m、1.6mを計り、前者については3 トレンチで確認されたSD02に接続すると考えられる。

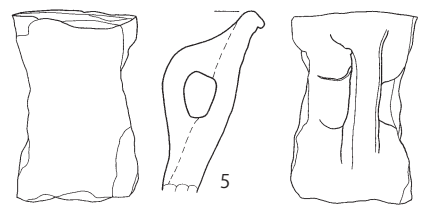
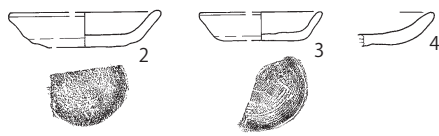
6 トレンチからは土坑が4基(SK03~06)検出された(第49図・図版8)。大部分がトレンチ外へ位置しているものの、これらの土坑の平面形態は円形~楕円形を呈すると考えられる。出土遺物8は近世陶器徳利である。

7 トレンチからは東西方向に延びる溝状遺構2条(SD04・05)と土坑2基(SK07・08)が検出された(第49図・図版8)。溝状遺構の幅はそれぞれ0.8m、0.6mを計り、硬化面を有する。土坑2基の

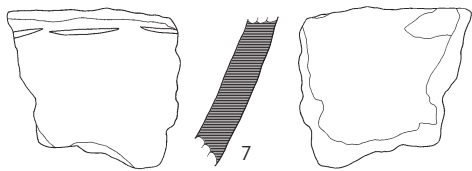
2トレンチ



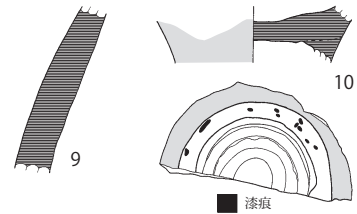
3トレンチ



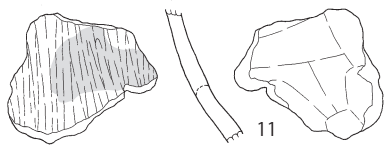
6トレンチ



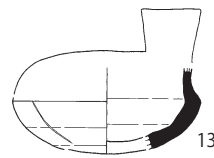
7トレンチ



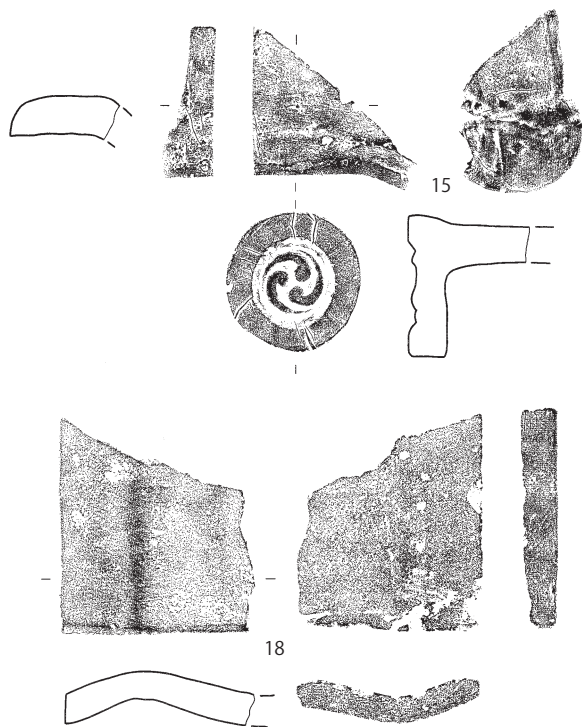
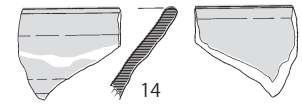
8トレンチ



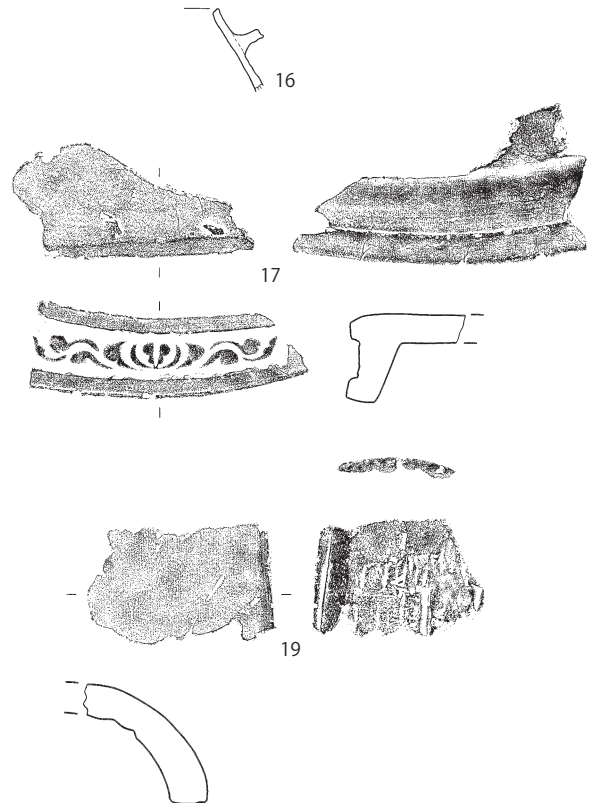
10トレンチ



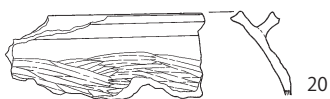
12トレンチ



13トレンチ



15トレンチ



0 (1・4・9・11・12・14・16・20) 10cm
(1/3)

0 (2・3・10・13・15・17~19) 10cm
(1/4)

第53図 仙台原遺跡 遺物実測図

平面形態は円形から楕円形を呈すると考えられる。出土遺物9は常滑産の片口鉢Ⅱ類、10は瀬戸・美濃系の瓶子である。

8トレンチからは土坑6基(SK09～14)、ピット25基(Pit03～27)が検出された(第49図・図版8)。土坑の平面形態は楕円形から隅丸方形を呈し、規模は最大約3.6m×3.2mを計る。ピットの平面形態は主に円形であり、大きさも直径0.4m程度と小規模である。出土遺物11は弥生土器壺、12は常滑産の甕である。

9トレンチからは土坑4基(SK15～18)、ピット13基(Pit28～40)が検出された(第49図・図版9)。土坑の平面形態は主に隅丸長方形であり長軸の規模は確認できるもので最大2m以上を計る。ピットは主に円形の平面形態を有し、直径約0.2mと小規模なものが多い。

10トレンチからは土坑6基(SK19～24)とピット1基(Pit41)が検出された(第49図・図版8)。土坑の遺構平面プランの大部分がトレンチ外に位置しており、平面形態・規模は不明確だが、主に隅丸長方形を呈すると考えられる。ピットについては直径0.3mの円形を呈する。出土遺物13は須恵器平瓶である。

11トレンチからはピット2基(Pit42・43)が検出された(第49図・図版9)。直径はそれぞれ約0.3m程度と小規模である。

12トレンチからは土坑1基(SK25)とピット4基(Pit44～47)が検出された(第49図・図版9)。土坑の平面形態は隅丸方形または隅丸長方形を呈すると考えられる。ピットは円形～楕円形の形態を有すると考えられ、直径は確認できるもので約0.7mである。出土遺物14は瀬戸・美濃系の直縁大皿(古瀬戸後期様式)、15は近世の軒瓦である。

13トレンチからは溝状遺構(SD06)と土坑2基(SK26・27)が検出された(第51図・図版9)。SD06はトレンチ北半分に展開しており規模は不明確である。SD07に接続する可能性があるが、今回の調査成果では判断できないためそれぞれ別遺構とした。土坑についてSK26の平面形態は楕円形を呈すると考えられ、規模は確認できる範囲では長軸約3.6mを計る。出土遺物16は南伊勢系の羽釜、17は近世の軒瓦、18は棧瓦、19は丸瓦である。

14トレンチからは溝状遺構(SD07)が検出された(第51図・図版9)。この遺構はトレンチ西半分に展開しており規模は不明確である。また、この遺構の確認面は表土から約2mの深度であり、その上層にはロームブロックが多量に混ざった層が確認されている。

15トレンチからは土坑2基(SK28・29)が検出された(第51図・図版9)。2基とも遺構平面プランの大部分はトレンチ外に位置しており、規模は不明確である。出土遺物20は南伊勢系の羽釜である。

今回の調査の結果、中世末の土器・陶器が多く発見された。非掲載も含めて今回の調査で出土した中世遺物の総重量は983.9gであった。また弥生～古墳前期の土器、また近世の陶器・瓦も確認されていることから、今回の調査地点には全体的に主に弥生～古墳時代、中世末、近世の遺構が展開していると考えられる。

第1表 出土遺物観察表
凡例：寸法の（ ）は現存値、？は推定復元値を示す。

北六原遺跡(確認調査) 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面	
4	10	1	1	-	1トレ15、 1トレ一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	60	13.9?	4.1	7.1	13.9?	良好	白色粒子・赤褐色粒子・ 透明粒子・骨針・石英・ 長石	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズ リ、底部回転ヘラ切痕	口縁部～底部クロロナデ	クロロ土師器
4	10	2	1	-	1トレ一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	40	12.0?	3.4	6.7	12.2?	良好	白色粒子・透明粒子・骨 針・石英・長石	7.5YR7/8 黄橙	5YR7/6 橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズ リ、底部回転ヘラ切痕	口縁部～底部クロロナデ	クロロ土師器
4	12	3	1	-	1トレ一括	土師器	甕	胴部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子・雲母・石英・ 長石	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	横ナデ後横ヘラケズリ	横滑ナデ	
4	12	4	1	-	1トレ一括	須恵器	甕	口縁部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・骨 針・石英・長石	5Y5/2 灰オリーブ	5Y5/2 灰オリーブ	口縁部横ナデ、頸部クロ ロナデ	口縁部～頸部クロロナデ	
4	12	5	1	-	1トレ23	灰軸陶器	椀	口縁部～ 体部	小片	14.9?	(3.0)	-	14.9?	良好	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	口縁部	クロロナデ、灰軸	東海産 K90～O53 型式
4	12	6	-	SX02	1トレ サブ3一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	20	16.0?	(5.4)	-	16.0?	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・雲 母・石英・長石	5YR6/4 橙	5YR6/4 橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部付近手持ちヘラケズリ	口縁部～底部クロロナデ、 調整が甘い	クロロ土師器
4	10	7	-	SX02	1トレ13、 1トレサブ3 -一括	須恵器	杯	口縁部～ 底部	70	11.9	3.8	7.0	11.9	やや 甘い	白色粒子・黒色粒子・骨 針・石英・長石	10YR4/1 灰色	10YR4/1 灰色	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズリ	口縁部～底部クロロナデ	永田・不入Ⅲ～Ⅳ 同一個体1ヶ5.8g

北六原遺跡(本調査) 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面	
10	10	1	-	S101	SI001 20	土師器	杯	口縁部～ 底部	90	12.3	4.4	7.3	12.3	やや 甘い	白色粒子・赤褐色粒子・ 透明粒子・石英・長石	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズ リ、底部回転糸切痕	口縁部～ クロロナデ	クロロ土師器
10	12	2	-	S101	SI001 11	土師器	甕	頸部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・赤褐色粒子・ 透明粒子・骨針・石英・ 長石	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	口縁部上端横ヘラナデ、下 端ヘラミミ刃キ	ヘラミガキ	古墳時代?
10	12	3	-	S101	SI001 1一括	須恵器	杯	体部～ 底部	30	(1.6)	7.8	(10.5)	48.3	やや 甘い	白色粒子・赤褐色粒子・ 石英・長石	7.5YR3/4 暗褐	7.5YR3/4 暗褐	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズリ	口縁部～ クロロナデ	千葉産
10	12	4	-	S101	SI001 3	灰軸陶器	瓶壺類	体部	小片	-	-	-	44.1	良好	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・石英・長石	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄	口縁部	クロロナデ	
10	10	6	-	S102	SI002 50	土師器	杯	口縁部～ 底部	50	17.7?	6.2	9.5	17.7?	やや 甘い	白色粒子・黒色粒子・石 英・長石	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズ リ、底部回転ヘラ切痕	口縁部～底部クロロナデ、 後ヘラミガキ	クロロ土師器
10	10	7	-	S102	SI002 51	土師器	杯	口縁部～ 底部	60	13.6?	4.7	7.0	13.6?	やや 甘い	白色粒子・赤褐色粒子・ 雲母・石英・長石	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズ リ、底部回転糸切痕	口縁部～ クロロナデ	クロロ土師器
10	10	8	-	S102	SI002 47・ 50・57・64	土師器	杯	口縁部～ 底部	80	12.2	4.0	6.2	12.2	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・骨針・石英・長 石	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部回転ヘラケズリ、底部 回転ヘラ切痕	口縁部～ クロロナデ	クロロ土師器
10	10	9	-	S102	SI002 52・ 54	土師器	杯	口縁部～ 底部	90	12.0	4.7	6.2	12.0	甘い	白色粒子・赤褐色粒子・ 透明粒子・骨針・石英・ 長石	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズ リ、底部に粗雑な回転ヘラ 切痕	口縁部～ クロロナデ	クロロ土師器 同一個体0.6g
10	12	10	-	S102	SI002 49	土師器	杯	口縁部～ 底部	40	11.6?	(4.9)	(3.0)	11.6?	甘い	白色粒子・赤褐色粒子・ 透明粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端手持ちヘラケズ リ、底部回転ヘラ切痕	口縁部～ クロロナデ	クロロ土師器
10	12	11	-	S102	SI002 31・ 32・36・一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	30	12.0?	(3.8)	6.8?	12.0?	やや 甘い	白色粒子・赤褐色粒子・ (多量)・透明粒子・骨 針・石英・長石	10YR5/3 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	口縁部～底部クロロナデ、 底部下端回転ヘラケズリ、 底部回転糸切痕	口縁部～ クロロナデ	クロロ土師器

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面	
10	12	12	-	SI02	SI002 56・ P2 一括	土師器	杯	体部～ 底部	30	-	(2.8)	6.8	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・雲 母・骨針・石英・長石	外面 7.5YR8/3 浅黄緑	内面 7.5YR8/4 浅黄緑	口縁部～底部ロクロナデ、 底部回転へラケズリ、 底部回転へラ切痕	ロクロナデ	底部外面に墨書 「大昌」
10	12	13	-	SI02	SI002 22	土師器	甕	底部	小片	-	(1.6)	5.7?	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・雲 母・骨針・石英・長石	外面 7.5YR7/6 黄緑	内面 7.5YR8/6 浅黄緑	横へラケズリ	粗雑な横ナデ	
10	12	14	-	SI02	SI002 35	灰釉陶器	椀	口縁部	小片	-	(2.6)	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・雲母・石英・長 石	外面 7.5YR4/3 褐	内面 5Y7/1 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、部分的に灰釉 状、ロクロナデ	猿投窯
10	12	15	-	SI02	SI002 53	須恵器	円面硯?	底部	小片	-	(3.3)	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・雲母・石英・長 石	外面 7.5YR4/2 暗灰黄	内面 7.5YR4/4 褐	ロクロナデ	底部の接地面が折り返し 状、ロクロナデ	千葉産
10	12	16	-	SI02	SI002 60	灰釉陶器	瓶壺類	胴部	小片	-	(5.9)	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	外面 2.5Y4/2 暗灰黄	内面 2.5Y4/2 暗灰黄	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ	
11	12	18	-	SK01	セ 595 SK0011 一括	須恵器	蓋	口縁部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・骨 針・石英・長石	外面 2.5Y6/2 灰黄	内面 2.5Y6/4 黄褐	ロクロナデ	ロクロナデ	永田・不入
11	12	19	-	SK04	セ 595 2トレ 10	須恵器	甕	胴部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・骨 針・石英・長石	外面 10YR5/4 にぶい黄緑	内面 10YR4/4 褐	横へラケズリ	横へラナデ	千葉産
11	12	20	-	PH01	セ 595 2トレ 7	土師器	椀	底部	小片	-	(1.4)	7.5?	-	良好	白色粒子・透明粒子・雲 母・骨針・石英・長石	外面 10YR6/4 にぶい黄緑	内面 10YR6/4 にぶい黄緑	ロクロナデ、底部台貼付	平滑ナデ	ロクロ土師器
11	12	21	-	PH03	PH003 2、 SI002 62	土師器	杯	口縁部～ 底部	50	13.2?	4.5	5.8	13.5?	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・雲母・石英・長 石	外面 10YR6/4 にぶい黄緑	内面 10YR7/3 にぶい黄緑	ロクロナデ、底部回転へラ ケズリ、底部回転へラ切痕、 外面被熱し器壁の一部が剥 落	ロクロナデ	ロクロ土師器 被熱痕跡
11	12	22	-	PH03	PH003 1 一括	土師器	杯	口縁部～ 体部	20	11.8?	(3.5)	-	11.8?	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・骨針・石英・長 石	外面 7.5YR7/8 黄緑	内面 7.5YR7/6 黄緑	口縁部ロクロナデ、体部回 転へラケズリ、被熱痕 跡	ロクロナデ、被熱痕跡	ロクロ土師器 被熱痕跡 同一個体 2.5g
11	12	23	-	SX01	SX001 1 一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	20	11.9?	4.3	6.0?	11.9?	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・雲 母・骨針・石英・長石	外面 10YR6/4 にぶい黄緑	内面 10YR6/4 にぶい黄緑	口縁部ロクロナデ、底部手 持ちへラケズリ、底部回転 へラ切痕	ロクロナデ	ロクロ土師器
11	12	24	-	SX01	セ 595 2トレ P002 1 一括	土師器	杯	体部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・骨 針・石英・長石	外面 5YR6/6 黄	内面 5YR6/8 黄	調整不明瞭	へラミガキ後、格子状に暗 文を施す	上総型暗文杯
11	12	25	-	SX01	SX001 1 一括	須恵器	杯	口縁部～ 体部	小片	13.3?	(4.9)	-	13.3?	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・石 英・長石を多量に含む 白色粒子・透明粒子・雲 母・石英・長石	外面 7.5Y3/1 オリーブ黒	内面 7.5Y3/1 オリーブ黒	ロクロナデ	ロクロナデ	
11	12	26	-	SX01	SX001 1 一括	須恵器	甕	口縁部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・雲 母・石英・長石	外面 5YR5/6 明赤褐	内面 5YR5/6 明赤褐	口縁部を肥厚させ、ロクロ ナデ	横へラナデ	千葉産
11	12	27	-	SX01	セ 595 1トレ 5	須恵器	瓶壺類	頸部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・骨 針・石英・長石	外面 2.5Y5/1 黄灰	内面 2.5Y5/1 黄灰	ロクロナデ	ロクロナデ	猿投窯
11	12	28	-	SX01	SX001 1 一括	須恵器	甕	口縁部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	外面 7.5YR5/6 明褐	内面 7.5YR5/6 明褐	口縁部を肥厚させ、ロクロ ナデ	横へラナデ	千葉産
11	12	29	-	SX01	SX001 1 一括	須恵器	甕	頸部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・石英・長石	外面 2.5Y3/1 黒褐	内面 2.5Y3/1 黒褐	ロクロナデ	ロクロナデ	千葉産
11	12	30	-	SX01	セ 595 1トレ 25	須恵器	甕	頸部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・茶 褐色粒子・石英・長石	外面 2.5Y5/1 黄灰	内面 2.5Y5/1 黄灰	ロクロナデ、波状紋	ロクロナデ	猿投窯
11	12	31	-	SX01	SX001 1 一括	灰釉陶器	椀	口縁部～ 体部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・茶 褐色粒子・石英・長石	外面 2.5Y6/3 にぶい黄	内面 2.5Y6/4 にぶい黄	ロクロナデ	ロクロナデ、灰釉	猿投窯
11	12	32	-	SX01	SX001 1 一括	在地土器	鉢?	口縁部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・雲 母・石英・長石	外面 10YR5/3 にぶい黄緑	内面 10YR5/8 黄褐	ロクロナデ	ロクロナデ	中世
11	12	33	-	遺構外	イセキ 1 一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	35	12.8?	4.5	6.8?	12.8?	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・骨針・石英・長 石	外面 7.5YR7/6 黄緑	内面 7.5YR6/4 にぶい黄緑	口縁部～体部ロクロナデ、 底部手持ちへラケズリ、底 部回転へラ切痕	不明瞭ナデ	ロクロ土師器
11	12	34	-	遺構外	イセキ 1 一括	土師器	杯	底部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・茶 褐色粒子・石英・長石	外面 7.5YR8/6 黄緑	内面 7.5YR7/8 黄緑	底部に十字状に線刻	不明瞭ナデ	底部線刻
11	12	35	-	遺構外	イセキ 1 一括	須恵器	瓶壺類	底部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・石英・長石	外面 2.5Y6/2 灰黄	内面 2.5Y7/2 灰黄	ロクロナデ、自然釉付着	ロクロナデ	
11	12	36	-	遺構外	イセキ 1 一括	近世土器	焙烙	口縁	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・骨針・石英・長 石	外面 7.5YR3/1 黒褐	内面 7.5YR7/6 黄	口唇部ロクロナデ、口縁部 ～体部粗雑な横ナデ	口唇部ロクロナデ後、横へ ラナデ	

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面	
21	13	19	-	SD03	SD003 23、 SK003 1 一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	30	13.7?	4.4	6.0	13.7?	やや 甘い	白色粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・骨針・石英・ 長石	7.5YR4/3	10YR6/4 にぶい黄褐色	ロクロナデ、 底部手持ちへ ラケズリ	ロクロナデ	ロクロ土師器
21	13	20	-	SD03	SD003 43 一括	須恵器	蓋	口縁部～ 体部	小片	14.1?	(1.4)	-	14.1?	良好	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	
21	13	21	-	SD03	SD003 13	須恵器	瓶蓋類	底部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子多量に含む・石 英・長石	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	ロクロナデ	ロクロナデ	
21	13	22	-	SD03	SD003 6	中世陶器	甕	口縁部	小片	-	-	-	-	良好	白色粒子多量に含む・石 英・長石	10YR5/4 7.5YR3/4 にぶい黄褐色	7.5YR3/4 暗褐	肥厚口縁、横へラナデ、 鉄へラナデ、鉄軸	横へラナデ、鉄軸	常滑産 9 型式
23	14	33	-	遺構外	イセキ 一括	土師器	杯	口縁部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	骨針多量に含む・石・英 ・長石	7.5YR6/8 橙	7.5YR5/6 明褐	調整不明瞭	格子状に暗文を施す	上総型暗文杯
23	14	34	-	遺構外	イセキ 一括	中世陶器	蓋	底部	小片	-	-	8.4?	-	良好	白色粒子多量に含む・石 英・長石	10YR5/2 灰黄褐色	5Y6/2 灰オリーブ	底部横へラナデ	横へラナデ	常滑産

中台遺跡 (第5次) 瓦観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm			重量 g	4 隅 残存	胎土	特徴	色調	細叩き 2×2cm		焼成	側・端面の特徴	特徴			
							全長	幅	中央厚 ※側(側 面部厚)						糸	節				擦	緯糸	縦糸
20	13	5	-	SD01	SD001 21	軒平	(9.8)	-	(側) 3.2	733.2	a	白色粒子・透明粒子・ 骨針・石英・長石	瓦当側面を横方 向にへラナデ、 被熱痕跡	10YR5/4 にぶい黄褐色	-	-	やや 甘い	15	13	やや 甘い	側面粗いナデ調整、 2a 段階以降)、顎形盛曲 線頸。類2種、粘土板 一枚づくり	
20	13	6	-	SD01	SD001 25 一括	丸瓦	(8.0)	-	(側) 2.0	182.9	a	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・骨針・石 英・長石	布目痕、狭端側 に布端痕、粘土 板の接合痕跡が 顕著	5Y4/2 灰オリーブ	-	-	やや 甘い	10	10	やや 甘い	側面調整、分割痕 行基式	
20	13	7	-	SD01	SD001 59	平瓦	(17.4)	-	2.6	436.8	b	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・石英・長 石	布目痕、側面側 に布端痕	2.5Y4/2 暗灰黄	3	4	L	14	13	やや 甘い	へラナデ、凹凸面 へラナデ、 側ケズリ	粘土板一枚づくり
20	13	8	-	SD01	SD001 8	平瓦	12.5	-	(側) 2.1	221.4	a	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・骨針・石 英・長石	布目痕	10YR5/2 灰黄褐色	-	-	やや 甘い	12	13	やや 甘い	粗雑なへラナデ 凹面側はケズリを 入れるが、凸面側 は粘土の歪を調整 していない 坊作 1?	行基式
21	13	24	-	SD03	SD003 28・ 29・38・43 一括	丸瓦	(25.6)	狭17.4	2.2	1197.0	c・d	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・骨針・石 英・長石	布目痕、広端 側に布端痕 (布は2枚を接 ぎ合わせてい る)、摸骨圧痕、 糸切り痕	7.5YR6/8 橙	-	-	良好	8	10	良好	凸面側の広端面を へラケズリ、広端 面をへラナデ 行基式	行基式
22	14	25	-	SD03	SD003 21	丸瓦	(17.8)	-	2.5	603.0	-	白色粒子・透明粒子・ 骨針・石英・長石	布目痕、広端 側に布端痕、 摸骨圧痕、糸切 り痕	7.5YR6/8 橙	-	-	良好	13	10	良好	凸面側の右側面を へラケズリ、狭端 面をへラナデ 行基式	行基式
22	14	26	-	SD03	SD003 34	平瓦	(10.3)	-	(側) 2.7	406.0	-	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・骨針・石 英・長石	布目痕、広端側 に布端痕、糸切 り痕	2.5YR3/2 黒褐	5	8	L	15	16	やや 甘い	広端面へラナデ 粘土板一枚づくり	粘土板一枚づくり
22	14	27	-	SD03	SD003 12	平瓦	(11.7)	-	(側) 2.9	412.0	-	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・骨針・石 英・長石	布目痕、糸切り 痕	10YR6/4 にぶい黄褐色	8	-	L	7	8	やや 甘い	狭端面へラナデ 粘土板一枚づくり	粘土板一枚づくり

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面	
27	10	6	-	S101	S1001 1一括	土師器	小型杯	口縁部～ 底部	100	9.5	1.8	5.7	9.5	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	7.5YR2/2 黒褐	7.5YR3/2 黒褐	ロクロナデ、底部手持ちへ ラケズリ、口縁部の調整 甘く歪みが著者、底部糸 切り痕、底部の調整甘く 粘土のひずみを残す	ロクロナデ、スス、油染み 付着、被熱痕跡	ロクロ土師器 灯明具 スス・油 染みが付着
27	10	7	-	S101	S1001 1一括	土師器	小型杯	口縁部～ 底部	100	9.2	2.4	4.5	9.2	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	10YR3/1 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	ロクロナデ、底部回転へラ ケズリ、底部糸切り痕 付着、被熱痕跡	ロクロナデ、スス、油染み 付着、被熱痕跡	ロクロ土師器 灯明具 スス・油 染みが付着
27	10	8	-	S101	S1001 5	土師器	小型杯	口縁部～ 底部	90	9.2	2.2	5.9	9.3	良好	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子・雲母・骨針・石 英・長石	5YR5/6 明赤褐	5YR4/8 赤褐	ロクロナデ、底部糸切り痕、 底部の調整甘く粘土のひず みを残す	ロクロナデ	ロクロ土師器
27	10	9	-	S101	S1001 4	土師器	小型杯	口縁部～ 底部	90	9.0	2.5	4.2	9.1	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/6 明褐	ロクロナデ、底部糸切り痕、 底部の調整甘く粘土のひず みを残す	ロクロナデ	ロクロ土師器
27	10	10	-	S101	S1001 1一括	土師器	小型杯	口縁部～ 底部	55	9.5	2.5	4.4	9.6	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・ 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	ロクロナデ、底部手持ちへ ラケズリ、底部糸切り痕、 口縁部の調整甘く歪みが著 者	ロクロナデ、スス、油染み 付着	ロクロ土師器 灯明具 スス・油 染みが付着
27	10	11	-	S101	S1001 1一括	土師器	小型杯	口縁部～ 底部	95	9.6	2.6	4.7	9.7	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/8 黄褐	ロクロナデ、底部糸切り痕、 底部の調整甘く粘土のひず みを残す	ロクロナデ	ロクロ土師器
27	11	12	-	S102	S1002 15	土師器	杯	口縁部～ 底部	80	11.4	3.3	5.9	11.5	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y3/1 黒褐	ロクロナデ、底部糸切り痕	ロクロナデ	ロクロ土師器
27	11	13	-	S102	S1002 3・4	土師器	杯	口縁部～ 底部	45	11.2?	3.9	5.0	11.2?	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR4/3 にぶい赤褐	ロクロナデ、底部糸切り痕、 底部の調整甘く粘土のひず みを残す	ロクロナデ	ロクロ土師器
27	14	14	-	S102	S1002 5	土師器	杯	口縁部～ 底部	20	14.2?	4.2	7.4?	14.2	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	ロクロナデ、底部付近指ナ デ、底部糸切り痕	ロクロナデ	ロクロ土師器
27	11	16	-	S103	S1003 1一括	土師器	小型碗	口縁部～ 底部	90	10.4	4.0	5.9	10.5	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	5YR6/6 橙	5YR6/8 橙	ロクロナデ、底部台貼付、 被熱痕跡	ロクロナデ、ヘラミガキ、 被熱痕跡	ロクロ土師器
27	14	17	-	S104	S1004 2	弥生土器	壺	頸部	小片	-	-	-	-	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(スコリア状)・ 黒色粒子・雲母・石英・ 長石	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	弥生時代後期
28	11	18	-	S105	S1005 12、3 トレ 5	土師器	杯	口縁部～ 底部	50	13.8?	3.9	6.3	13.8?	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	7.5YR7/8 黄橙	7.5YR7/6 橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロ土師器
28	11	19	-	S105	S1005 10	土師器	碗	口縁部～ 底部	100	15.3	5.1	6.7	15.3	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/1 黒	ロクロナデ、底部台貼付	ロクロナデ、ヘラミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
28	11	20	-	S105	S1005 11・ 14	土師器	足高 台杯	口縁部～ 底部	80	15.9	5.4	7.9	15.9	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シヤモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	5Y5/4 にぶい赤褐	5Y5/4 にぶい赤褐	ロクロナデ、底部高台貼付、 高台の付根部分を回転へラ ケズリ	ロクロナデ	ロクロ土師器

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	N/牙 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm		重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考	
										口径	器高				底径	最大幅	外面	内面		外面
28	11	21	-	S1005	S1005 5・15、 3トレ 18・1 一括	土師器	足高 台杯	口縁部～ 底部	75	16.2?	7.5	9.3	16.2?	235.7	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・雲母・骨針・ 石英・長石	7.5Y5/4 にぶい褐	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
28	11	22	-	S1005	S1005 8・14	土師器	椀	口縁部～ 底部	60	17.2?	6.1	7.4	17.2?	255.6	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・骨針・石英・ 長石	7.5YR4/6 赤褐	ロクロナデ、粗雑なヘラミ ガキ	ロクロナデ、ヘラミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
28	11	23	-	S1005	S1005 15	土師器	椀	口縁部～ 底部	50	15.4?	6.4	6.8	15.4?	211.1	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・骨針・石英・ 長石	7.5YR4/3 褐	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
28	11	24	-	S1005	S1005 4	土師器	小型椀	口縁部～ 底部	100	10.3	3.7	4.6	10.3	95.4	良好	白色粒子・透明粒子・ 黒色粒子・骨針・石英・ 長石	7.5YR8/6 浅黄橙	ロクロナデ、口縁部に赤色 顔料付着、口縁部にスス付 着、底部台貼付、台の付根 部分を回転(ヘラケズリ)	ロクロナデ、ヘラミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
28	11	25	-	S1005	S1005 14	土師器	小型椀	口縁部～ 底部	100	10.8	3.7	5.3	10.8	103.2	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・骨針・石英・ 長石	10YR4/1 褐灰	ロクロナデ、口縁部に部分 的にスス付着、底部台貼付、 台の付根部分を回転(ヘラケ ズリ)	ロクロナデ、ヘラミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
28	14	26	-	S1005	S1005 13・1 一括	土師器	足高 台皿	口縁部～ 底部	40	9.6?	2.1	4.6	9.6?	40.8	やや 甘い	白色粒子・茶褐色粒子 (シャモット)・灰褐色粒 子(スコリア状) 黒色 粒子・骨針・石英・長石	2.5YR4/6 赤褐	ロクロナデ、底部台貼付	ロクロナデ	ロクロ土師器
28	11	27	-	S1005	S1005 3・9	土師器	甃	口縁部～ 底部	40	17.9?	13.8	6.5	17.9?	439.8	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子多量に含む・雲 母・石英・長石	10YR1/3 黒褐	口縁部横ヘラナデ、胸部縦 ヘラケズリ、胸部～底部横 ヘラケズリ	横ヘラナデ	ロクロ土師器
28	14	28	-	S1005	表探、S1005 2	灰釉陶器	壺	胴部	小片	-	-	-	-	104.7	良好	黒色粒子・石英・長石	7.5YR6/3 オリーブ黄	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ	ロクロ土師器
28	14	30	-	S1006	S1006 5・9	土師器	杯	口縁部～ 底部	30	14.3?	4.3	3.8	14.3?	42.9	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・雲母・石英・ 長石	10YR5/8 明黄褐	ロクロナデ、底部糸切り痕、 底部の調整甘く粘土のひず みを残す	ロクロナデ	ロクロ土師器
28	14	31	-	S1006	S1006 7	土師器	杯	口縁部～ 底部	20	12.1?	3.9	6.0?	12.1?	29.7	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・雲母・石英・ 長石	7.5YR6/6 橙	ロクロナデ、底部手持ちへ ラケズリ、底部ヘラ切り痕	ロクロナデ	ロクロ土師器
28	14	32	-	S1006	S1006 4・1 一括	土師器	足高 台杯	口縁部～ 底部	40	16.3?	5.9	9.8?	16.3?	91.2	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・雲母・石英・ 長石	7.5YR3/2 黒褐	ロクロナデ、底部台貼付	ロクロナデ	ロクロ土師器
29	15	33	-	S1007	S1007 2・1 一括	弥生土器	甃	口縁部～ 胴部	30	20.0?	(15.1)	-	22.2?	143.0	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子多量に含む・雲 母・骨針・石英・長石	7.5YR4/4 橙	口唇部をベン先状工具で表 裏交互に押圧し波状口縁を 作出、頸部に棒状工具の先 端で布を押圧、口縁部～胴 部横ヘラナデ	口唇部をベン先状工具で表 裏交互に押圧し波状口縁を 作出、頸部に棒状工具の先 端で布を押圧、口縁部～胴 部横ヘラナデ	山田橋式
29	11	34	-	S1008	S1008 5、 S1010 4	土師器	足高 台杯	口縁部～ 底部	60	15.5	5.0	7.9	15.5	183.1	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子・黒色粒子・石 英・長石	7.5YR6/6 橙	ロクロナデ、底部台貼付、 口縁部と底部に被熱痕跡	ロクロナデ、口縁部に被熱 痕跡	ロクロ土師器
29	15	35	-	S1008	S1008 10	土師器	甃	口縁部～ 胴部	小片	20.0?	(11.1)	-	20.3?	116.4	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 黒色粒子・骨針・石英・ 長石	5YR6/6 橙	口縁部～頸部横ヘラナデ、 胴部縦ヘラケズリ、胴部被 熱痕跡	口縁部～頸部人念に横ヘラ ナデ、胴部横ヘラナデ	ロクロ土師器

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考	
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面		内面
29	11	37	-	S1009	S1009 9	土師器	碗	口縁部～ 底部	30	14.0?	5.1	6.4?	14.0?	105.5	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子・黒色粒子・骨 針・石英・長石	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器 外面にスス・油染 み 灯明に使用?
29	11	38	-	S1009	S1009 4・6	土師器	小型杯	口縁部～ 底部	100	9.4	2.9	5.3	9.4	90.5	やや 甘い	白色粒子・茶褐色粒子 (シャモット)・黒色粒 子・骨針・石英・長石	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	口縁部へら切り、 底部の調整甘く粘土のひず みを残す、口縁部にスス・ 油染み	口縁部にスス・ 油染み	ロクロ土師器 灯明具 スス・油 染みが付着
29	15	39	-	S1009	S1009 4・5	土師器	小型杯	口縁部～ 底部	50	9.9?	2.8	5.1	9.9?	67.2	甘い	白色粒子・赤褐色粒子 (シャモット)・骨針・石 英・長石	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
29	15	40	-	S1009	S1009 6・8	土師器	裏	胴部	小片	-	-	-	-	93.4	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子・骨針・石英・ 長石	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/2 灰黄褐色	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	
29	15	44	-	S110	S1010 6	土師器	裏	口縁部～ 胴部	小片	-	-	-	-	38.5	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針・石英・長石	7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR3/1 黒褐色	口縁部～胴部横へらナデ、 胴部縦へらナデ、 横へらミガキ	口縁部～胴部横へらナデ、 胴部縦へらナデ、 横へらミガキ	
29	15	45	-	S110	S1010 3	土師器	羽釜	胴部	小片	-	-	-	-	47.8	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針・石英・長石	7.5YR6/6 褐色	-	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	
30	15	47	1	-	1トレ1一拵	土師器	甗?	口縁部～ 胴部	小片	-	-	-	-	63.6	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針・石英・長石	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	鬼高式?
30	11	48	1	-	1トレ42・1 一拵	土師器	杯	口縁部～ 底部	100	11.9	3.7	5.45	11.9	108.7	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針・石英・長石	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/6 明褐色	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器 灯明として使用か
30	15	49	1	-	1トレ1一拵	土師器	杯	口縁部～ 底部	20	14.3?	3.25	7.0?	14.3?	30.4	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針・石英・長石	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/2 灰褐色	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
30	15	50	1	-	1トレ4・1 一拵	土師器	碗	口縁部～ 底部	30	10.8?	4.1	5.3	10.8?	42.4	良好	白色粒子・透明粒子・骨 針・石英・長石	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	口縁部台貼付	口縁部台貼付	ロクロ土師器
30	15	51	1	-	1トレ1一拵	灰釉陶器	皿	口縁部～ 底部	小片	14.1?	(1.1)	-	14.1?	3.9	良好	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	5Y6/2 灰白	5Y6/2 灰白	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	東海産 K90～O53 型式
32	16	70	3	-	3トレ14	縄文土器	深鉢	口縁部	小片	-	-	-	-	55.0	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針・石英・長石	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部へらズリ、 横へらミガキ、 黒色処理	縄文時代後明
32	16	71	3	-	3トレ1一拵	土師器	壺?	口縁部	小片	-	-	-	-	32.4	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・黒色粒子・ 骨針・石英・長石	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	口縁部台貼付、 横へらミガキ	口縁部台貼付、 横へらミガキ	鬼高式?
32	11	72	3	-	3トレ10	土師器	杯	口縁部～ 底部	100	10.4	4.0	4.8	10.4	92.4	良好	大粒の白色粒子・透明粒 子・骨針・大粒の石英・ 長石	10YR7/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	口縁部台貼付	口縁部台貼付	ロクロ土師器
32	16	73	3	-	3トレ26・ 28	土師器	杯	口縁部～ 底部	30	10.8?	5.2	4.7	10.8?	64.1	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・黒 褐色粒子・骨針・石英・長 石	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
32	16	74	3	-	3トレ13	土師器	足高 台杯	口縁部～ 胴部	小片	16.0?	(4.3)	-	16.0?	33.5	良好	白色粒子・透明粒子・骨 針	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器
32	16	75	3	-	3トレ19	土師器	杯	口縁部～ 底部	小片	16.0?	(3.9)	-	16.0?	23.0	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・骨 針・石英・長石	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR2/1 黒	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	口縁部台貼付、 横へらミガキ、 黒色処理	ロクロ土師器 内外面黒色処理、 外面赤色顔料付着
32	16	76	3	-	3トレ1一拵	土師器	杯	口縁部	小片	14.4?	(2.7)	-	14.4?	19.7	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	口縁部台貼付	口縁部台貼付	ロクロ土師器

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存 数	寸法 cm		重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	高さ				外面	内面	外面	内面	
32	11	77	3	-	3トレ29	土師器	裏	胸部~ 底部	20	(8.4)	5.8	134.6	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針・石英・長石	10YR5/1 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	横へラケズリ、底部に被熱 痕跡	粗雑な横へラナデ	
32	16	78	3	-	3トレ26	土師器	裏	口縁部~ 胴部	小片	-	-	47.6	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子・骨針・石英・ 長石	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 にぶい褐	口縁部横へラナデ、胴部縦 へラケズリ	口縁部丁章に横へラナデ、 胴部粗雑な横へラナデ	
32	16	79	3	-	3トレ33	白磁?	水注	注口部	小片	-	-	18.1	良好	きめ細かな白色粒子・き め細かな黒色粒子	7.5GY6/1 オリープ灰	7.5GY6/1 オリープ灰	ケズリを多用、全面に施釉	ケズリを多用、全面に施釉	中国南方系? 12世紀か きめ細かな胎土 ケズリを多用
32	16	80	3	-	SI006 3	近世陶器	不明	体部	小片	-	-	9.7	良好	白色粒子・透明粒子	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/4 褐	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	飯能焼?
32	16	88	-	遺構外	表サイ	土師器	杯	底部	小片	(1.3)	5.3	42.5	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 骨針	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄褐	ロクロナデ、底部を部分 的に手持ちへラケズリ、 底部回転系切り痕	ロクロナデ、底部内面に十 字の線刻	ロクロ土師器 底部内面に十字の 線刻

郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 瓦観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	胎土	特徴		色調	細甲き 2×2cm		焼成	側・端面の特徴	特徴		
							全長	中央厚 ※側(側 面部厚)			凸面	凹面		条	節				縞	縞系
27	14	15	-	SI02	SI002 13	平瓦	(8.2)	-	側(3.4)	202.2	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・雲母・骨 針・石英・長石	布目痕、摸骨痕	7.5YR5/6 明褐	5?	3	L	13	16	やや 甘い	桶巻づくり、光善寺焼系
29	15	36	-	SI08	SI008 6	平瓦	(4.6)	-	1.9	31.4	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・雲母・骨 針・石英・長石	布目痕、摸骨痕	10YR6/1 褐灰	-	-	-	14	20	良好	桶巻づくり、凸面布目瓦、 光善寺焼系
29	15	41	-	SI09	SI009 1一拵	埴	-	-	4.3	53.0	骨針・石英・長石	ナデ	5Y5/2 灰オリープ	-	-	-	12	11	やや 甘い	正方形埴?
29	15	46	-	SI10	SI010 15	丸瓦	(2.9)	-	-	54.6	白色粒子・赤褐色粒 子・石英・長石	へラナデ	10YR5/2 灰黄褐	-	-	-	-	-	良好	玉縁式、光善寺焼系
30	15	53	1	-	1トレ33	軒平	(5.1)	狭(6.5)	3.0	120.1	白色粒子・透明粒子・ 黒色粒子・石英・長石	ロクロナデ、直 線頸、横へラナ デ	5Y5/1 灰	-	-	13	18	良好	瓦当面に型抜き三 重弧文	桶巻づくり、型抜き三重弧文
30	15	54	1	-	1トレ7	丸瓦	(13.1)	-	1.8	250.1	雲母・石英・長石	ロクロナデ	5Y5/2 灰オリープ	-	-	17	17	良好	広端面へラナデ	形状不明
30	15	55	1	-	1トレ10	丸瓦	(7.2)	-	側(1.9)	79.7	白色粒子・透明粒子・ 赤褐色粒子・雲母・骨 針・石英・長石	ロクロナデ	5Y4/1 灰	-	-	12	15	やや 甘い	-	形状不明
30	15	56	1	-	1トレ44	平瓦	(16.6)	-	側(3.2)	666.8	白色粒子・透明粒子・ 骨針・石英・長石	細甲き	2.5Y5/2 暗灰黄	(L) 4 (R) 5	L+	5	19	22	良好	桶巻づくり、光善寺焼系 LとRを組み合わせた特殊な 細甲き具を使用
30	15	57	1	-	1トレ44	平瓦	(20.5)	狭(19.9)	2.7	1093.1	白色粒子・透明粒子・ 黒色粒子・石英・長石	細甲き	10YR7/6 明黄褐	4	3	L	13	16	良好	粘土板一枚作り
31	16	58	1	-	1トレ44	平瓦	(22.7)	-	2.0	999.2	白色粒子・透明粒子・ 黒色粒子・石英・長石	細甲き、右側面 側へラナデ	2.5Y6/2 灰黄	4	3	L	?	?	良好	粘土板一枚作り、2次的に被 熱し変形する、用途不明
31	16	59	1	-	1トレ9	平瓦	(6.5)	-	2.5	113.4	白色粒子・透明粒子・ 黒色粒子・石英・長石	布目痕、摸骨痕	5Y4/1 灰	-	-	12	14	良好	広端面へラナデ	桶巻づくり、凸面布目、光善 寺焼系
31	16	60	1	-	1トレ1一拵	平瓦	(3.8)	-	2.8	51.2	白色粒子・透明粒子・ 黒色粒子・石英・長石	ロクロナデ	2.5Y6/2 灰黄	-	-	14	16	良好	-	桶巻づくり、凸面布目、光善 寺焼系

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	胎土	特徴		色調	細叩き 2×2cm		焼成	側・端面の特徴	特徴		
							全長	中央厚 ※側(側 面部厚)			凸面	凹面		条	節				擦	経糸
31	16	61	1	-	1トレ1一拵	平瓦	(3.5)	2.1	292	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・黒色粒子・石英・長石	布目痕、撥骨痕	ロクロナデ	7.5YR4/2 灰褐	-	-	12	16	良好	桶巻づくり、凸面布目、光善寺廃寺系	
31	16	62	1	-	1トレ1一拵	平瓦	(5.0)	1.9	52.4	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・黒色粒子・石英・長石	布目痕、部分的にヘラナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	-	-	-	18	16	良好	桶巻づくり、凸面布目、光善寺廃寺系	
31	16	63	1	-	1トレ1一拵	平瓦	(3.7)	-	19.9	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・黒色粒子・石英・長石	-	-	2.5Y3/2 黒褐	-	-	-	-	凹凸両面にヘラケズリ、側面角頭状	側面角頭状、光善寺廃寺系	
31	16	64	1	-	1トレ3	平瓦	(8.1)	-	119.7	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・雲母・石英・長石	布目痕	布目痕	2.5Y7/4 浅黄	4	4	L	14	12	良好	粘土板一枚作り
31	16	65	1	-	1トレ37	平瓦	(12.7)	-	283.2	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・骨針・石英・長石	布目痕	布目痕、右側面に布端痕	10YR5/4 にぶい黄褐	4	3	L	24	24	良好	粘土板一枚作り
31	16	66	1	-	1トレ44	平瓦	(12.2)	-	471.9	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・石英・長石	布目痕	布目痕	10YR6/6 明黄褐	5	3	L	12	11	良好	粘土板一枚作り
31	16	67	1	-	1トレ1一拵	塼	(9.0)	2.4	139.4	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・骨針・石英・長石	布目痕、部分的にヘラナデ	布目痕、側面にヘラケズリ	2.5Y6/3 にぶい黄	-	-	-	16	16	良好	側面に布目痕、正方形場？
31	16	68	1	-	1トレ1一拵	塼	(6.5)	(4.0)	122.3	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・石英・長石	粗雑なヘラナデ	布目痕、側面に布端痕	2.5Y6/2 灰黄	-	-	-	13	14	良好	側面粗雑なヘラナデ 正方形場？
32	16	81	3	-	3トレ1一拵	丸瓦	(5.1)	-	87.2	白色粒子・透明粒子・雲母・石英・長石	ロクロナデ	布目痕	10YR6/4 にぶい黄橙	-	-	-	12	14	良好	狭端面ヘラナデ、左側面ヘラナデ、行基式
32	16	82	3	-	3トレ32	平瓦	(13.4)	-	862.0	白色粒子・透明粒子・骨針・石英・長石	布目痕	布目痕	2.5Y5/2 灰黄	4	3	L	13	10	やや甘い	粘土板一枚作り
32	16	83	3	-	3トレ1一拵	平瓦	(4.5)	-	49.1	白色粒子・透明粒子・黒色粒子・石英・長石	布目痕、撥骨痕	ロクロナデ	10YR4/1 糊灰	-	-	-	?	?	良好	桶巻づくり、凸面布目、光善寺廃寺系
32	16	84	3	-	3トレ1一拵	平瓦	(4.7)	-	48.7	白色粒子・透明粒子・石英・長石	細叩き	ヘラナデ	2.5Y7/4 浅黄	?	L	-	-	良好	粘土板一枚作り	
32	16	85	3	-	3トレサブ 1一拵	平瓦	(6.0)	-	133.1	白色粒子・透明粒子・黒色粒子・石英・長石	細叩き、狭端面側ヘラナデ	布目、撥骨痕	2.5Y5/2 暗灰黄	4	3	L	9	14	やや甘い	桶巻づくり、凸面布目、光善寺廃寺系

郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 石製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	部位	寸法 cm		重量 g	色調	備考
								長さ	幅			
30	15	52	1	-	1トレ1一拵	貝椀穴泥岩	-	-	-	3.3	7.5Y7/1 灰白	被熱痕跡あり

郡本遺跡群(第29次)・市原城跡 鉄製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	部位	寸法 cm		重量 g	備考
								長さ	幅		
28	14	29	-	S105	S1005 16	鉄鍔	鍔身部～柄部 (完形)	全長 3.9 柄長 1.4	柄幅 0.6	柄厚 0.4	5.3 鋭通し？
29	15	42	-	S109	S1009 2	鉄鍔	鍔身部～柄部 (完形)	全長 7.6 頸長 1.7 茎長 2.4	頸厚	茎厚	24.6 雁股

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	部位	寸法 cm		重量 g	備考	
								長さ	幅		厚さ	備考
29	15	43	-	SI09	SI009 1-1 拵	-	-	-	-	9.9	粒状滓	
31	16	69	1	-	1トレ1-1 拵	椀型滓	-	-	-	194.9	椀形滓、磁着あり	
32	16	86	3	-	3トレ27	刀子 刀身~茎 (刀身折れ)	全長(100) 刀身長(6.6) 茎長 3.4	刃幅 1.0~1.7 茎幅 1.0~0.6	0.25	15.6	鉄製	
32	16	87	3	-	3トレ1-1 拵	小型碗	-	-	-	6.1	青銅製	

稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm		重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高				底径	最大幅	外面	内面	
36	17	1	-	SD01	セ 599 SD001-13	土師器	壺?	胴部	小片	-	-	17.9	良好	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・骨針・石英・長石	10YR1.7/1 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	ハラナデ	ハラナデ	古墳時代?
36	17	2	-	SD01	セ 599 SD001 1-1 拵	緑釉陶器	皿	底部	小片	-	-	2.8	良好	白色粒子・石英・長石	7.5Y6/3 オリーブ黄	7.5Y6/3 オリーブ黄	ロクロナデ、底部台貼付、緑釉	ロクロナデ、緑釉	東海産
36	17	3	-	SD01	セ 599 SD001 12	灰釉陶器	瓶壺類	底部	小片	-	8.2?	35.0	良好	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・石英・長石	10YR4/6 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	ロクロナデ、底部台貼付、自然釉	ロクロナデ、底部台貼付、自然釉	原始灰釉、猿投窯
36	17	4	-	SD01	セ 599 SD001 10	須恵器	甕	胴部	小片	-	-	53.2	良好	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・石英・長石	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	平行叩き、鉄釉	ハラナデ	猿投窯
36	17	5	-	SD01	セ 599 SD001 3	中世陶器	片口鉢 II類	底部	小片	-	-	62.7	良好	白色粒子・茶褐色粒子・石英・長石	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	ロクロナデ、ヘラケズリ、鉄釉	ロクロナデ、自然釉	常滑産
36	17	9	-	SD02	セ 599 SD002 7	灰釉陶器	碗	口縁部	小片	-	-	6.8	良好	白色粒子・石英・長石	7.5Y6/2 灰オリーブ	7.5Y6/2 灰オリーブ	ロクロナデ、部分的に灰釉	ロクロナデ、部分的に灰釉	猿投窯
36	17	11	1	-	セ 599 1トレ3	灰釉陶器	碗	口縁部	小片	-	-	4.1	良好	白色粒子・黒色粒子・石英・長石	2.5Y6/3 灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄	ロクロナデ、部分的に灰釉	ロクロナデ、部分的に灰釉	猿投窯
36	17	12	1	-	セ 599 1トレ4	灰釉陶器	瓶壺類	頸部	小片	-	-	22.1	良好	白色粒子・黒色粒子・石英・長石	5YR7/2 灰白	5YR7/2 灰白	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	風輪技法
36	17	13	1	-	セ 599 1トレ P5 2	在土器	鉢?	底部	小片	-	-	113.2	甘い	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・骨針・石英・長石	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	底部に粗雑な手持ちヘラケズリ	底部横方向ナデ	中世
36	17	16	3	-	セ 599 3トレ1-1 拵	土師器	壺?	頸部	小片	-	-	29.4	良好	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・骨針・石英・長石	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ハケメ、ハラナデ	頸部上方入念にヘラミガキ、下方入念にヘラナデ	古墳時代?
36	17	17	4	-	セ 599 5トレ1-1 拵	在土器 カワラケ	小皿	底部	小片	-	(1.2)	8.7	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤褐色粒子・骨針・石英・長石	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ロクロナデ	ロクロナデ、底部横ナデ	中世

稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 瓦観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	胎土	特徴		色調	細叩き 2×2cm			焼成	特徴		
							全長	広・狭端 幅			中央厚 ※側(側 面部厚)	凸面		凹面	糸	擦			布目 2×2cm	
36	17	6	-	SD01	セ 599 SD001 2	平瓦	(7.1)	-	2.4	白色粒子・透明粒子・黒色粒子・骨針・石英・長石	凸面	凹面	2.5Y5/1 黄灰	4	3	L	?	良好	粘土板一枚づくり	
36	17	10	-	P101	セ 599 5トレ P1 2	丸瓦	(14.7)	(9.4)	2.3	白色粒子・茶褐色粒子・石英・長石	凸面	凹面	10YR5/2 灰黄褐	-	-	-	18	14	良好	広端面ヘラナデ 形態不明

稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 鉄製品観察表

挿図 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	部位		寸法 cm		重量 g	備考	
						口徑	器高	長さ	幅		厚さ	外面
36	17	7	-	SD01 セ 599 SD001 17	釘	頭～先端 (完形)	7.7	0.8	0.7	10.0	頭の部分が潰れる、先端部やや湾曲する	
36	17	8	-	SD01 セ 599 SD001 5	鉄滓	-	-	-	-	21.8	塊形滓	
36	17	14	1	-	セ 599 1 トレ 8	銅銭	2.5	2.5	0.1	3.3	寛永通宝	
36	17	15	1	-	セ 599 1 トレ 1 一括	銅銭	2.5	2.5	0.1	3.3	寛永通宝	

高原遺跡 (第 2 次) 土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm		重量 g	焼成	胎土		色調		特徴	備考	
									口徑	器高			底徑	最大幅	口徑	底徑			外面
40	17	1	-	SD01 セ 600 2 トレ 2 一括	土師器	甕	口縁部	小片	-	-	15.8	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)・ 石英・長石	10YR6/4	10YR6/4	横へらナデ	横へらナデ	古墳時代後期?	
40	17	2	-	SD02 セ 600 3 トレ 30 一括	土師器	蓋	口縁部	小片	-	-	5.7	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)・ 石英・長石	5YR5/6	5YR5/6	ロクロナデ	ロクロナデ	古墳時代後期? 古クロ土師器	
40	17	3	-	SD02 セ 600 3 トレ 14・22・3 トレ 1 一括	土師器	甕	口縁部～ 胴部	小片	20.0?	(9.2)	115.8	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)・ 骨針・石英・長石	7.5YR6/6	7.5YR6/6	口縁部横ナデ、胴部横ナデ	口縁部横ナデ、胴部まぼら に横へらミガキ	鬼高式?	
40	17	4	-	SD02 セ 600 3 トレ 2 一括	土師器	甕	口縁部	小片	-	-	6.6	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)・ 石英・長石	2.5YR4/4	2.5YR4/3	口縁部横ナデ	口縁部横ナデ		
40	17	5	-	SD02 セ 600 3 トレ 24	須恵器	蓋	口縁部	小片	15.0?	(0.9)	4.0	良好	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	5Y6/1	5Y6/2	ロクロナデ	ロクロナデ	奈良時代?	
40	17	6	-	SD02 セ 600 3 トレ 16	須恵器	瓶壺類	頸部～ 胴部	小片	-	-	40.9	良好	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	7.5Y5/1	7.5Y4/1	ロクロナデ	ロクロナデ		
40	17	7	-	SD02 セ 600 3 トレ 2 一括	須恵器	甕	胴部	小片	-	-	28.8	良好	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	10Y4/1	10Y4/1	平行叩き、横へらナデ	横へらナデ		
40	17	9	-	SD03 セ 600 4 トレ 20 一括	土師器	蓋杯	口縁部～ 体部	10	10.7?	2.15	6.4	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)	10YR5/3	10YR5/3	口縁部ロクロナデ、体部横 手持ちへらケズリ	口縁部 入念に横へらミガキ	鬼高式	
40	17	10	-	SD03 セ 600 4 トレ 18	土師器	杯	口縁部～ 体部	小片	-	-	9.3	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)	7.5YR4/1	7.5YR4/2	口縁部横ナデ、体部横へら ケズリ	横へらミガキ	古墳時代後期?	
40	17	11	-	SD03 セ 600 4 トレ 20 一括	土師器	壺	口縁部	小片	-	-	5.9	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 黒色粒子	7.5YR5/4	7.5YR5/4	横へらナデ	横へらナデ	古墳時代後期?	
40	17	12	-	SD03 セ 600 4 トレ 18	須恵器	杯	口縁部	小片	-	-	1.5	良好	白色粒子・白雲母多量に 含む	5Y6/1	5Y6/2	ロクロナデ	ロクロナデ	新治産	
40	17	13	-	SD03 セ 600 4 トレ 18	須恵器	甕	胴部	小片	-	-	4.2	良好	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子	5YR5/1	5YR5/2	平行叩き	当て具痕あり		
40	17	15	-	SK02 セ 600 4 トレ 22 一括	土師器	杯	口縁部～ 体部	小片	-	-	3.0	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・黒 色粒子	10YR4/3	10YR5/4	ロクロナデ、体部横手持ち へらケズリ	横へらナデ	鬼高式	
40	17	16	-	SK02 セ 600 4 トレ 22 一括	土師器	甕	口縁部	小片	-	-	8.5	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)	5YR6/6	5YR6/6	口唇部横へらナデ、口縁部 下横へらケズリ、赤彩	横ナデ、赤彩	古墳時代後期?	
40	17	18	-	PH05 セ 600 2 トレ 7 一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	30	8.4?	5.7	7.5?	10.0?	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)・ 骨針・石英・長石	10YR4/2	10YR4/2	粗いへらケズリ	粗いへらナデ	非ロクロ整形、鬼 高式
40	17	19	-	PH07 セ 600 2 トレ 9 一括	土師器	杯	口縁部～ 底部	小片	16.4?	(4.5)	29.0	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)・ 骨針・石英・長石	7.5YR5/6	7.5YR5/6	ロクロナデ、体部下横手持 ちへらケズリ	入念にへらミガキ	鬼高式	
40	17	22	3	-	土師器	壺	口縁部	小片	-	-	4.8	良好	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子 (シヤモット)・ 骨針・石英・長石	5YR6/6	5YR5/4	入念にへらミガキ	入念にへらミガキ	古墳時代後期?	

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺構 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
											口径	器高	底径				最大幅	長さ	幅	厚さ	
40	17	24	4	-	セ600 4トレ1一拵		土師器	裏	口縁部	小片	-	-	-	22.5	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 石英・長石	7.5Y3/3 暗褐	7.5Y4/3 褐	横へラナデ 孔(直径3mm)	横へラナデ	焼成前に貫通孔

島原遺跡 (第2次) 土製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	部位	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	焼成	胎土	色調	備考
											長さ	幅	厚さ					
40	17	14	-	SI03	セ600 4トレ10	土甌	-	-	-	4	0.8	0.8	2.8	白色粒子・透明粒子・ 石英・長石	7.5YR5/6 明褐	貫通孔0.25cm		
40	17	20	2	-	セ600 2トレ1一拵	土甌	-	-	2.3	0.7	0.7	1.3	白色粒子・透明粒子・ 石英・長石	7.5YR5/6 明褐	貫通孔0.3cm			
40	17	23	3	-	セ600 3トレ1一拵	置きカマド	外縁部	-	-	-	-	101.9	白色粒子・透明粒子・ 黒色粒子・石英・長石	5YR5/4 にぶい赤褐	鬼高式並行?			

島原遺跡 (第2次) 鉄製品観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	部位	器種	部位	遺存	寸法 cm			重量 g	備考
											長さ	幅	厚さ		
40	17	8	-	SI02	セ600 SI001.3トレ19	鉄鏝	-	-	-	-	-	-	163.6	桶形鏝、磁着あり	
40	17	17	-	SK04	セ600 SI001.4トレ4	鉄滓	-	-	-	-	-	-	7.2	粒状滓、磁着あり	
40	17	21	2	-	セ600 2トレ1一拵	刀子	茎	-	-	-	-	茎長(4.1)	茎厚0.6	5.9 鉄製	

能満遺跡群 (上入塚地点) 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	焼成	胎土	寸法 cm		重量 g	色調	特徴		備考
												口径	器高			底径	最大幅	
44	18	1	-	SD01	セ602 SD001.2	灰軸陶器	瓶壺類	胴部	小片	良好	白色粒子・透明粒子・石 英・長石	10Y5/3 10Y5/3 にぶい黄橙	10Y5/3	22.2	10Y5/3 にぶい黄橙	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ	
44	18	2	-	SD01	セ602 SD001.3	在地土器 カワラケ	小皿	底部	小片	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 石英・長石	5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	13.9	2.5YR6/6 橙	底部回転糸切り痕	不明瞭なナデ	14 世紀頃か?
44	18	3	-	SD01	セ602 SD001.1一拵	在地土器 カワラケ	小皿	底部	小片	やや 甘い	白色粒子・透明粒子・赤 褐色粒子(シャモット)・ 石英・長石	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/4 浅黄橙	4.9	7.5YR7/4 にぶい橙	底部回転糸切り痕	不明瞭なナデ	14 世紀頃か?

仙台原遺跡 土器観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	焼成	胎土	寸法 cm		重量 g	色調	特徴		備考
												口径	器高			底径	最大幅	
53	18	1	2	-	2トレ1一拵	土師器	裏	胴部	小片	やや 甘い	白色細粒子少量含む	5YR3/3 暗赤褐	5YR4/6 赤褐	10.3	5YR3/3 暗赤褐	ハケメ	へラナデ	中台~草刈式
53	18	2	3	-	3トレ8一拵	在地土器 カワラケ	小皿	口縁部~ 底部	50	7.9?	1.8	4.5?	26.9	2.5YR5/6 明赤褐	骨針、白色細粒子少量 含む	ロクロナデ、底部回転糸切 り痕、底部に網状の圧痕	横方向指ナデ	15 世紀後半?
53	18	3	3	-	3トレ8一拵	在地土器 カワラケ	小皿	口縁部~ 底部	40	6.5?	1.5	4.2?	13.3	7.5YR6/6 橙	骨針、赤色細粒子(シャ モット)少量含む	ロクロナデ、底部回転糸切 り痕	底部ロクロナデ	15 世紀後半?
53	18	4	3	-	3トレ8一拵	在地土器 カワラケ	小皿	口縁部~ 底部	小片	(1.4)	-	-	6.8	7.5YR7/6 橙	骨針少量含む	ロクロナデ	横方向指ナデ	15 世紀後半?
53	18	5	3	-	3トレ1一拵	中世土器	内耳鈿	口縁部	小片	やや 甘い	赤色細粒子、黒雲母少 量含む	7.5YR6/4 にぶい橙	67.0	7.5YR6/4 にぶい橙	指圧によるナデ調整	内耳鈿を粘土による貼り付 け	在土器、土師質	

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法			重量 g	焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径				最大幅	外面	内面	外面	
53	18	6	3	-	3トレ9一括	中世陶器	志野丸皿	口縁部	小片	(2.0)	-	4.3	良好	7.5YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	黒色細粒子微量含む	ロクロナデ、長石釉	ロクロナデ、長石釉	瀬戸・美濃系陶器 灰釉 大窯 4	
53	18	7	3	-	3トレ1一括	中世陶器	片口鉢Ⅱ類	胴部	小片	-	-	76.4	良好	2.5YR5/6 明赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	白色細粒子・骨針微量含む	ナデ調整、ヘラ状工具痕あり	ヘラナデ	常滑産	
53	18	8	6	-	6トレ1一括	近世陶器	徳利	胴部	小片	-	-	12.5	良好	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	白色細粒子多く含む	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、自然釉	瀬戸・美濃系	
53	18	9	7	-	7トレ2	中世陶器	片口鉢Ⅱ類	胴部	小片	-	-	75.5	良好	2.5Y5/4 にぶい赤褐	2.5Y5/4 にぶい赤褐	白色細粒子微量含む	ヘラナデ	ヘラナデ、鉄釉	常滑産	
53	18	10	7	-	7トレ3	中世陶器	瓶子	胴部～ 底部	小片	-	8.2?	139.4	良好	5YR3/1 黒褐	2.5Y8/3 淡黄	黒色細粒子微量含む	ロクロナデ、底部台貼付、 鉄釉	回転ヘラナデ、自然釉	瀬戸・美濃系陶器 粗米形瓶子 胴部割れ口に漆痕 あり(修復痕か)	
53	18	11	8	-	8トレ2	弥生土器	壺	頸部	小片	-	-	26.1	やや 甘い	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/6 黄褐	白色細粒子少量含む	ヘラミガキ、赤彩、被熱痕 あり	ヘラナデ、被熱痕あり	宮ノ台式 被熱痕 あり	
53	18	12	8	-	8トレ1一括	中世陶器	甕	胴部～ 底部	小片	-	-	89.1	良好	10YR6/4 にぶい黄	10YR6/4 灰白	黒色細粒子微量含む	縦ヘラナデ	ナデ	常滑産	
53	18	13	10	-	10トレ1 一括	須恵器	平瓶	頸部～ 胴部	小片	-	-	30.9	良好	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	黒色細粒子含む	ロクロナデ、ヘラ記号あり	ロクロナデ	7世紀中葉	
53	18	14	12	-	12トレ1 一括	中世陶器	直縁 大皿	口縁部	小片	-	-	11.4	良好	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/3 浅黄	黒色細粒子微量含む	ロクロナデ、灰釉(ハケ塗 り)	ロクロナデ、灰釉(ハケ塗 り)	瀬戸・美濃系陶器 古瀬戸後円鉢式	
53	18	16	13	-	13トレ1 一括	中世土器	羽釜	口縁部の一 部	小片	-	-	7.7	やや 甘い	10YR3/3 暗褐	2.5Y7/2 灰黄	黒色細粒子含む	横ハケメ	横ヘラナデ	南伊勢系土器	
53	18	20	15	-	15トレ1 一括	中世土器	羽釜	口縁部の一 部	小片	-	-	19.4	やや 甘い	10YR7/4 にぶい黄	2.5Y8/3 淡黄	黒色細粒子微量含む	横ハケメ	横ヘラナデ	南伊勢系土器	

仙台原遺跡 瓦観察表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	トシ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm			重量 g	胎土	特徴		色調	細叩き目 2×2cm		焼成	備考	
							全長	広・夾端 幅	中央厚 ※側(側 面部厚)			凸面	凹面		条	節			縷糸
53	18	15	12	-	12トレ1	軒瓦	(6.3)	(5.8)	2.1	204.8	黒色細粒子少量含む	ヘラミガキ	2.5Y4/2 暗灰黄	-	-	-	良好	ケズリ	近世瓦、表面炭素吸着
53	18	17	13	-	13トレ2	軒瓦	(6.2)	(12.4)	1.6	249.5	黒色細粒子少量含む	ヘラミガキ	2.5Y4/1 黄灰	-	-	-	良好	破損により不明	近世瓦、表面炭素吸着
53	18	18	13	-	13トレ2	棧瓦	(11.9)	(10.0)	(1.5)	254.0	雲母含む	ヘラミガキ	10YR4/1 褐灰	-	-	-	良好	ケズリ	近世瓦
53	18	19	13	-	13トレ2	丸瓦	(6.4)	(7.6)	(1.9)	157.1	赤色細粒子(シャモツ ト状)含む	ヘラミガキ	7.5YR4/1 褐灰	-	-	-	良好	ヘラケズリ	近世瓦、表面炭素吸着



北六原遺跡(確認調査) 調査前状況(北から)



北六原遺跡(確認調査) 1トレンチ(南東から)



北六原遺跡(確認調査) 2トレンチ(北から)



北六原遺跡(本調査) 調査前状況(東から)



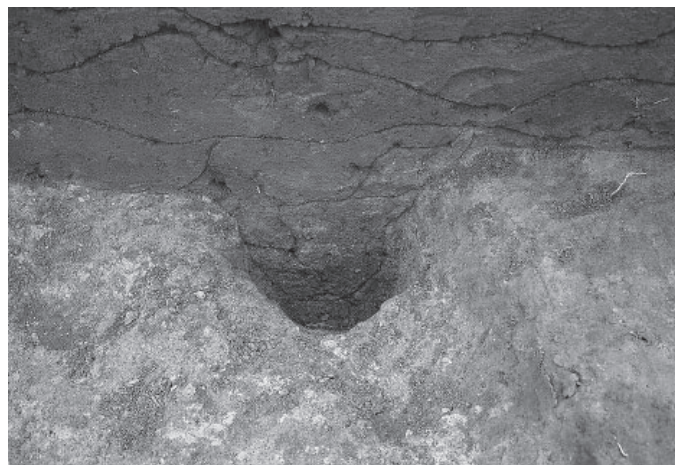
北六原遺跡(本調査) 完掘(東から)



北六原遺跡(本調査) 作業状況(東から)



北六原遺跡(本調査) SI01 完掘(西から)



北六原遺跡(本調査) SI01-P4 半裁(南から)



北六原遺跡(本調査) SI02 完掘(西から)



北六原遺跡(本調査) SI02 遺物出土(北西から)



北六原遺跡(本調査) SX01 完掘(南西から)



北六原遺跡(本調査) SK01 完掘(南から)



北六原遺跡(本調査) SK02 完掘(南東から)



北六原遺跡(本調査) SK03 半裁(南東から)



北六原遺跡(本調査) Pit01 半裁(北から)



北六原遺跡(本調査) Pit05 半裁(南西から)



中台遺跡 (第5次) 調査前状況 (北東から)



中台遺跡 (第5次) 作業状況 (南から)



中台遺跡 (第5次) 遺構検出 (北から)



中台遺跡 (第5次) SD01 完掘 (北から)



中台遺跡 (第5次) SD02 完掘 (南西から)



中台遺跡 (第5次) SD03 半裁 (北から)



中台遺跡 (第5次) SD03 完掘 (南から)



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 調査前状況 (東から)



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 1 トレンチ (西から)



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 1 トレンチ基本層序 (西から)



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 2 トレンチ (南から)



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 3 トレンチ (南から)



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 3 トレンチ (西から)



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 3 トレンチ基本層序 (南から)



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI02 (西から)



稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 調査前状況 (北東から)



稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 1トレンチ (南から)



稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 2トレンチ (東から)



稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 2トレンチ基本層序 (南から)



稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 3トレンチ (西から)



稲荷台遺跡 (R 地点)・市原古道遺跡 4トレンチ (北から)



島原遺跡 (第 2 次) 調査前状況 (南東から)



島原遺跡 (第 2 次) 1トレンチ (南東から)



島原遺跡(第2次) 2トレンチ(南西から)



島原遺跡(第2次) 2トレンチ(南東から)



島原遺跡(第2次) 3トレンチ(北東から)



島原遺跡(第2次) 4トレンチ(南東から)



島原遺跡(第2次) 4トレンチ(北西から)



島原遺跡(第2次) 4トレンチ(南西から)



能満遺跡群(上人塚地点) 調査前状況(南から)



能満遺跡群(上人塚地点) 1トレンチ(南から)



能満遺跡群（上人塚地点） 2トレンチ（北から）



能満遺跡群（上人塚地点） 3トレンチ（西から）



能満遺跡群（上人塚地点） 8トレンチ（西から）



能満遺跡群（上人塚地点） 9トレンチ（北から）



能満遺跡群（上人塚地点） 10トレンチ（西から）



能満遺跡群（上人塚地点） 11トレンチ（北から）



仙台原遺跡 調査前状況（東から）



仙台原遺跡 1トレンチ（北西から）



仙台原遺跡 2トレンチ (北から)



仙台原遺跡 3トレンチ (南東から)



仙台原遺跡 4トレンチ (北西から)



仙台原遺跡 5トレンチ (北から)



仙台原遺跡 6トレンチ (南西から)



仙台原遺跡 7トレンチ (南西から)



仙台原遺跡 8トレンチ (南から)



仙台原遺跡 10トレンチ (南西から)



仙台原遺跡 9トレンチ (北東から)



仙台原遺跡 11トレンチ (南西から)



仙台原遺跡 12トレンチ (北から)



仙台原遺跡 13トレンチ (南西から)



仙台原遺跡 14トレンチ (東から)



仙台原遺跡 15トレンチ (東から)



仙台原遺跡 16トレンチ (南東から)



北六原遺跡 (確認調査) 1 トレンチ-1



北六原遺跡 (本調査) SI02-8



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-6



北六原遺跡 (確認調査) 1 トレンチ-2



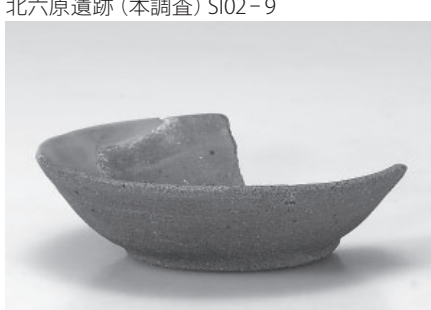
北六原遺跡 (本調査) SI02-9



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-7



北六原遺跡 (確認調査) SX02-7



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-1



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-8



北六原遺跡 (本調査) SI01-1



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-3



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-9



北六原遺跡 (本調査) SI02-6



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-4



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-10



北六原遺跡 (本調査) SI02-7



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-5



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI01-11



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI02-12



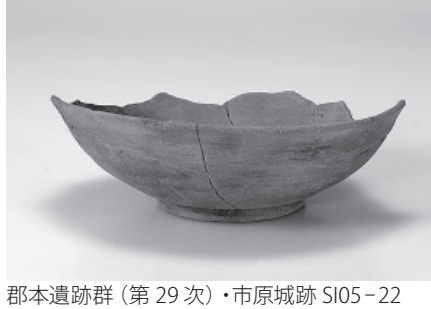
郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-21



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI08-34



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI02-13



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-22



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI09-37



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI03-16



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-23



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI09-38



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-18



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-24



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 1トレンチ-48



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-19



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-25



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 3トレンチ-72



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-20



郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 SI05-27

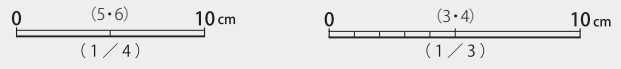


郡本遺跡群 (第 29 次) ・市原城跡 3トレンチ-77

北六原遺跡 (確認調査)

1トレンチ

SX02

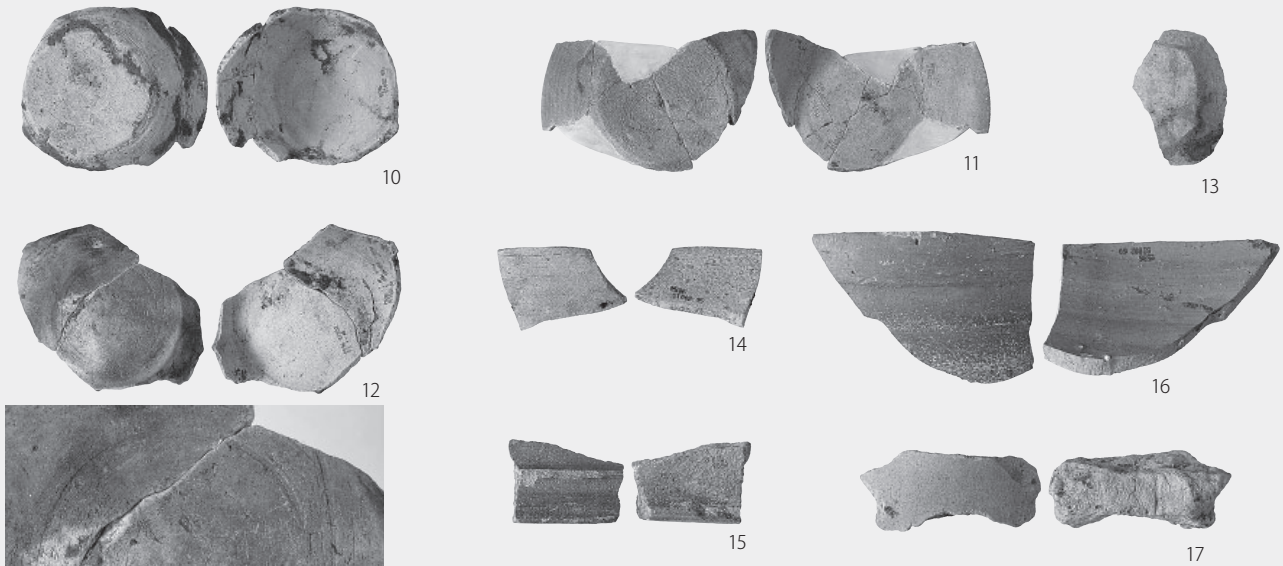


北六原遺跡 (本調査)

SI01



SI02

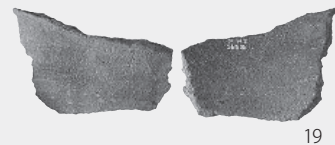


12 墨書

SK01



SK04



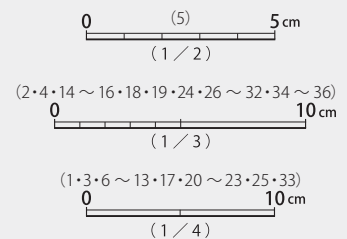
Pit01

Pit03

SX01

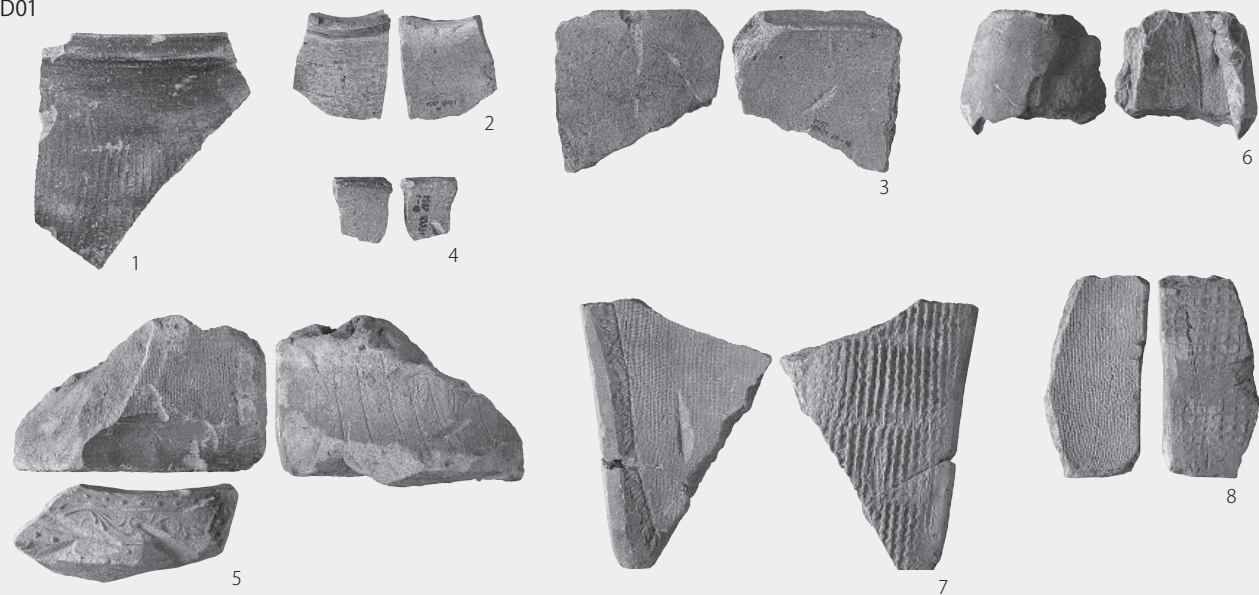


遺構外

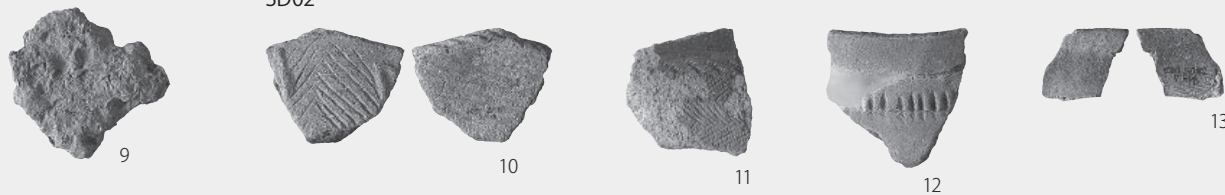


中台遺跡 (第5次)

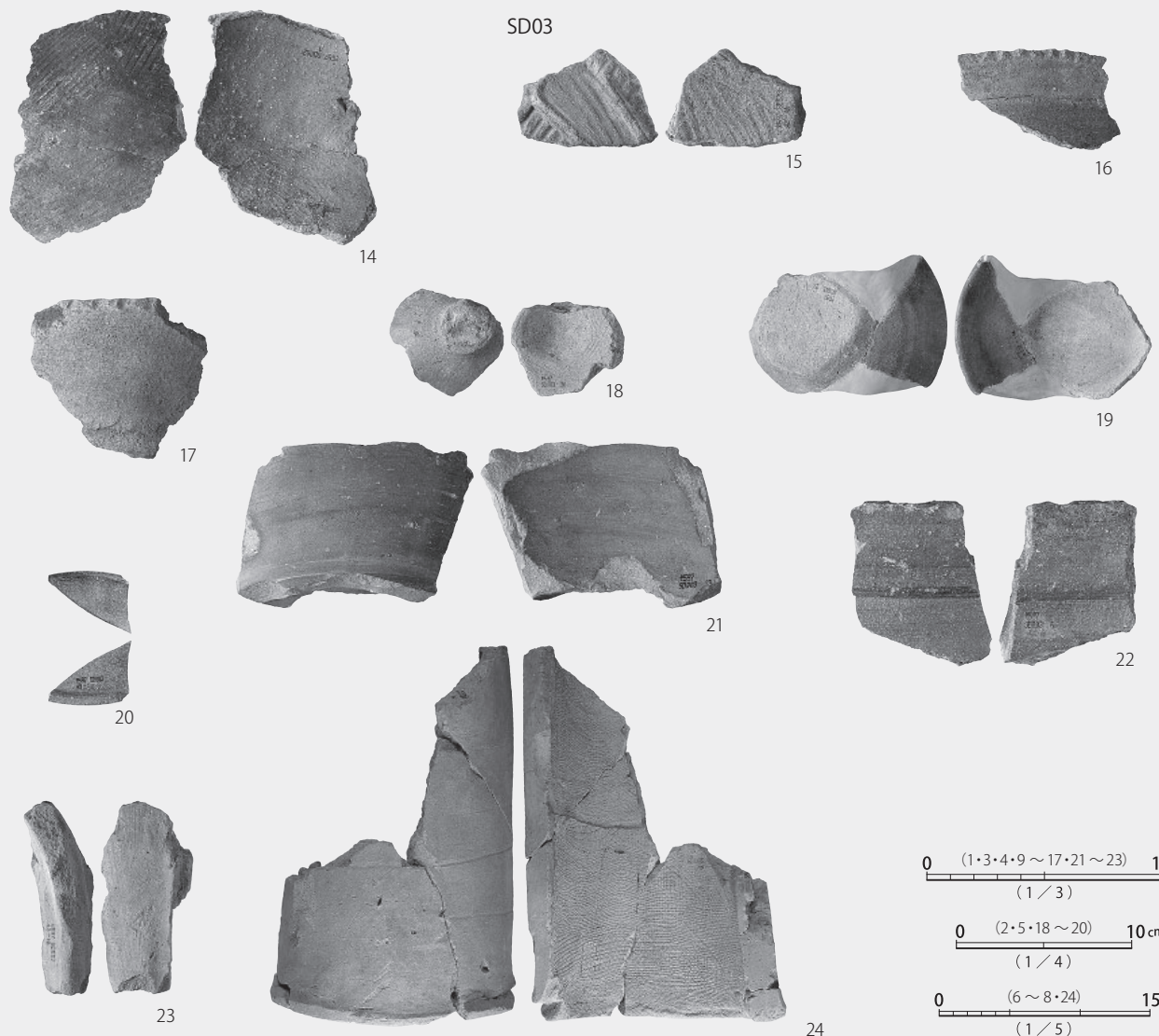
SD01



SD02



SD03



0 (1・3・4・9 ~ 17・21 ~ 23) 10cm
(1/3)

0 (2・5・18 ~ 20) 10cm
(1/4)

0 (6 ~ 8・24) 15cm
(1/5)

SD03



25



26



27



28



29



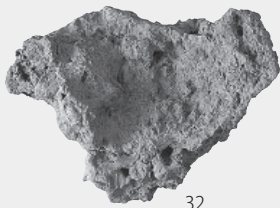
30



31

Pit01

遺構外



32



33



34



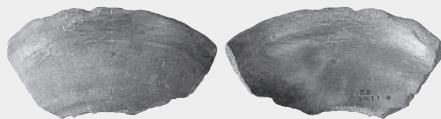
35

郡本遺跡群 (第29次) ・市原城跡

SI01

SI02

SI04



2



14



15



17

SI05



26

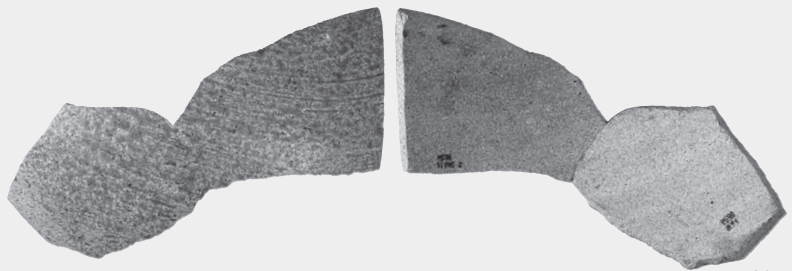


29

SI06



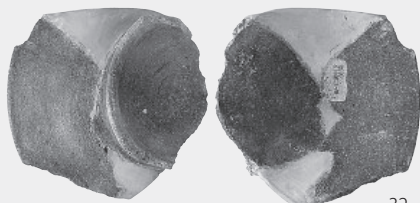
30



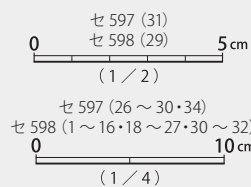
28



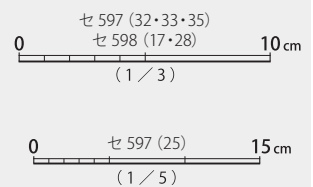
31



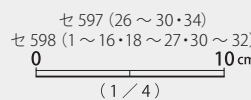
32



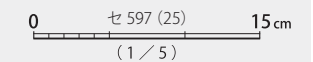
セ 597 (31)
セ 598 (29)
5 0 5 cm
(1/2)



セ 597 (32・33・35)
セ 598 (17・28)
0 10 cm
(1/3)



セ 597 (26~30・34)
セ 598 (1~16・18~27・30~32)
0 10 cm
(1/4)



セ 597 (25)
0 15 cm
(1/5)

SI07



33

SI08

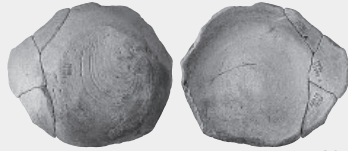


35

SI09



36



39



40



41



42



43

SI10



44



45

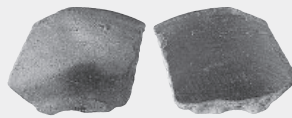


46

1トレンチ



47



49



50



51



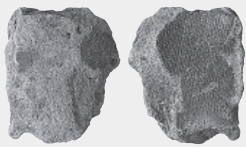
52



53



54



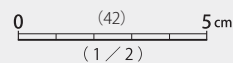
55



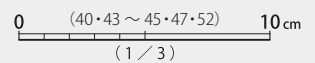
56



57

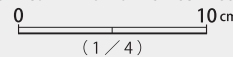


(1/2)

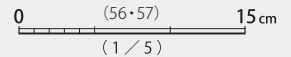


(1/3)

(33 ~ 39・41・46・48 ~ 51・53 ~ 55)

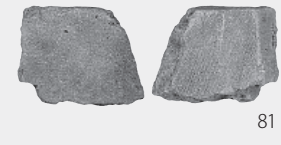
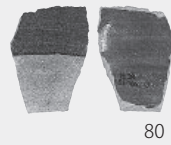
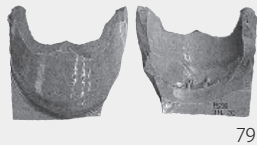
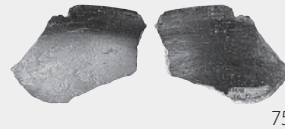
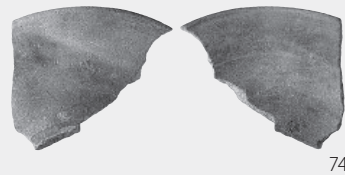
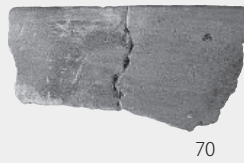
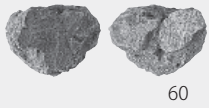
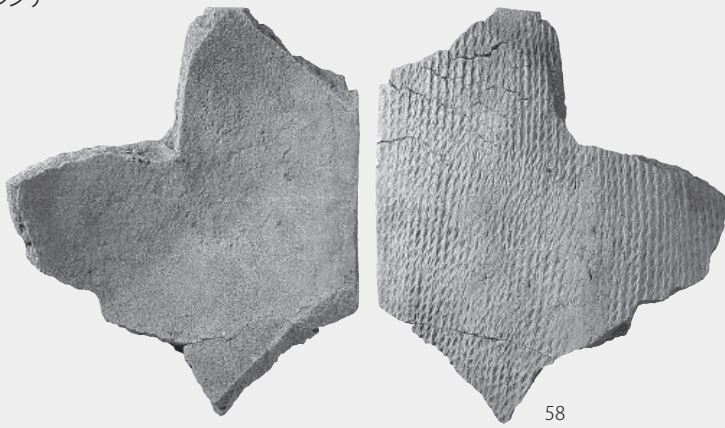


(1/4)

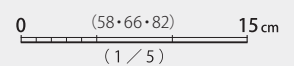
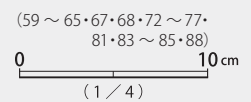
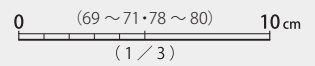
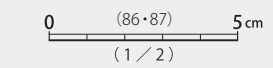


(1/5)

1トレンチ

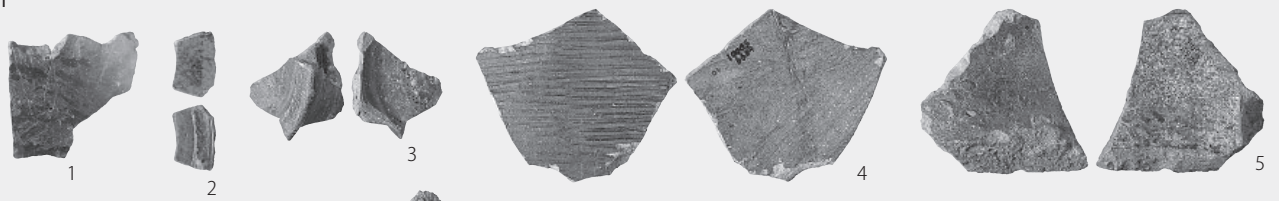


遺構外



稲荷台遺跡 (R地点)・市原古道遺跡

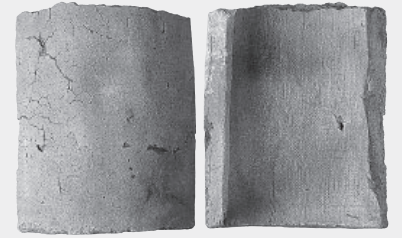
SD01



SD02

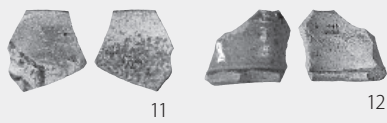


Pit01



10

1トレンチ



11



13



14

15

3トレンチ

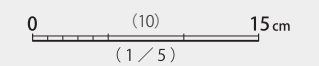
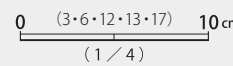
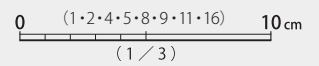
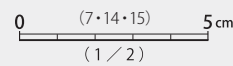


16

4トレンチ



17



島原遺跡 (第2次)

SI01



1

SI02



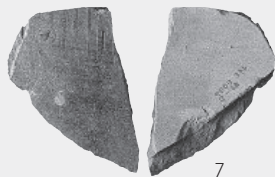
2



4

5

6



7



8

SI03



9



10



11



12



13



14

SK02



15

16

SK04



17

Pit05



18

19

Pit07



2トレンチ



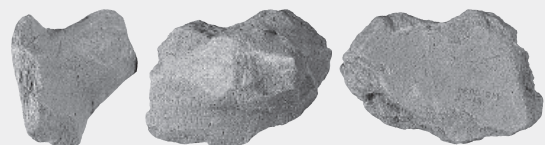
20

21

3トレンチ



22

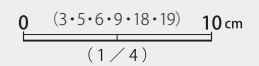
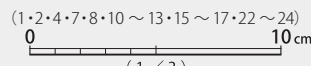
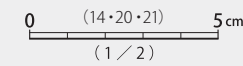


23

4トレンチ

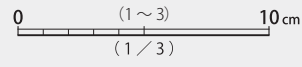


24



能満遺跡群（上人塚地点）

SD01



仙台原遺跡

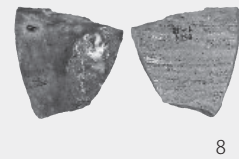
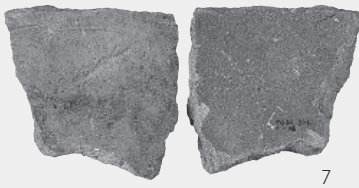
2トレンチ



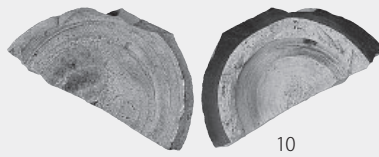
3トレンチ



6トレンチ



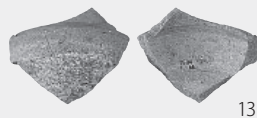
7トレンチ



8トレンチ



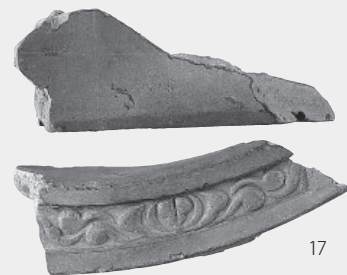
10トレンチ



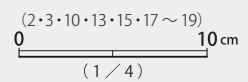
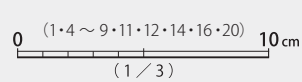
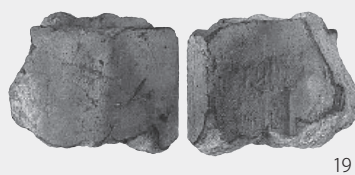
12トレンチ



13トレンチ



15トレンチ



報告書抄録

ふりがな	れいわ4ねんどいちほらしなしいせきはつちょうさほうこく							
書名	令和4年度市原市内遺跡発掘調査報告							
副書名	北六原遺跡、中台遺跡(第5次)、郡本遺跡群(第29次)・市原城跡、稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡、島原遺跡(第2次)、能満遺跡群(上人塚地点)、仙台原遺跡							
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第60集							
編著者名	鈴木宏和・川上知哉							
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2023年(令和5年)3月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
きたろくほらいせき 北六原遺跡	ちぼけんいちほらしやまくらあざきたろくほら 千葉県市原市山倉字北六原201番地の一部	12219	611	35° 29′ 12″	140° 07′ 20″	20220217 ～ 20220301	26.2㎡/262.15㎡ (確認調査)	個人住宅建設
	ちぼけんいちほらしやまくらあざきたろくほら 千葉県市原市山倉字北六原201番地の一部	12219	611	35° 29′ 12″	140° 07′ 20″	20220414 ～ 20220428	65㎡ (本調査)	個人住宅建設
なかでいせき(だい5じ) 中台遺跡(第5次)	ちぼけんいちほらしそうじゃ 千葉県市原市惣社4丁目11番地28	12219	745	35° 30′ 02″	140° 06′ 22″	20220509 ～ 20220531	70㎡ (本調査)	個人住宅建設
こおりもといせきぐん(だい29じ) 郡本遺跡群(第29次)・ いちほらじょうあと 市原城跡	ちぼけんいちほらしいちほら 千葉県市原市市原129番地2・ 128番地2	12219	793 ・ 797	35° 31′ 23″	140° 07′ 26″	20220608 ～ 20220628	66.1㎡/661㎡ (確認調査)	宅地造成
いなりだいいせき(あーるちてん) 稲荷台遺跡(R地点)・ いちほらこどういせき 市原古道遺跡	ちぼけんいちほらしふじい 千葉県市原市藤井1丁目193番 地4	12219	396 ・ 792	35° 30′ 06″	140° 07′ 39″	20220801 ～ 20220812	140.683㎡ /1,406.83㎡ (確認調査)	駐車場造成
しまぼらいせき(だい2じ) 島原遺跡(第2次)	ちぼけんいちほらししいづあざしまぼら 千葉県市原市椎津字島原1326番 地1	12219	304	35° 28′ 05″	140° 01′ 53″	20220901 ～ 20220916	84.2975㎡ /842.975㎡ (確認調査)	事務所建設
のうまいせきぐん(じょうにんづちてん) 能満遺跡群(上人塚地点)	ちぼけんいちほらしのうまいせきぐんじょうにんづか 千葉県市原市能満字上人塚1577番 地8・10・11・21	12219	799	35° 30′ 31″	140° 07′ 53″	20221011 ～ 20221028	179.7㎡/1,797㎡ (確認調査)	駐車場造成
せんだいぼらいせき 仙台原遺跡	ちぼけんいちほらしきくまあざわかみや 千葉県市原市菊間字若宮3434番 地1、3434番地2、3434番地3、 3435番地、3436番地、3437 番地、3438番地、3439番地、 3440番地、3462番地、3463 番地	12219	909	35° 31′ 57″	140° 08′ 05″	20221110 ～ 20221209	500.7891㎡ /5,007.891㎡ (確認調査)	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
北六原遺跡	包蔵地	奈良・平安時代、 中世		奈良・平安時代井戸状遺構 2基・土坑1基、平安時代 竪穴建物跡2棟、中世土坑 1基		奈良・平安時代土師器・ 須恵器・灰釉陶器		平安時代(9世紀前半)の 竪穴建物跡、奈良・平安時 代の井戸状遺構が検出さ れた。
				奈良・平安時代土坑2基、 平安時代竪穴建物跡2棟・ 井戸状遺構1基・土坑6基、 中世土坑2基		奈良・平安時代土師器・ 須恵器・灰釉陶器・瓦・ 鉄製品、中世土器、 近世土器		平安時代(9世紀前半)の 竪穴建物跡、平安時代の 井戸状遺構、中世土坑が 検出された。
中台遺跡(第5次)	包蔵地、集落跡	弥生時代、 古墳時代、 中世、 近世		弥生時代竪穴建物跡1棟、 古墳時代溝1条、中世道路 状遺構1条・溝1条、中世 ～近世土坑3基		縄文土器、弥生土器、 古墳時代土師器、平安 時代土師器・須恵器・ 瓦・土製品・鉄製品、中 世土器・陶器・鉄製品、 近世土器		弥生時代末～古墳時代前 期(中台式～草刈1式)の 溝が1条検出された。ま た、中世の道路状遺構、 溝を検出した。
郡本遺跡群(第29次)・ 市原城跡	包蔵地、集落跡、 官衙跡、城館跡	平安時代、 中世、 近世		平安時代竪穴建物跡10棟・ 土坑1基、中世～近世土坑 11基		弥生土器、平安時代土 器・土師器・須恵器・灰 釉陶器・白磁・瓦・石製 品・鉄製品、近世陶器		平安時代(11世紀後半) の竪穴建物跡が多数検出 された。またその上層に 11世紀後半～12世紀の 整地層、中世～近世の整 地層が確認された。

稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡	包蔵地	平安時代、中世、近世	平安時代土坑2基、平安時代～中世道路1条、近世溝1条・土坑4基	古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器・須恵器・灰釉陶器、平安時代緑釉陶器・鉄製品、中世土器・陶器、近世土器・陶器・銭貨	南北方向に延びる道路を検出した。また、近世溝・土坑を検出した。
島原遺跡(第2次)	包蔵地	古墳時代、中世	古墳時代竪穴建物跡2棟・土坑13基、奈良時代竪穴建物跡1基、中世土坑1基	縄文土器、古墳時代土師器・須恵器・土製品・鉄製品、奈良時代土師器・須恵器・鉄製品、近世土器・陶器	古墳時代後期(鬼高式)の竪穴建物跡・土坑、奈良時代の竪穴建物跡、中世土坑を検出した。
能満遺跡群(上人塚地点)	包蔵地	中世、近世	中世～近世溝5条	古墳時代土器、奈良・平安時代土師器・須恵器、中世土器	中世～近世溝を5条検出した。
仙台原遺跡	包蔵地	古墳時代、平安時代、中世、近世	古墳時代溝1条、中世土坑76基・溝6条・台地整形	縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器・須恵器、平安時代土師器・須恵器、中世土器・陶器・鉄製品、近世陶器・瓦・石製品、近現代瓦	中世の台地整形を検出した。また調査区全体的に中世の遺物が多数出土した。
要 約	<p>令和4年度は、北六原遺跡、中台遺跡(第5次)、郡本遺跡群(第29次)・市原城跡、稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡、島原遺跡(第2次)、能満遺跡群(上人塚地点)、仙台原遺跡の7地点の発掘調査を行った。本書では加えて、令和3年度後半に調査した北六原遺跡(確認調査)の成果についても掲載した。今回報告する7地点は市域北半部に集中している。位置的には、養老川右岸の市原台地上に5地点、袖ヶ浦台地上の椎津に1地点、その二つの台地を分断する養老川の段丘面に1地点となる。北六原遺跡では、平安時代(9世紀前半)の竪穴建物跡、奈良・平安時代の井戸状遺構が検出された。中台遺跡(第5次)では、弥生時代末～古墳時代前期(中台式～草刈1式)の溝が1条検出され、中台遺跡(第2次)で検出された溝と接続していることが確認できた。当時の集落域を区画する性格のものであった可能性がある。郡本遺跡群(第29次)・市原城跡では、平安時代(11世紀後半)の竪穴建物跡が多数検出され、土師器・須恵器の良好な一括資料が得られた。またその上層に11世紀後半～12世紀の整地層、中世～近世の整地層が確認された。整地層の中には光善寺廃寺系の瓦が多数混ざり込んでいた。稲荷台遺跡(R地点)・市原古道遺跡では、南北方向に延びる道路を検出した。道路は平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器の他に、中世陶器も出土していることから複数時期にまたがって使用されていた可能性がある。島原遺跡(第2次)では、古墳時代後期(鬼高式)の竪穴建物跡・土坑、奈良時代の竪穴建物跡を検出した。能満遺跡群(上人塚地点)では、中世～近世溝を5条検出した。仙台原遺跡では、中世の台地整形を検出した。また調査区全体的に中世の遺物が多数出土した。</p>				

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第60集

令和4年度 市原市内遺跡発掘調査報告

令和5年3月17日 発行

編集発行

市原市教育委員会
市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436(41)9000

印刷

株式会社 弘文社
千葉県市川市市川南2-7-2
TEL 047(324)5977